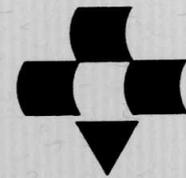


平成5年度

神戸市立博物館年報

No.11



☆目 次☆

沿 革	3
事業概要	
1 特別展示	
(1)第44回特別展	5
出品目録	8
(2)第45回特別展	13
出品目録	15
(3)第46回特別展	19
出品目録	22
(4)第47回特別展	33
出品目録	35
(5)第48回特別展	39
出品目録	41
(6)アーバンリゾートフェア神戸'93 関連展示会	43
2 企画展示	51
3 学習室・図書室	81
4 普及事業	82
5 事業一覧	83
収蔵資料	
1 新収資料	84
2 資料の特別利用	89
入館者数	90
日 誌	93
予 算	96
博物館協議会	96
組織・職員	97

事業概要

神戸市立博物館は、基本テーマである「国際文化交流－東西文化の接触と変容」のもとに常設展、企画展、特別展を開催し、また諸外国と関わりの深い資料の収集を行っています。

平成5年度は、「ルーヴル美術館200年展」「花と鳥たちのパラダイス展」「栄光のオランダ絵画展と日本展」「太山寺展」「アイルランド国立美術館展」の特別展を開催しました。特に、アーバンリゾートフェア神戸'93の年であり、そのオープン行事として開催した「ルーヴル美術館200年展」は594,835人という空前の入館者がありました。また、「トーマス・マックナイト展」「アーキテクチャ展・タイムトンネル神戸」「印象－神戸 絵画展」が関連展示会として当館で開催されました。「栄光のオランダ絵画展と日本展」は、館の自主企画の海外展として特別の意義がありました。

企画展として「黄檗美術展」「西洋人の描いた日本地図展」「古地図名品展」「南蛮美術名品展」「新収蔵品展」「装飾須恵器展」を、またギャラリーでは「神戸ゆかりの芸術家たち展」(3回)「川西英版画展」「浮世絵展」「山下摩起展」を開催いたしました。

普及事業として小・中学生向きの夏休み歴史散歩や土器づくり教室を実施した他、シャンソン・邦楽サロンを共催事業として実施いたしました。

主な新資料は、南蛮美術の分類で「洛中洛外図屏風」、古地図の分類で「伊能忠敬測量江戸実測図」、考古の分類で「鳥取県泊銅鐸複製」を収集いたしました。

所蔵資料の館外貸出は54件392点、特別利用は921件2,683点、開館日数は特別展185日常設展180日計283日でした。

入館者で見ますと、平成5年度は「ルーヴル美術館200年展」の影響で常設展の入館者が、49,622人、特別展の入館者619,896人計669,518人と記録的な人数となりました。また、普及事業による入館者は8,081人でした。

この年報によって平成5年度の事業の成果を少しでもご理解いただければ幸いです。

沿革

- 48. 9 神戸市立中央図書館・博物館等調査委員会設置(52.3までに博物館部会を19回開催、視察調査を6回実施)
- 50. 3 同委員会博物館部会が「神戸における博物館の基本構想」を答申
- 52. 3 東京銀行と同行神戸支店建物の博物館転用計画について合意
- 53. 4 教育委員会事務局社会教育部内に新中央図書館・博物館創設準備室を設置
- 7 博物館資料収集協力員を委嘱(各区1名、計9名)
- 8 神戸市立博物館創設準備会議を設置(以降7回開催)
- 54. 6 博物館展示計画検討会を設置(以降15回開催)
- 55. 3 東京銀行より同行神戸支店建物を受贈及び土地を買収
- 4 博物館創設準備室と改称
- 4 博物館創設担当参与に渡辺昭三就任
- 12 改造及び新築工事、着工
- 57. 3 竣工
- 4 神戸市立博物館条例公布
- 4 博物館組織発足
- 4 館長に井尻昌一前助役就任
- 7 神戸市立博物館規則公布
- 11 神戸市立博物館条例及び規則施行
- 11 開館記念式典、一般公開
- 11 南蛮美術館、考古館閉館
- 11~12 開館記念特別展「海のシルク・ロード」開催
- 58. 1~2 受贈記念特別展「南波松太郎氏収集 古地図の世界」開催
- 2 神戸市立博物館規則一部改正(博物館協議会)
- 2 副館長に壇上重光就任
- 2 神戸市立博物館協議会を設置
- 4~5 第3回特別展「神戸の文化財」開催
- 8~9 第4回特別展「びいどろ・ぎやまん」開催
- 10~11 第5回特別展「古地図にみる世界と日本」開催
- 59. 4~5 第6回特別展「眼鏡絵と東海道五拾三次展」開催
- 8~9 第7回特別展「中国蘇州年画展」開催
- 10~11 第8回特別展「更紗の世界展」開催
- 12 第9回特別展「ヨーロッパのジュエリー」展開催
- 60. 6~8 第10回特別展「中国五千年の秘宝展」開催
- 8~9 第11回特別展「秘蔵の至宝を一堂に 展」開催
- 11~12 第12回特別展「高句麗文化展」開催
- 61. 1~2 第13回特別展「桃山時代の祭礼と遊楽」開催
- 4~5 第14回特別展「ワーダベ写真展」開催
- 6~7 第15回特別展「西洋の風景展」開催
- 7~8 第16回特別展「狩人の夢」開催
- 62. 1~2 第17回特別展「甦る幕末写真展」開催
- 4~5 第18回特別展「日本絵画名作展」開催

62. 6~7 第19回特別展「神戸はじめ物語展」開催
 8~9 第20回特別展「ジョルジュ・ビゴー展」開催
 10~11 第21回特別展「明治のガラス展」開催
63. 4~5 第22回特別展「ジャワ更紗展」「江戸城壁画の下絵」開催
 6~7 第23回特別展「中世を旅する聖たち展」開催
 10~12 第24回特別展「アイルランド・チェスター・ビーティー・コレクション
 日本絵画名作展」開催
- 元. 2~3 第25回特別展「神戸ゆかりの巨匠たち展」開催
 4~5 第26回特別展「桂林百景展」開催
 7~9 第27回特別展「大三彩展」開催
 9~11 第28回特別展「松方コレクション展」開催
- 11 井尻昌一館長退任
 12~2 受贈記念特別展「秋岡古地図コレクション名品展」開催
2. 2~3 受贈記念特別展「小磯良平展」開催
 2. 4 名誉館長に宮崎辰雄前市長就任
 船田史郎事務局長、副館長を兼務
 7~9 第31回特別展「THE びいどろ展—江戸時代のガラス・粋と美—」開催
- 10~11 第32回特別展「手塚治虫展」開催
 11~12 第33回特別展「没後 100年記念チャールズ・ワーグマン展」開催
3. 2~3 第34回特別展「隠元禪師生誕 400年記念 隠元禪師と黄檗宗の絵画展」開催
 4~5 第35回特別展「ルイス・C・ティファニー展」開催
 7~9 第36回特別展「ポスター芸術 100年展」開催
 9~10 第37回特別展「神戸市立博物館名品 100選」開催
 10~12 第38回特別展「ジャンニ・ベルサーチ衣装文化展」開催
4. 2~3 第39回特別展「南蛮見聞録」開催
 3 壇上重光副館長・船田史郎副館長兼事務局長退任
 4 副館長兼事務局長に林伸次郎就任
 4~5 第40回特別展「中国明清名画展」開催
 5 副館長に崎山昌廣就任
 6~7 第41回特別展「正倉院の故郷—中国の金・銀・ガラス展」開催
- 10~12 第42回特別展「森英恵とパリオートクチュール」開催
5. 1~3 第43回特別展「銅鐸の世界」開催
 2. 20 開館10周年記念講演会（講師 陳舜臣氏）開催
 3~5 第44回特別展「ルーヴル美術館 200年展」開催
 5~6 第45回特別展「花と鳥たちのパラダイス展」開催
 アーバンリゾートフェア'93 「トーマス・マックナイト展」開催
 7~9 第46回特別展「栄光のオランダ絵画と日本展」開催
 アーバンリゾートフェア' 神戸93
 「アーキテクチャ・フェアK O B E・タイムトンネル神戸展」開催
 9~10 アーバンリゾートフェア' 神戸93「印象—神戸絵画展」開催
 11~12 第47回特別展「太山寺の名宝展」開催
6. 2~4 第48回特別展「アイルランド国立美術館展」開催

事業概要

1 特別展示

(1) 第44回特別展

ルーヴル美術館 200年展

—ヨーロッパ絵画の精華—日本初公開—

・内容／

ヨーロッパの国立美術館の中でも最も古い歴史を持つルーヴル美術館の開館 200周年を記念して行うフランス国外唯一の美術展で、アーバンリゾートフェア神戸'93 のオープニングイベントとして開催された。

展示作品は、ルーヴル美術館の6,000点を超えるヨーロッパ絵画のコレクションの中から選りすぐった西欧絵画の傑作87作家の95点。

「ルーヴルのコレクション形成の経緯を出品作品を通して展覧する」というこれまでにない画期的な試みで、フランス絵画の黄金期 400年の作品を中心に、イタリア、オランダ、スペイン、ドイツなど周辺諸国の有名作家の作品を加えて、歴史を色濃く映した収集史を名画で振り返るとともに、16世紀から19世紀に至る西洋美術の華麗な歩みを大別して5つのグループで紹介した。

ベラスケス、ダヴィッド、ドラクロアら巨匠たちの作品も数多く含まれ、そのほとんどが日本初公開。これほど多くの絵画作品がひとつの展覧会のために貸し出されるのはルーヴル美術館始まって以来のことであり、200周年にふさわしい空前絶後の絵画展となった。

- ・会 期／平成5年3月20日（土）～5月9日（日）
- ・会 場／特別展示室1、南蛮美術室、特別展示室2、ギャラリー
- ・休 館 日／毎週月曜日及び4月30日（金）（ただし、5月3日（月）は開館）
- ・主 催／神戸市立博物館、ルーヴル美術館、日本経済新聞社
- ・後 援／外務省、文化庁、フランス大使館、フランス教育文化省
- ・特別協賛／アーバンリゾートフェア神戸'93 推進協議会
- ・協 賛／株式会社第一勧業銀行、日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・特別協力／安田火災海上保険株式会社
- ・協 力／日本航空
- ・入館料（当日・一般）／1300円

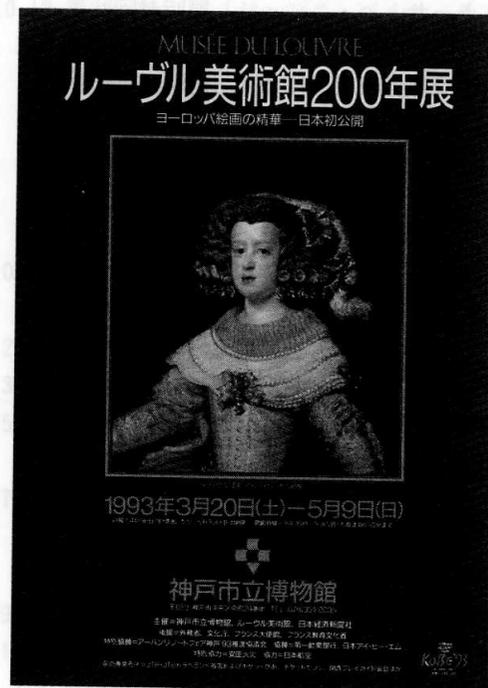
- ・組織責任者／ピエール・ロザンペール（ルーヴル美術館絵画部門部長）
クローディ・ルソール（ルーヴル美術館絵画部門記録整理係）
ブリジット・ガリーニ（美術史家・ルーヴル美術館絵画部門特別職員）
- ・日本側監修者／高階秀爾（国立西洋美術館長）
- ・開催日数／44日
- ・入館者数／594,835人〔1日最高入館者 25,535人（5月3日）（13,519人／日）〕
- ・出品点数／95点
- ・開会式／3月19日（金）
- ・記念講演会／3月20日（土）

講師 ピエール・ロザンペール（ルーヴル美術館絵画部門部長）

- ・運営組織／運営本部
 - 神戸市立博物館 管理課
 - 日本経済新聞社 事業部

館内外整理＝(株)ケン&スタッフ 館内外警備＝関西ユナイテッドプロテクション
券売・団体＝ジェイコム・JTB 展示室監視＝神戸国際ステージサービス
受付＝ミュージェンヌ 事務局＝日本経済新聞社

- ・その他／混雑緩和のため4月29日（木）より最終日まで開館時間が10時から17時を9時30分から18時（入館は17時30分まで）に変更した。



ポスター



図録

MUSÉE DU LOUVRE ルーヴル美術館200年展

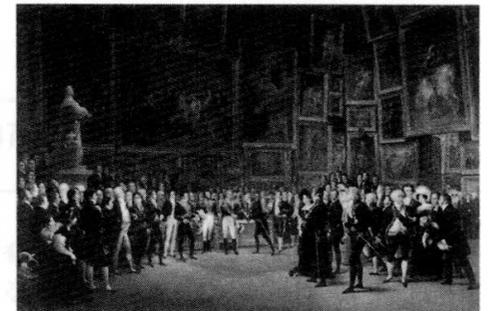
世界有数の規模と内容を誇るルーヴル美術館は、1993年に開館200年という記念的な年を迎えます。フランス革命直後の1793年8月10日、「中央美術館」として創設され、旧王室コレクションを一般公開したことが歴史的な起源で、その後ナポレオンの登場や王政復古など政治的、社会的変動を超え、美術館としての体制と収蔵品の拡充がはかられ、世界の美術館として名実ともにその体裁を整えてきました。そして、21世紀を目前にした現在、ルーヴル宮全体を美術館に改造する壮大な「ルーヴル大改造計画」が進んでおり、1993年秋には完成の予定です。これを機にルーヴル美術館は新たな飛躍の時期を迎えます。

本展は、このルーヴル美術館開館200周年を記念し、同館の絶大な理解と協力によって実現可能となったもので、ルーヴル美術館から95点もの絵画の名作が国外に出陳されるのは稀有なことです。

展覧会の構成は、ルーヴルのコレクション形成の経緯を、出品作品を通して紹介するもので

- ①王室コレクション(21点)
- ②フランス革命期から第二帝政末にいたる芸術政策(26点)
- ③大コレクター、ルーヴル友の会による寄贈(25点)
- ④歴代学芸部長の選択と代物弁済(15点)
- ⑤描かれたルーヴルの歴史(8点)……の五部門からなります。

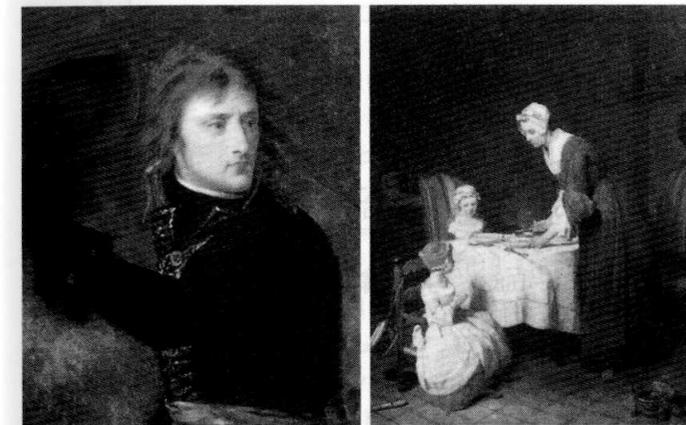
収蔵品には、フランス革命期に亡命貴族から没収した作品、ナポレオンの戦利品、納税者が物納した作品、大貴族・富豪からの寄贈作品など、歴史を色濃く映したルーヴル美術館の収蔵史が生々しく浮かびあがります。と同時に16～19世紀西欧美術の華麗な歩みを改めて紹介します。



エーム「ルーヴルで1824年のサロン出品者たちに褒賞を与えるシャルル10世」



クロード・ロラン「港、霧の効果」



クロ「アルコール橋のボナパルト」

シャルダン「食前の祈り」



アングル「アンジェリカを救うルッジェーロ」

●主な出品作品

- アングル……………「アンジェリカを救うルッジェーロ」
- グロ……………「アルコール橋のボナパルト」
- フォンテーヌブロー派……………「化粧するヴィーナス」
- シャルダン……………「食前の祈り」
- フランス・バルス……………「リュートを持った道化」
- ラトゥール……………「聖トマス」
- ベラスケス……………「王女マリア・テレーサの肖像」
- ブッサン……………「大バッカス祭」
- クロード・ロラン……………「港、霧の効果」
- ヴェロネーゼ……………「子供と犬を連れた婦人の肖像」
- ブーシェ……………「田園生活の魅力」
- ミニヤール……………「葡萄の房を持つ聖母」
- ル・ブラン……………「聖家族（食前の祈り）」

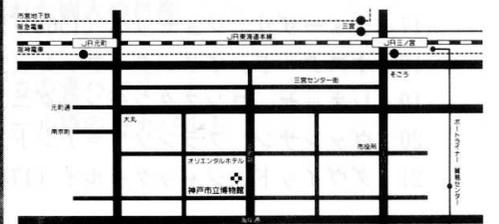
●観覧料金

観覧料金	当日	割引	前売	団体
一般	1,300円	1,200円	1,100円	1,000円
高校・大学生	1,000円	900円	800円	700円
小・中学生	500円	450円	400円	350円

団体は30名以上(割引は割引引換券持参者に限る)

●お問い合わせ先

神戸市立博物館
〒650神戸市中央区京町24番地 TEL.(078)391-0035
日本経済新聞社大阪本社 事業部
〒540大阪市中央区大手前1-1-1 TEL.(06)943-7111
○土・日・祭日は混雑が予想されますのでなるべく平日にご覧下さい。



I 国王のコレクション (16~18世紀) [No.1~21]

フランス国王・フランソワ1世(1494~1547)は、イタリアの画家や流派をフランスに紹介した熱心なパトロンであり、コレクターでもあった。フランソワ1世のフォンテーヌブロー宮造営の際に内部装飾を担当した美術家たちは、第1次フォンテーヌブロー派と呼ばれ、数多くのフランス人美術家の中で成長した。1682年に宮廷がヴェルサイユに落ち着いたルイ14世の治世では、国王のコレクションに一定の割合で絵画が入るようになり、その内容はシャルル・ル・ブランが1683年に作成しはじめた財産目録によって知られている。今日のルーヴル美術館デッサン室における重要な5000点あまりのデッサンが、国王のコレクションに加わったのも17世紀後半のことである。18世紀、ルイ16世の治世下に、世論が国王のコレクションを公共の場に開放することを求めるようになると、ルーヴル宮殿のグランド・ギャラリーに公共の美術館を設置する準備がはじまり、約200点の絵画を含む美術品が新たに購入された。これによって、オランダ・フランドル絵画部門が充実した。

- 1 フラ・バルトロメオ(1475-1571) 我に触れるなかれ
- 2 ヴーエ、シモン(1590-1649) 富のアレゴリー
- 3 ミニャール、ピエール(1612-1695) 葡萄の房を持つ聖母
- 4 ヴァランタン(ド・ブローニュー、ジャン)(1591-1632) 女占い師
- 5 バッサーノ、ジェローラモ(1566-1621) 葡萄の取り入れ
- 6 ロラン、クロード(ジュレ、クロード)(1602頃-1682) 港、霧の効果
- 7 ブリル、パウル(1554-1626) 洗礼者ヨハネのいる風景
- 8 ドメニキーノ(ザンピェリ、ドメニコ) リナルドとアルミーダ
- 9 カラッチ、アンニバーレ(1560-1609) 聖ステパノの石打ち
- 10 プッサン、ニコラ(1594-1665) 大バッカス祭
- 11 ゲルチーノ(バルビエーリ、ジョヴァンニ・フランチェスコ)(1591-1666) 聖ペテロの涙
- 12 ブーシェ、フランソワ(1703-1770) 田園生活の魅力
- 13 ナティエ、ジャン=マルク(1685-1756) 砂漠のマドレーヌ(マグダラのマリア)
- 14 コワベル、シャルル=アントワーヌ(1694-1752) アンドロメダを救うペレセウス
- 15 ドルーエ、フランソワ=ユベール(1727-1775) アルトワ伯爵と妹クロチルド
- 16 カスティリオーネ、ジョヴァンニ・ベネデット(1609-1663/5) アブラハムとメルキセデクの出会い
- 17 チェーザリ、ジュゼッペ(1568-1640) 楽園を追放されたアダムとエヴァ
- 18 オスタード、イサーク・ファン(1621-1649) 冬、氷の上でスケートをする人々
- 19 レネッセ、コンスタンチン=ダニエル・ファン(1626-1680) よきサマリア人
- 20 ヴァンサン、フランソワ=アンドレ(1746-1816) パリに食料を運び込ませるアンリ4世
- 21 ダヴィッド、ジャック=ルイ(1748-1825) ホラティウス兄弟の誓い(下絵)

II 革命期から第二帝政期末(1793~1870)までの芸術政策によるコレクション [No.22~47]

ルーヴル美術館では、王室コレクションが主要な核をしているが、教会と亡命貴族から差し押さえた作品も、質量ともに重要なものである。教会・修道院の所蔵品は、大型の作品・フランス人画家の作品・キリスト教を主題とする作品という3つの特徴をもつ。これらの特徴によって、それまでの王室コレクションにあまり含まれていない17~18世紀のキリスト教を主題とする大作が美術館に入った。亡命貴族、反革命派の人々の所有物を差し押さえた作品の数々は、当時、美術愛好家の間で流行した趣味を繁栄しており、作品の多様さという点で、先の教会のコレクションの特徴とは全く異なっている。

ルイ14世が設立した王立絵画彫刻アカデミーが1793年末に廃止されると、王立アカデミーに関するコレクションが、ルーヴル美術館に受け継がれた。しかし、今日ではほとんど散逸してしまっている。

王室の収蔵品に、押収品・アカデミーのコレクションが加わることによって、ルーヴル美術館は偉大な国際的美術館となった。

- 22 ル・ブラン(1619-1690) 聖家族(食前の祈り)
- 23 リゴー、イアサント(1659-1743) シャルル・ル・ブランとピエール・ミニャール
- 24 ヴェロネーゼ、パウロ(1528-1588) ソドムの町を逃れるロトの一家
- 25 ペイロン、ジャン=フランソワ=ピエール(1744-1814) ミルティアデスの葬儀
- 26 ヴエルネ、クロード=ジョゼフ(1714-1789) 海景、月明かり
- 27 ブルドン、セバスティアン(1616-1671) 偶像に生贄を捧げるソロモン
- 28 プッサン、ニコラ(1594-1665) キューピッドたちの合奏
- 29 ガルディ・フランチェスコ(1712-1793) ヴェネツィア総督たちの隊列
- 30 リンゲルバッハ、ヨハネス(1622-1674) ローマの青物市場
- 31 ヴユエ、アルヌー・ド(1644-1720) フランス王太子とマリー=アンヌ=クリスティーヌ=ヴィクトワール・ド・バヴィエールの結婚のアレゴリー
- 32 ド・パール、ボナヴァンテュール(1700-1729) 田園の宴
- 33 ドラポルト、アンリ=オラス=ロラン(1724/5-1793) 瑠璃の壺、地球儀とミュゼット
- 34 ベレグリーニ、ジャン、アントニオ(1675-1741) キューピッドを教育する絵画とデッサン
- 35 トケ、ルイ(1696-1772) ルモワヌの肖像
- 36 ラグルネ、ルイ・ジャン・フランソワ(1725-1805) ディアネイラ略奪するネッソス
- 37 ド・マシー、ピエール=アントワーヌ(1723-1807) 廃墟の寺院
- 38 ウェーニクス、ヤン(1642-1719) 小物売りのいる南海の港
- 39 ヴェロネーゼ、パウロ(1528-1588) 子供と犬を連れた婦人の肖像
- 40 スケドーネ、バルトロメオ(1578-1615) 聖家族
- 41 タイヤソン、ジャン=ジョセフ(1745-1809) セネカの妻バオリーナ
- 42 グロ、アントワーヌ=ジャン(1771-1835) アルコール橋のボナパルト

- 43 ゲラン、ピエール＝ナルシス (1774-1833) ファイドラとヒッポリュトス (下絵)
 44 グラネ、フランソワ＝マリウス (1775-1849) ローマのコロセウムの内観
 45 ジェリコー、テオドール (1791-1824) メデューズ号の筏 (下絵)
 46 アングル、ジャン＝オーギュスト＝ドミニック (1780-1867) アンジェリカを救うルッ
 ジェーロ
 47 コロー、ジャン＝パティスト＝カミーユ (1796-1875) イタリア人の山羊飼い

Ⅲ 大コレクター、ルーヴル友の会寄贈作品によるコレクション

[No.48~72]

1789年のフランス革命以降、数回にわたる変革を経て、ルーヴル美術館は市民の手へ受け継がれてきた。このことはルーヴルの寄贈者と寄贈作品の数の多さに顕著に現われている。約2世紀の間に2700人にのぼる寄贈者が、数万点という膨大な数の作品を寄贈した。寄贈者は、国家・有力者・金持ち・知識人・遺産相続者・芸術家の遺族などである。数ある寄贈作品が、ルーヴルの手薄な部分(例:18世紀フランス派)を次々と補強してきたといえる。本展出品95点中、20点以上は寄贈によるものである。

また、ルーヴルでは、芸術保護者としての「ルーヴル友の会」が運営されている。同会は、1879年、「美術館がコレクション充実のために自由に使える財源の乏しき」を憂慮して設立され、今日に至っている。例えば、『聖トマス』(No.68)、『モデルのポーズ』(No.72)は2年前に同会により購入されたルーヴルに寄贈されたものである。

- 48 ジャルダン、ジャン＝パティスト＝シメオン (1699-1779) 食前の祈り
 49 ジャルダン、ジャン＝パティスト＝シメオン (1699-1779) 葡萄の籠
 50 ベラスケス、ディエゴ (1599-1660) 王女マリア・テレサの肖像
 51 コンスタブル、ジョン (1776-1837) 雷雨迫るウエーマス湾
 52 フォンテーヌブロー派 化粧するヴィーナス
 53 ボニントン、リチャード・パークス (1802-1828) ヴェネツィア風景
 54 ボルドーネ、パリシ (1500-1571) フローラ
 55 ドービニ、シャルル＝フランソワ (1817-1878) オブテヴィス水門
 56 フロマンタン、ウジェーヌ (1820-1876) アルジェリアの鷹狩り
 57 コロー、ジャン＝パティスト＝カミーユ (1796-1876) コローのアトリエ
 58 ドラクロワ・ウジェーヌ (1798-1868) サルダナパールの死 (下絵)
 59 ホーホストラテン、サミュエル・ファン (1627-1678) スリッパ
 60 ヴァランシェンヌ、ピエール＝アンリ・ド (1750-1819) アラ・コエリ修道院、笠松
 61 グラーフ、アントン (1736-1813) クリストフ・ウルバノウスキ伯爵
 62 シャセイリオ、テオドール (1819-1856) アラブ騎兵の戦い
 63 ル・ナン、ルイ／アントワーヌ (1600頃-1648) 洗礼から戻って
 64 ドラクロワ、ウジェーヌ (1798-1868) 若い女性を連れ去るアフリカの海賊
 65 フラゴナール、ジャン・オノレ (1732-1806) エチュード
 66 ル・シュヴァール、ウスタッシュ (1616-1655) コリオラヌスの前のウオルムニアとウェ
 トウリア

- 67 ティエポロ・ジョヴァンニ・パティスタ (1696-1770) 聖母の教育
 68 ラ・トゥール、ジョルジュ・ド (1593-1652) 聖トマス
 69 ドラクロワ、ウジェーヌ (1798-1868) アトリエの一隅 (ストープ)
 70 ヴィニョン、クロード (1593-1670) 若い歌手
 71 スペッケルト、ハンス (?-1577) ダマスカスへの途上での聖パウロの改心
 72 タラヴェルシ、ガスパール (1722頃-1770) モデルのポーズ

Ⅳ 歴代学芸部長の選択と代物弁済によるコレクション [No.73~87]

1850年以降、ルーヴル美術館を「世界で最も素晴らしいもの」にするために、学芸員は財源不足の時も中断することなく、優れた真作を入手するよう努力してきた。第二次世界大戦後も質量ともに作品の購入はますます拡大して行き、現在に至っている。

また、美術品の流出をくいとめるために、「代物弁済」(通貨ではなく美術品等を税として納める制度)によって、芸術的・歴史的に高い評価をもった美術品・書籍・記録文書等が国有財産化された。これらはフランスの美術館や博物館に保管され、一般に公開されている。現在、この制度は他の国でも採用されている。

美術館における学芸員の位置やその役割について、画家や画商の方がその任務により適しているのではないかという議論は、19世紀初頭からあったが、今日ではそれはほとんど問題にされなくなった。学芸員には地味な作業や調査が要求され、その中から選ばれる美術館長には文化的・政治的に多くの役割が求められるようになって来ているのである。

- 73 グルーズ、ジャン＝パティスト (1725-1805) 作家の肖像
 74 スルバラン、フランシスコ・デ (1598-1664) 聖女アポロニア
 75 レーバーン、ヘンリー (1756-1823) ヘイ・オブ・スポット指揮官
 76 ブランシャール、ジャック (1600-1638) 人間に驚くヴィーナスと三美神
 77 ゴヤ、フランシスコ (1746-1828) 羊の頭のある静物
 78 デュゲ、ガスパール (1615-1675) ローマのカンパーニャ風景
 79 ライト・オブ・ダービー (ライト、ジョゼフ) (1734-1797) 夕映えのネミ湖風景
 80 ノールド、ヤン・ファン (1620頃-1676) テベレ川を渡るクレリー
 81 マウルベルチュ、フランツ・アントン (1724-1796) 受胎告知
 82 マンフレディ、バルトロメオ (1582-1622) 凱旋するダヴィデ
 83 プリュードン、ピエール＝ポール (1758-1823) 眠れるローマ王
 84 ハルス、フランス (1581~85頃-1666) リュウートを持った道化
 85 フラゴナール、ジャン・オノレ (1732-1806) 乞食の夢想
 86 ウードリー、ジャン＝パティスト (1686-1755) 静物
 87 ランクレ、ニコラ (1690-1743) 水浴の楽しみ

V 描かれたルーヴルの歴史 [No.88~99]

ルーヴルの美術館の起源は、12世紀末フィリップ＝オーギュスト王の城塞に始まる。その後、王の住居となり、16～17世紀にかけて拡張・増改築が行われた。なかでも16世紀末、アンリ4世による「大計画」は今日のルーヴル宮のかたちを決定づけるものであった。つまり、ルーヴルとその隣にあったチュイルリー宮とを460メートルもの長大なギャラリーで結びつけて、1つの宮殿にしようとしたものである。その後、アンリ4世の暗殺によって工事は中断されたが、ルイ14世の時代に再会され、「方形宮」ならびにファサード（宮殿正面部）建設、宮殿内部の装飾とともに宮殿の再整備が行われた。17世紀後半にルイ14世がヴェルサイユに居城を移したため、工事は完成されなかったが、放置されたルーヴルは王位アカデミーの活動の場となった。ルーヴルはまた、国王のコレクションの公開の場ともなり、文化的役割を果たすようになった。アカデミー会員の作品による定期的な展覧会「サロン」の名称は、大サロン・カレ（方形の間）からとられ、この種の展覧会が「サロン」と呼ばれたことはこれに由来する。

ルイ16世の治世下に、ルーヴルは将来、博物館としての機能を果たす目的で修復され、作品が購入された。その後、ルーヴルはフランス革命直後の1793年8月10日、「中央美術館」として創設され、旧王室コレクションを一般公開したことが歴史的な起源となった。その後ナポレオンの登場や、王政復古など政治的・社会的変動を超え、美術館としての体制と収蔵品の拡充がはかられ、世界の美術館として名実ともにその体裁を整えた。

- 88 モメール、ヘンドリック（1623頃-1693） ポン・ヌフから見たルーブル
- 89 ロベール、ユベール（1733-1808） グランド・ギャラリーの改造計画
- 90 ロベール、ユベール（1733-1808） 廃墟となったグランド・ギャラリーの想像図
- 91 エーム、フランソワ＝ジョゼフ（1787-1865） ルーヴルで1824年のサロン出品者たちに褒賞を与えるシャルル10世
- 92 ガスティリオーネ、ジュゼッペ（1829-1906） ルーヴル美術館のサロン・カレ
- 93 プリュードン、ピエール＝ポール（1758-1823） ジュピターに懇願するディアナ
- 94 メニエ、シャルル（1768-1832） フランス絵画の勝利
- 95 ミュレル、シャルル＝ルイ（1815-1892） 趣味

(2) 第45回特別展

花と鳥たちのパラダイス

—江戸時代長崎派の花鳥画—

・内 容／

花と鳥—このふたつは古来、パラダイス（楽園あるいは理想郷）のシンボルとして人々に深く愛され、親しまれてきた。浦島太郎が訪れた龍宮城には四方四季の庭園があって、四季の花鳥を一時に楽しむことができたという伝説は、そのことを端的に物語る。

花鳥画は、そのパラダイスの風情を室内にしながら楽しむことのできるインテリアとして発展してきた。本展ではその長い歴史の中から江戸時代長崎派と呼ばれる画家たちの描いた写実的かつ装飾的な花鳥画の流れを取り上げた。

享保16年（1731）、長崎へ降り立った一人の中国人画家・沈南蘋によって伝えられたこの新しい花鳥画様式は、またたくまに日本中を席卷し、上は大名武家から下は庶民に至るまで、幅広い階層の人気を得た。「パラダイスをもっと身近に」と願った人々の思いに支えられた、そのカラフルな諸相を概観した。

・会 期／平成5年5月22日（土）～6月27日（日）

・会 場／特別展示室1、南蛮美術室

・主 催／神戸市立博物館・神戸新聞社

・後 援／神戸商工会議所・「花あふれる街・神戸」実行委員会

・協 賛／(助)神戸市公園緑化協会

・開館日数／32日

・出品点数／121点

・入館者数／14,552人(455人／日)

・同時開催／トーマス・マックナイト展



ポスター



図録



熊斐筆 清泉白鶴図(本館蔵)



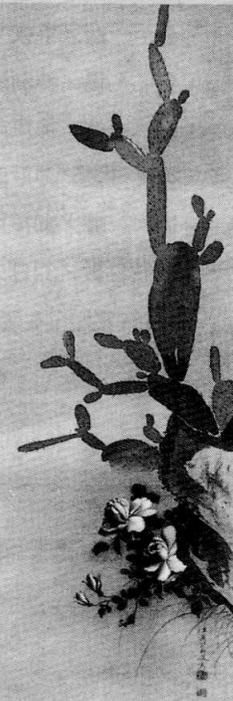
宋紫石筆 聯珠争光図(本館蔵)



戸田忠翰・森蘭齋合作 岩浪仙鶴図(個人蔵)



三谷東亭筆 インコ図(個人蔵)



司馬江漢筆 サボテン図(個人蔵)

本展は江戸時代の中期以降、長崎派と呼ばれた画家たちの花鳥画約100点を集めます。

この画風は、享保16年(1731)長崎へ降り立った中国人画家・沈南蘋によって伝えられました。草花や鳥獸を描く彼のミクロな表現には、明晰な写実への志向が見られ、日本ではそれが新鮮なスタイルとして人気を博します。さらに彼の作品には、明瞭な吉祥の意味がありました。漢字の音通による語呂あわせを使い、花鳥に託して中国のおめでたいことわざを表現した画題の謎ときをする楽しさも、彼地の文化に憧れる日本人にとってはまた魅力のひとつだったのです。

南蘋に学んだ長崎の画家・熊斐、さらにその弟子の宋紫石、森蘭齋、鶴亭、岩井江雲らの登場で、南蘋画風は長崎から日本中へと広まります。のち西洋画法を手がける司馬江漢や6万石余の大名・戸田忠翰(宇都宮城主)など、さまざまな人々がこの画風の洗礼を受けました。本展はこうした画家たちの紹介と、画題の吉祥の意味の解明を2つのテーマとして御覧いただきます。

I 沈南蘋と中国から来た画家たち

• 沈南蘋	1 丹鳳朝陽図	雍正13年(享保20・1735)	絹本着色	1幅	
	2 芝仙祝寿図	乾隆15年(寛延3・1750)	絹本着色	1幅	
	3 双鶴捧寿図	乾隆23年(宝暦8・1758)	絹本着色	1幅	長崎市立博物館
	4 月梅図		絹本墨画	1幅	
• 高乾	5 白梅白頭翁図 沈草亭賛		絹本着色	1幅	長崎県立美術館
• 高鈞	6 四季花鳥図巻		絹本着色	1巻	京都国立博物館
• 鄭培	7 風牡丹図		絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	8 パラ白頭翁図 竺庵浄印賛	乾隆15年(寛延3・1750)	紙本淡彩	1幅	
	9 百虫図巻 市河米庵題・頼山陽跋		絹本着色	1巻	長崎県立美術館
• 梁基	10 長春富貴図	乾隆39年(安永3・1774)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
• 方西園	11 梅に白頭翁図	乾隆46年(天明元・1781)	紙本墨画	1幅	長崎県立美術館
• 江稼圃	12 菊石図	嘉慶10年(文化2・1805)	絹本墨画	1幅	神戸市立博物館
• 張秋穀	13 芙蓉・梅に万年青図	嘉慶21・22年(1816・1817)	絹本淡彩	2幅	

II 熊斐とその弟子たち

• 熊斐	14 清泉白鶴図	宝暦4年(1754)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	15 一路功名図		絹本淡彩	1幅	神戸市立博物館
	16 仙鶴遐齡図		絹本淡彩	1幅	
	17 登龍門図(桃に騰鯉図)		絹本着色	1幅	長崎市立博物館
	18 牡丹に蝶図		絹本着色	1幅	
• 森蘭齋	19 松鶴・叭々鳥・桃図		絹本着色	3幅	
	20 一路功名図		紙本淡彩	1幅	
	21 墨牡丹図 梁田象水賛寛政5年(1793)		絹本墨画	1幅	神戸市立博物館
	22 森蘭齋・戸田忠翰合筆 岩浪仙鶴図		絹本着色	1幅	
	23 森蘭齋・文亀合筆 寿老人・鶴鹿図		絹本着色	3幅	
• 大友月湖	24 双鶴図		絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	25 鷓鴣捉魚図		紙本墨画	1幅	神戸市立博物館
• 岩井江雲	26 牡丹蝶図		絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	27 岩牡丹図		絹本着色	1幅	
• 岩井江琳	28 鷹叭々鳥図		絹本着色	1幅	
• 松林山人	29 墨牡丹図巻 柴野栗山題		絹本墨画	1巻	
• 宋紫石	30 雪中仙蓮図		絹本着色	1幅	
	31 紅牡丹図	宝暦13年(1763)	絹本着色	1幅	
	32 紅牡丹図	宝暦14年(1764)	絹本着色	1幅	
	33 聯珠争光図	明和2年(1765)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	34 柳に鶏図	明和7年(1770)	絹本着色	1幅	長崎県立美術館
	35 一路功名図	安永8年(1779)	絹本着色	1幅	
	36 乗龜仙人・松竹鶴図		絹本着色	3幅	
• 宋紫山	37 芙蓉双鴨・雪中雉図		絹本着色	2幅	松浦史料博物館
• 宋紫岡	38 梅に金鳩図		絹本着色	1幅	神戸市立博物館
• 鶴亭	39 雪笹図	寛延4年(1751)	絹本墨画	1幅	
	40 紅白菊図	宝暦10年(1760)	絹本着色	2幅	
	41 芭蕉太湖石白鷗図		絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	42 旭日双鶴図	明和8年(1771)	絹本着色	2幅	
• 江越繡浦	43 三千歳図		絹本着色	1幅	長崎県立美術館
• 真村芦江	44 一路功名図		紙本淡彩	1幅	

III 江戸の長崎派

• 黒川亀玉	45 白梅黄鳥図		絹本着色	1幅	
• 三代黒川亀玉	46 葦に翡翠図		紙本淡彩	1幅	
• 諸葛監	47 翠柳芙蓉白鷺小禽図	明和2年(1765)	絹本着色	1幅	神戸市立博物館
	48 白梅パラ白頭翁図		絹本着色	1幅	
	49 海棠白頭翁図		絹本着色	1幅	

作者	No.	作品名	時代	所蔵先
・鸞 卿	50	梅に綬帯鳥図		絹本着色 1幅
	51	芭蕉白頭翁図		紙本着色 1幅 神戸市立博物館
・建部 凌岱	52	五寿図		絹本着色 1幅
	53	枯木群鷺図		紙本淡彩 1幅
・北山 寒巖	54	木蓮文鳥図		紙本淡彩 1幅
・千葉 龍卜	55	牡丹に猫図		絹本着色 3幅 神戸市立博物館
	56	群禽図		絹本着色 1幅
・司馬 江漢	57	溪流小禽図		絹本淡彩 1幅
	58	バラにサボテン図		絹本着色 1幅
・鍋木 梅溪	59	桐に双禽図	寛政4年(1792)	絹本着色 1幅 長崎県立美術館
・広渡 湖秀	60	桃鹿・巖浪双鶴図		紙本着色 2幅 神戸市立博物館
	61	双鶴図 大田南畝賛		紙本淡彩 1幅
・渡辺 玄対	62	鶴・寿老人図		絹本着色 3幅
・岡田 閑林	63	松鶴図		絹本着色 1幅
	64	水上桜図		絹本着色 1幅

IV 上方の長崎派

・柳沢 淇園	65	蘭と洋梨図		絹本着色 1幅
・伊藤 若冲	66	松鶴図		紙本墨画 1幅
・岸 駒	67	バラ白鷺図		絹本着色 1幅
・三谷 東亭	68	インコ図	宝暦9年(1759)	絹本着色 1幅
・佚 山	69	梅に吠々鳥図	明和元年(1764)	紙本淡彩 1幅 大阪市立博物館
	70	百寿百福図	明和5年(1768)	紙本墨画 1幅
	71	紫陽花群禽図		絹本着色 1幅
・銭 必 東	72	芥子小禽図	宝暦8年(1758)	絹本着色 1幅
・金谷 三石	73	芙蓉鷹小禽図		絹本着色 1幅
	74	新柳吠々鳥図		絹本着色 1幅
・三熊 花 類	75	桜に蛙図		絹本着色 1幅
・林 閻 苑	76	芭蕉九官鳥図		絹本着色 1幅
・藤 九 鸞	77	鴛鴦図	文化4年(1807)	絹本着色 1幅
・雄川 白麟	78	朝顔小禽図		絹本着色 1幅

V 各地方へのひろがり

・佐々木原善	79	牡丹金鶏図		絹本着色 1幅
・藤田 錦江	80	牡丹白頭翁図	安永2年(1773)	絹本着色 1幅 長崎県立美術館
	81	白梅尾長鳥図		絹本着色 1幅
	82	鉢南天に白頭翁図		絹本着色 1幅
・山田 宮 常	83	牡丹に白頭翁図		絹本着色 1幅 神戸市立博物館
・鶴 洲	84	松上鶴図		絹本着色 1幅
	85	白梅黄鳥図		絹本墨画 1幅 神戸市立博物館
・雀 亭	86	牡丹岩小禽図		絹本着色 1幅
・土方 稻嶺	87	桃に金鳩図		絹本着色 1幅
	88	白梅牡丹吠々鳥図		絹本着色 1幅 京都国立博物館
・洞 楊 谷	89	菊慈童図		絹本着色 1幅 長崎県立美術館
・岡 岷 山	90	牡丹蝶・牡丹小魚図		絹本着色 2幅
・朝倉 南陵	91	木蓮にインコ図		絹本着色 1幅

VI 長崎の画人たち

・広渡 湖秋	92	バラに鷹図		絹本着色 1幅
・松井 慶徳	93	海棠白頭翁図		絹本着色 1幅 神戸市立博物館
・渡辺 秀之	94	松下双鶴図		絹本着色 1幅
・石崎 融思	95	石崎融思・元徳合筆 梅に黄鳥図	文政10年(1827) 融思補筆	絹本着色 1幅 長崎市立博物館
	96	梅に白頭翁図	文政2年(1819)	絹本着色 1幅 長崎県立美術館
	97	桃に綬帯鳥図	天保4年(1833)	絹本着色 1幅 長崎市立博物館
・渡辺 鶴洲	98	菊石図		絹本着色 1幅
・渡辺 秀乾筆	99	群禽図		絹本着色 1幅 長崎市立博物館

作者	No.	作品名	時代	所蔵先
・村田 鶴阜	100	七福神図		絹本着色 1幅 長崎県立美術館
VII とのさま芸の世界				
・柳沢 伊信	101	牡丹金鶏図	明和2年(1765)	絹本着色 1幅 柳沢文庫
	102	牡丹小禽図	明和2年(1765)	絹本着色 1幅 柳沢文庫
・柳沢 里之	103	水仙に白頭翁図(寄合画帖のうち)	享和3年(1803)	絹本着色 1枚 広島県立美術館
・大久保 忠恒	104	白鷺群戯図	寛政2年(1790)	紙本着色 1幅
・池田 宗政	105	バラ白頭翁図		絹本着色 1幅
・浅野 重晟	106	牡丹図		絹本着色 1幅
・松平 頼溥	107	白梅白鷺図	寛政7年(1795)	絹本着色 1幅
・松平 乗完	108	牡丹蝶図		絹本着色 1幅
	109	秋叢草露図		絹本着色 1幅
・董 九 如	110	仏手柑に白鷺図	寛政5年(1793)	絹本着色 1幅 神戸市立博物館
・董 烈	111	菊に文鳥図		絹本着色 1幅
・戸田 忠翰	112	白鷺追兔図	天明5年(1785)	絹本着色 1幅
	113	松に白鷹図	寛政2年(1790)	絹本着色 1幅 長崎県立美術館
	114	風牡丹図	寛政10年(1798)	絹本墨画 1幅
	115	白オウム図	文化2年(1805)	絹本着色 1幅
・戸村 義通	116	鷹に白頭翁図		絹本着色 1幅
・三浦 誠次	117	牡丹図		絹本着色 1幅

VIII 珍獣図巻

・小原 慶山	118	来禽図巻		絹本着色 1巻 神戸市立博物館
・荒木 元慶	119	鳥類図巻		絹本着色 1巻 長崎県立美術館
・広渡 湖秋	120	鳥獸図巻		絹本着色 3巻 長崎県立美術館
・服部 雪斎	121	葡萄に鶏図	明治2年(1869)	絹本着色 1幅

特別出品

特1	松離図 離屏風	紙本金地著色	1面	
特2	小原慶山筆 桐に鳳凰図	紙本金地著色	5面	長崎市立博物館

参 考

参1	森蘭齋筆 一路功名図 極書	手 書	1枚	
参2	森蘭齋著 蘭齋画譜 蘭部・竹部	天明2年(1782)	木版色摺 8冊	神戸市立博物館
参3	森蘭齋編 蘭齋画譜 後編	享和2年(1802)	木版色摺 4冊	神戸市立博物館
参4	宋紫石編 画藪後八種四体譜 松平乗完序	安永8年(1779)	木版色摺 5冊	松浦史料博物館
参5	千葉龍卜筆 源氏活花花論之巻	寛政8年(1796)	手 書 1冊	柳沢文庫
参6	千葉龍卜筆 源氏活花切紙皆伝巻	寛政2年(1790)	手 書 1巻	柳沢文庫
参7	西紅毛船生類直組帳	寛政元年(1789)	手 書 1冊	神戸市立博物館

(3) 第46回特別展

栄光のオランダ絵画と日本展

— 日本にいちばん近かった西洋 —

・内 容／

日本とオランダが最も積極的に通商した17世紀の時代背景とオランダの風俗を示す「黄金時代」の油彩画と古地図の名品を展観、あわせて、ハーク派からファンゴッホに至る18～19世紀のオランダ独自の美意識を示す風景画を展示し、オランダ絵画の流れを概観した。またオランダ絵画の影響を受けた司馬江漢をはじめとする江戸時代の日本の洋風画や、日本製の古地図を展示し、オランダ絵画のヴィジョンや新しい世界観の受容と日本での変様の状況を明らかにした。ほかに日蘭交流によって生まれた漆器、陶磁器などの絵画表現がなされた工芸品も展示し、幅広い視点でオランダとの交流をとらえようとした。

当館所蔵の「秦西王侯騎馬図」の原図となった騎馬図の描かれた古地図「1646年版ブラウ大型世界地図」、ゴッホのオランダ時代の名品「日没の風景」や「アムステルダムの運河の景」アルル時代の「麦畑」、「解体新書」の扉絵、レンブラントのエッチング「自画像」などオランダ国内18ヶ所の美術館・博物館や個人所蔵家から厳選された貴重な作品が出品された。

- ・会 期／平成5年7月24日（土）～9月19日（日）
- ・会 場／特別展示室、南蛮美術室
- ・休 館 日／毎週月曜日
- ・主 催／神戸市立博物館・たばこと塩の博物館・朝日新聞社
- ・後 援／外務省・文化庁・オランダ大使館・（財）日蘭学会・アムステルダム歴史博物館
- ・特別協賛／ダイエー
- ・協 力／KLMオランダ航空会社
- ・入 館 料（当日・一般）／1100円
- ・開館日数／50日
- ・入館者数／39,073人(781人/日)
- ・出品資料／17～19世紀のオランダの油彩画の名品40点、素描・版画15点
17～19世紀の陶器・漆器・古地図の名品 45点 計 100点
- ・記念講演会／平成5年8月7日（土）
成瀬不二雄（大和文華館次長）「江戸の洋風画家・司馬江漢」
平成5年8月28日（土）
西村規矩夫（関西大学文学部教授）「17世紀オランダ絵画と寓意」
- ・同時開催／タイムトンネル神戸（アーキテクチャ・フェア神戸）
— まちと建築のうつりかわり展 —
平成5年7月17日（土）～9月19日（日）

■ 展示構成

(1) オランダの黄金時代の名画－17世紀のオランダ－

〈オランダ人の暮らしをあらわす〉

ヤン・ステーン、ピーテル・デ・ホーホ

〈オランダの風景－海・河口・砂丘〉

ヤコブ・ファン・ロイスダール、ヤン・ファン、ホーイエン、ヤン・ファン・デル・ヘイデン、マイデルト・ホッペマ

〈18～19世紀のオランダ風景〉

ヨンキント、ファン・ゴッホ

(2) 新たな世界観

地理学の発展を資料でたどる。

(3) 東洋と交流で生まれた美術工芸－17～19世紀－

絵画、陶磁器、漆器の新資料で、交流する美意識と日本とオランダの相互交流をあとづける。



ポスター



図録

栄光のオランダ絵画と日本展

1600年、リーフデ号が現在の大分県の臼杵に漂着し、日本とオランダとの交流の歴史が始まりました。1639年以後の鎖国時代には、オランダは日本にとって西洋文化を摂取する唯一の国となり、日本にとって一番近い西洋となりました。

本展は、日本とオランダが最も積極的に通商した17世紀の時代背景とオランダの風俗を示す「黄金時代」の油彩画と古地図の名品を展覧いたします。あわせて、ハーグ派からファン・ゴッホに至る18～19世紀のオランダ独自の美意識を示す風景画を展示し、オランダ絵画の流れを概観するものです。アムステルダム国立美術館、アムステルダム歴史博物館、ホイマンス・ファン・ブーニンゲン美術館、ハーグ市立美術館、レンブラントハウスほか、オランダ諸館、個人所蔵家の厳選した作品を展示いたします。

こうしたオランダ絵画やオランダ製の古地図とを比較する意味から、オランダ絵画の影響を受けた司馬江漢をはじめとする江戸時代の日本の洋風画や、日本製の古地図を展示し、オランダ絵画のブレイクや新しい世界観の受容と日本での変容の状況を明らかにします。

平賀源内や司馬江漢が本格的なオランダ絵画をもし見ることができたら、日本の洋風画はどう変わったのだろうか、という問いかけから本展は出発しています。ほかにオランダ絵画だけでなく、交流によって生まれた漆器、陶磁器などの絵画表現がなされた工芸品も展示し、幅広い視点でオランダとの交流をとらえようとする展覧会です。



「麦畑」フィンセント・ファン・ゴッホ/ヴァア財団



「アイライからのアムステルダムの眺望」ルドルフ・バウハイゼン
オランダ個人蔵



「寓意的天井画の一部」ヘラルト・デ・ライッセ
アムステルダム歴史博物館



「母子像素描」レンブラント・ファン・レイン
レンブラントハウス



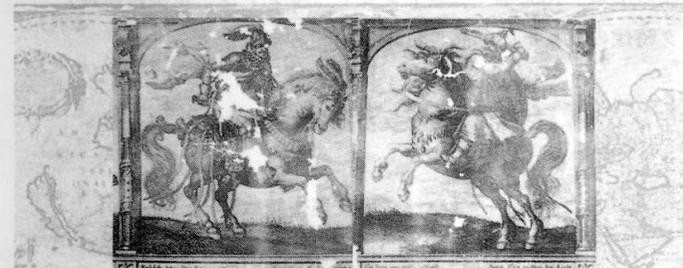
「日没の風景」フィンセント・ファン・ゴッホ
ユトレヒト・セントラル美術館



「冬の川の風景」ファン・デル・ネル
アムステルダム歴史博物館



「鋸細工師素描」ヤン・ラウケン
アムステルダム歴史博物館



「1648年版 大型世界地図」(部分) ヨアン・ブラウ/プリンス・ヘンドリック海洋博物館



「泰西王侯騎馬図」(部分)/神戸市立博物館

■ 入館料

	一般	大学生	高校生	小中生
当日料金	1,100円	950円	800円	350円
前売料金	950円	800円	650円	300円
団体料金	800円	700円	450円	250円

*団体は30人以上

同時開催

アーキテクチャ・フェアKOBÉ

タイムトンネル神戸

— まちと建築のうつりかわり展 —

平成5年7月17日(土)～9月19日(日)



■主な作品

◆17世紀絵画

- レンブラント・ファン・レイン 「母子像素描」 (アムステルダム歴史博物館蔵)
- ヘーリット・アドリアンス・ベルクハイデ
「アムステルダムの花市場」 (アムステルダム歴史博物館蔵)
※オランダ絵画の名品
- サロモン・ファン・ロイスダール
「ドルトレヒトの眺望」 (ホイマンス・ファン・ブーニンヘン美術館蔵)
- ガブリエル・メッー 「狩師のプレゼント」 (アムステルダム国立美術館蔵)
※国立美術館に常設されている名品。
- ヤコブ・ファン・ロイスダール 「浅瀬」 (アムステルダム国立美術館蔵)
- メルヒオール・ドンデクーテル
「アムステルダム市庁舎と鳥のいる象徴的情景」 1670年 (アムステルダム歴史博物館蔵)
※寓意を示すオランダ絵画の名品
- ピーテル・デ・ホーホ 「母子のいる室内」 (アムステルダム歴史博物館蔵)
- ヤン・スーテン 「陽気な来訪」 (アムステルダム歴史博物館蔵)

◆18～19世紀絵画

- ヘラルド・デ・ライレッセ
「寓意的天井画の一部」 (アムステルダム歴史博物館蔵)
※日本に彼の『画法書』が影響を与え、江漢の洋風表現ともかかわった。
- フィンセント・ファン・ゴッホ
「アムステルダムの運河の景」 1885年 (デ・ヴァ財団蔵)
※ゴッホ唯一のアムステルダム風景。小品ながら重要。
- フィンセント・ファン・ゴッホ 「麦畑」 1888年 (デ・ヴァ財団蔵)
- フィンセント・ファン・ゴッホ 「日没の風景」 1885年 (ユトレヒト・セントラル美術館蔵)
※明暗の効果を用いたオランダ時代のゴッホの名品。日本初公開。
- ヨハン・バルトホルト・ヨンキント
「ロッテルダム近郊の風車」 1857年 (アムステルダム国立美術館蔵)
- ヤン・ヘンドリック・ヴァイセンブルフ
「風景」 (ハーグ市立美術館蔵)

◆漆器・磁器

- 蒔絵カーバ神殿図プラケット (漆板) (グローニンゲン美術館蔵)
※江戸時代、長崎でつくられたメッカのカーバ神殿図の飾板の里帰り。
- 染付帆船ティーポット (有田焼) (グローニンゲン美術館)

◆古地図

- ヨアン・ブラウ
「1646年版 ブラウ大型世界地図」 (プリンス・ヘンドリック海洋博物館蔵)
※「泰西王侯騎馬図」の原図となった騎馬図をもつ大型地図。オランダから外に出たことのない秘蔵の逸品

■オランダ側借用先

- アムステルダム国立美術館 絵画(油彩画)
- ホイマンス・ファン・ブーニンヘン美術館(ロッテルダム) 絵画(油彩画)
- アムステルダム歴史博物館 絵画(油彩画・素描)
- デ・ヴァ財団 絵画(油彩画)
- アート・ギャラリー・P. デ・ヴァ 絵画(油彩画)
- アート・ギャラリー・ロブ・カッテンブルフ 絵画(油彩画)
- ユトレヒト・セントラル美術館 絵画(油彩画)
- ハーグ市立美術館(デン・ハーグ) 絵画(油彩画)
- レンブラントハイス(アムステルダム) 絵画(エッチング・素描)
- グローニンゲン美術館 工芸品(漆器・磁器)
- プリンス・ヘンドリック海事博物館(ロッテルダム) 地図
- デン・ハーグ国立中央文書館 地図
- アムステルダム演劇博物館 絵画(日本画)・のぞき眼鏡・眼鏡絵
- アムステルダム市立公文書館 絵画(日本画)
- アムステルダム国立海洋博物館 地図・銅版画
- アムステルダム大学図書館 地図
- アトラス・ファン・ストーク(ロッテルダム) 地図
- ライデン大学図書館 図書

以上18か所

■オランダ側借用作品

I. 油彩画

《アムステルダム国立美術館》

O-1	浅瀬	ロイスダール、ヤコブ・ファン	油彩	67.5×85
O-2	川の風景	ディースト、ヒエロニムス・ファン	油彩・板	31.5×37
O-3	月夜の風景	ボルサム、アントニー・ファン	油彩・板	38 ×49.5
O-4	川の風景	アジェ、ピエール・ヤン・ファン	油彩・板	26.5×40
O-5	森の風景	ケッセル、ヤン・ファン	油彩・キャンバス	58 ×73.5
O-6	陽気な来訪	ステーン、ヤン	油彩・キャンバス	68.5×99
O-7	狩師のプレゼント	メッー、ガブリエル	油彩・キャンバス	51 ×48
O-8	ロッテルダム近郊の風車	ヨンキント、ヨハン・バルトルト	油彩・キャンバス	42.5×55

《ホイマンス・ファン・ブーニンヘン美術館》

O-9	ドルトレヒトの眺望	ロイスダール、サロモン・ファン	油彩・キャンバス	49 ×59.8
O-10	海の風景	フリーヘル、シモン・デ	油彩・キャンバス	64.5×100
O-11	村の祭り	ドローフスロート、ヨースト	油彩・キャンバス	113.5×170
O-12	パイプを持つ自画像	コッデ、ピーテル	油彩・板	29.6×24

《アムステルダム歴史博物館》

O-13	農家のある風景	ホッペマ、マインデルト	油彩・キャンバス	31.5×44
O-14	冬の川の風景	ネール、アールト・ファン・デル	油彩・キャンバス	54.5×63
O-15	アムステルダムの花市場	ベルクハイデ、ヘーリット・アドリアーン	油彩・キャンバス	45 ×61
O-16	リースライスのプリンセン運河	ノームス、ライニール	油彩・キャンバス	52 ×67
O-17	アムステルダム市庁舎と鳥のいる象徴的情景	ドンデクール、メルヒオール	油彩・キャンバス	183.5×166
O-18	聖アントニウス堤防の決壊—1651年3月5日から6日の間の夜—	スヘリンクス、ウィレム	油彩・キャンバス	47 ×68
O-19	冬景色	ベールストラーテン、J.A.	油彩・キャンバス	62.5×88
O-20	母子のいる室内	ホーホ、ピーテル・デ	油彩・板	36.5×42
O-21	夫妻と二人の子どものいる室内	デ・ヨンフ、L	油彩・キャンバス	72.5×63
O-22	天井画の一部	ライレッセ、ヒラルト・デ	油彩・キャンバス	183 ×233
O-23	アムステルダムの寓意	ライレッセ、ヘラルト・デ	油彩・キャンバス	46.5×64
O-24	デ・ボーレンウェータリングの運河沿いの家	コンプ、ヤン・テン	油彩・板	44.5×64
O-25	風景	ハルスウィト、ヤン	油彩・キャンバス	68 ×91
O-26	冬の川の風景	スヘルフハウト、アンドリアス	油彩・板	17.5×22
O-27	クレムボールの眺め	グライブ、ヨハン・コンラット	油彩・板	37.5×56
O-28	ゲイン風景	ラウロフス、ウィレム	油彩・キャンバス	26 ×44

《ヴァ財団》

O-29	アムステルダム運河の風景	ゴッホ、フィンセント・ファン	油彩・板	18 ×24
O-30	麦畑	ゴッホ、フィンセント・ファン	油彩・キャンバス	50 ×61
O-31	花のある静物	ボサールト、アンブロシウス	油彩・銅版	25 ×18

《ヴァ・アートギャラリー》

O-32	静物	アンドリエンス、ヘンドリック	油彩・キャンバス	65.2×86
O-33	花のある静物	デ・ヘーム、ヤン・ダーヴィツ	油彩・銅版	34.2×43

《アートギャラリー・ロブ・カッテンブルフ》

O-34	海の風景	バクハイゼン、ルドルフ	油彩・キャンバス	56 ×86
O-35	IJからアムステルダムの眺め	バクハイゼン、ルドルフ	油彩・板	48 ×67
O-36	鯨捕りの風景	サルム、アンドリアーン・ファン・デル	油彩・板	54 ×80

《ユトレヒト・セントラル美術館》

O-37	日没の風景	ゴッホ、フィンセント・ファン	油彩・キャンバス	53.3×92
------	-------	----------------	----------	---------

《ハーグ市立美術館》

O-38	羊のいる風景	マウヴェ、アントン	油彩・キャンバス	59 ×100
O-39	風景	ヴァイセンブルフ、ヤン・ヘンドリック	油彩・キャンバス	72.5×103

II. 素描・エッチング

《レンブラントハイス》

(神戸)	D-1	子どもを抱く女性	レンブラント	インク・紙	10.4×8.7
	D-2	人物習作	レンブラント	黒チョーク・紙	13.3×23.1
	D-3	レンブラント全身像	レンブラント	インク・紙	20.3×13.4
	D-4	子どもを抱く女性	マース、ニコラス	赤チョーク・紙	8.9×4.1
(東京)	D-5	モンテルバーンストーレンの眺め	レンブラント	インク・紙	14.5×14.4
	D-6	アムステルダム旧市庁舎の廃墟	レンブラント	赤チョーク、インク・紙	15 ×20.1
(共通)	E-1	サスキアといる自画像	レンブラント	エッチング	10.4×9.5
	E-2	自画像	レンブラント	エッチング	20.5×16.4

《アムステルダム歴史博物館》

D-7	山高帽子をかぶる男の横顔	レンブラント	1027	5.3×5.7
D-8	二人の人物習作	レンブラント	10273	5.3×3.4
D-9	毛皮の帽子の男	レンブラント	10274	6 ×6.3
D-10	平帽の男	レンブラント	10270	6 ×4.9
D-11	悲しむ女の習作	レンブラント	10272	5.5×4.8
D-12	子どもを立たせる女	レンブラント	18021	8.7×7.7
D-13	平帽をかぶる女の横顔	レンブラント	10275	4.8×4.6
D-14	母子像	レンブラント	18147	8.4×8.1
D-15	神学者たちの議論	レンブラント	10276	9.6×8.4

ラウケン父子「人間の職業」より

D-16	タイトルページ	ラウケン父子	13363	13.1×9
D-17	錫細工職人	ラウケン父子	13390	9 ×7.6
D-18	帆布職人	ラウケン父子	13403	9 ×7.5
D-19	皮なめし職人	ラウケン父子	13424	9 ×7.5
D-20	水夫	ラウケン父子	13460	9 ×7.6
D-21	樽づくり職人	ラウケン父子	13404	9 ×7.6
D-22	籠づくり職人	ラウケン父子	13373	9 ×7.8
D-23	蠟燭づくり職人	ラウケン父子	13406	9.1×7.5
D-24	泥炭採掘人	ラウケン父子	13440	8.9×7.3

《アムステルダム国立美術館・国立版画陳列室》

E-3	セント・マリー岬近くの英蘭海戦図	サリエト	エッチング
E-4	ニュー・フォアランド近くでの第二次英蘭戦争の海戦図	A. ツィルフェルト	エッチング

III. 里帰り日本絵画

《アムステルダム演劇博物館》

- J-1 出島でのわか芝居の様子 川原慶賀
 J-2 同上 川原慶賀

《アムステルダム市立公文書館》

- J-3 出島でのわか芝居の様子 川原慶賀
 J-4 同上 川原慶賀
 J-5 同上 川原慶賀
 J-6 同上 川原慶賀
 J-7 同上 川原慶賀

IV. 工芸品

《グローニンゲン美術館》

(漆器)

- L-1 蒔絵山水文ナイフ入れ 京都 19世紀初期 22.5×20.9 高37.0
 L-2 蒔絵楼閣山水図皿 京都 18世紀初期 径36 高4
 L-3 蒔絵鳥に山水図皿 京都 18世紀初期 径35.8 高4.2
 L-4 蒔絵観瀧図皿 京都 18世紀初期 径10.9 高1.8
 L-5 蒔絵山水図五稜形皿 京都 18世紀初期 32.7×29.5 高3.3
 L-6 蒔絵カーバ神殿図漆板 長崎 18世紀末期 17.2×5.4
 L-7 蒔絵肖像図ブラケット 3枚のうち1 長崎 1780-1800 12.3×9.1
 L-8 蒔絵肖像図ブラケット 3枚のうち2 長崎 1780-1800 12.3×9.1
 L-9 蒔絵肖像図ブラケット 3枚のうち3 長崎 1780-1800 12.3×9.1
 L-10 青貝細工に蒔絵オランダ風景図箱 長崎 18世紀末期から19世紀初期 28.5×23.5×7.2
 L-11 青貝細工山水文煙草入 長崎 19世紀前半 13.7×8.3×2.5
 L-12 青貝細工出島図煙草入 長崎 19世紀中期 14×8×2.5
 L-13 蒔絵富士図煙草入 長崎 19世紀中期 23.5×8×2.5

(磁器)

- P-1 伊万里染付埠頭小皿 有田 18世紀前半 12.5×11
 P-2 伊万里染付帆船図ティーポット 有田 18世紀 径7 高11.5
 P-3 伊万里染付帆船図八角鉢 有田 17世紀後半 径22-23 高10

V. 地図

《デン・ハーグ国立中央文書館》

- M-1 世界都市図帳 ブラウン&ホーヘンベルク 1572年 銅版 18.3×57.5
 M-2 ヨーロッパ海域航海用の海図付水夫ガイド
 ワーヘナール 1584/85年 銅版 32.5×51.0
 M-3 ヨーロッパ海岸線の航海図 ウイレム、ピーテル、ヨアン・ブラウ

- M-4 航海者のためのトンキン湾～台湾間の水路図 1677年 羊皮紙に銅版手彩 71.5×90.0
 ヨアン・ネセル
 M-5 航海士のためのバタヴィア～日本間の海図 1658年 羊皮紙に手書 74.0×99.0
 ヨアン・ブラウ
 M-6 航海誌(初版1602年) オリバー・ファン・ノールト 1687年 羊皮紙に手書 75.0×93.5
 1644～46年 銅版 14.7×22.5
 M-7 日本北方水域発見の手書き海図 アイザック・デ・グラーフ c.1700 紙に手書き図 52.0×73.5
 M-8 ベルナンブコの風景 フランス・ポスト ブラウにより1645年出版 銅版 39.0×51.0
 M-9 新旧の東インド地域 フランソワ・ファレンタイン 1726年 銅版 28.3×19.0

《アムステルダム国立海洋博物館》

- M-10 Sluis(スラウス沖)の海戦 ハンス・レム 1603年 銅版 52.0×93.0

《プリンス・ヘンドリック海洋博物館》

- M-11 世界地図 ヨアン・ブラウ 1645-46(初版1619年) 銅版 176.5×281.5
 M-12 地球儀 G&L・ファルク 1715年 銅版 径46

《アムステルダム大学図書館》

- M-13 オランダ語聖書 ファン・ザンテン 1682年 銅版手彩
 M-14 世界の諸都市と衣裳 カルロス・アラルド 1695年頃 銅版 22.3×28.6

《アムステルダム国立美術館・国立版画陳列室》

- M-15 第二回蘭英戦争の四日間戦争 ジールフェルト 銅版 42.0×44.0

展示作品は一部変更することもあります。

■ 日本側借用作品

絵画

1	泰西王侯騎馬図(重文)		紙本著色	神戸市立博物館
2	西洋婦人図	平賀源内	油地油彩	〃
3	ファン・ロイエン筆花鳥図模写	谷文晁	紙本著色	〃
4	異国風景人物図	司馬江漢	絹本油彩	〃
5	相州鎌倉七里浜図	〃	紙本著色	〃
6	異国工場図	〃	絹本油彩	〃
7	駿州柏原富士図	〃	絹本淡彩	〃
8	ヨーロッパ製反射式のぞき眼鏡			〃
9	司馬江漢製反射式のぞき眼鏡			〃
10	両国橋図	司馬江漢	紙本銅板筆彩	〃
11	三囲景図	〃	〃	〃
12	頻海都城図	荒木如元	油地油彩	〃
13	花籠と蝶図	若杉五十八	紙本著色	〃
14	花鳥と阿蘭陀風景図	〃	〃	〃
15	長崎港図(初公開)	川原慶賀	紙本著色	〃
16	紅毛婦人図	石川大浪	紙本著色	〃
17	今戸瓦焼図	亞欧堂田善	絹本油彩	〃
18	浮世絵阿蘭陀東南湊図	歌川豊春	木版色摺	〃
19	二十四孝童子鑑 董永	歌川国芳	〃	〃
20	六玉川の内 高野の玉川	鈴木春信	〃	〃

書籍

1	「和蘭通舶」	司馬江漢	木版	〃
2	「解体新書」	小田野直武挿図	〃	〃
3	ライッセ 大画法書	ライッセ	銅版	〃
4	ヨストン 動物図鑑	ヨストン	〃	〃
5	銅版諸国馬画集	リーティンガー	〃	〃
6	紅毛雑話	森島中良	木版	〃

21	鷹匠図	若杉五十八	布地油彩	長崎県立美術博物館
22	湖辺遊禽図	司馬江漢	紙本油彩	〃
23	蘭人鷹狩図	荒木如元	布地油彩	長崎市博
24	和蘭船唐船図	石崎融思	絹本油彩	〃
25	オランダ銅版画貼雑図巻		銅版	〃
26	青貝蒔絵雛形控(安政3年)		紙本墨画	〃
27	青貝蒔絵雛形控(明治11年)		〃	〃
28	品川富士遠望図	司馬江漢	紙本着色	個人蔵
29	西洋銅版画24枚		銅版	〃
30	阿蘭陀人殺生図		銅版	徳川美術館
31	海上朝 図	司馬江漢	絹本油彩	個人蔵
32	異国風景図	〃	紙本墨絵淡彩	個人蔵
33	皮工図	〃	紙本銅版筆彩	〃
34	鳩とインコと木蓮図	〃	絹本油彩	〃
35	西洋樽造図	〃	絹本墨画	〃
36	西洋埠頭図	〃	絹本着色	〃
37	オランダ馬図	〃	絹本油彩	〃
38	総州利根川河今井渡図	〃	絹本着色	〃
39	アムステダム風景図	〃	〃	〃
40	海浜漁夫図	〃	紙本油彩	〃
41	西洋室内人物図	〃	絹本着色	〃
42	西洋人物風景図	〃	紙本墨画	〃
43	牛追図	〃	絹本着色	〃
44	西洋銅版画3枚		銅版筆彩	〃
45	歴史的年代記		銅版	松浦資料博物館
46	獅子図	宋紫石	絹本着色	大和文華館
47	江戸名所図眼鏡絵	伝小田野直武	紙本着色	個人蔵
48	セントヘレナ島図模写	原在明	紙本着色	個人蔵

工芸品

45点

地 図

- 1 アブラハム・オルテリウス(Abraham Orterius)『地球の舞台(Theatrum Orbis Terrarum)』
A. オルテリウス
1570年
銅版手彩
41.0×28.5cm
神戸市立博物館
- 2 フィッセル改定ブラウ世界図模写図
江戸時代後期(18世紀末)
160.0×295.0 cm
手書手彩
神戸市立博物館
- 3 神戸の四大陸図屏風のモデルとなったファルクのアジア図
G. ファルク
c. 1695
銅版手彩
神戸市立博物館
- 4 世界四大州図人物図屏風(部分的にオランダの地図や版画を基礎としている)
江戸時代後期(18世紀末)
六曲一双屏風
各164.0×364.0 cm
神戸市立博物館
- 5 ファルク地球儀に基づく日本製世界地図「和蘭新定地球図」
江戸時代中期(18世紀前半) (神戸会場のみ)
手書手彩
25.5×247.0 cm
大阪府立中之島図書館
- 6 地球分双卯西五帯之図 11枚
沢田員矩
宝暦九年(1759)
手書手彩
各81.5×18.0cm
神戸市立博物館
- 7 ピエール・モルティエ(Pierre Mortier) 世界地図
1721年?
銅版手彩
57.0×97.0cm
神戸市立博物館
文献: Shirley 621
- 8 司馬江漢のモルティエを基礎とした世界地図「地球図」
寛政4年(1792)
銅版手彩
55.4×86.4cm
神戸市立博物館
- 9 司馬江漢のモルティエを基礎とした地球儀
文化7年(1810)
木製、漆塗りに密陀がけ
径45cm
永青文庫(東京)

(4) 第47回特別展

太山寺の名宝展

・内 容 /

太山寺（神戸市西区伊川谷町前開）は寺伝によると、藤原鎌足の子・定恵和尚が開山、その孫・宇合が開基となり、霊亀2年(716)に創建されたと伝える天台宗有数の古刹である。最も隆盛をきわめたのは鎌倉時代で、その時代に再建された国宝の本堂をはじめ、美術工芸品で16件83点に及ぶ重要文化財を伝えていることでも知られている。

当館は、太山寺の全面的な協力を得、指定文化財はもちろん、従来あまり知られていなかった未指定のものも含め調査を実施、新たに多数の文化財を確認することができた。

今回の特別展は、この調査に基づき開催されたもので、初めて展示される作品を含め 100件の資料で構成された。その中には全国的にみて珍しく貴重なものが多数あり、太山寺が誇る名宝の数々を通し、神戸の豊かな歴史や文化をあらためて紹介した。

・会 期 / 平成5年11月3日（水・祝）～12月19日（日）

・会 場 / 南蛮美術室、特別展示室 2 ・開館日数 / 32日

・休 館 日 / 毎週月曜日、11月16日（火） ・入館者数 / 18,667人(467人 / 日)

・主 催 / 神戸市立博物館・神戸新聞社 ・出品件数 / 100件

・入館料（当日・一般） / 800円

・記念講演会 / 平成5年11月6日（土）

石田善人（岡山大学名誉教授、神戸女子大学文学部教授）

「太山寺と伊川荘」

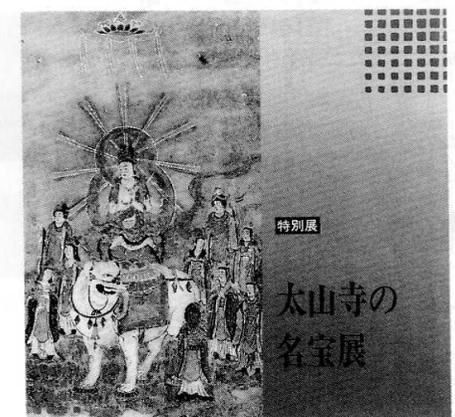
平成5年11月27日（土）

百橋明穂（神戸大学文学部助教授）「太山寺の仏教美術」

・同時開催 / 西洋人が描いた日本地図展



ポスター



図録

太山寺の名宝展

出品目録

特別展 太山寺の名宝展

太山寺(神戸市西区伊川谷町)は国宝の本堂をはじめ多くの堂塔がならぶ天台宗の大刹です。16件83点におよぶ重要文化財が伝来していますが、これら以外にどのような文化財が伝えられてきたのか、これまで十分には知られていませんでした。本館では太山寺の全面的なご協力をいただき、寺宝の調査を実施、数々の貴重な文化財を確認することが出来ました。今回の特別展はこの調査のもとで開催されるもので、約90件の資料で構成されます。その中には、一木造で等身大の四天王立像、神像・狛犬、絵画では仏眼曼荼羅・吉野曼荼羅など、注目すべき作品が初公開されます。

●主な展示資料

- 重文 絹本着色 法華曼荼羅図
 - 重文 絹本着色 釈迦三尊像
 - 重文 絹本着色 楊柳観音像
 - 重文 絹本着色 不動二童子像
 - 木造 普賢菩薩騎象像
 - 刺繍 両界曼荼羅図
 - 重文 色々威腹巻
 - 重文 紙本墨書 大塔宮令旨及注進状
- (※期間中、展示替があります)



▲絹本着色 愛染曼荼羅図(重要文化財)(部分)



▲紙本墨書 妙法蓮華経(重要文化財)



■入館料

	一般	大学生	高校生	小中生
当日料金	800円	700円	550円	300円
前売料金	700円	600円	500円	250円
団体料金	600円	500円	300円	150円

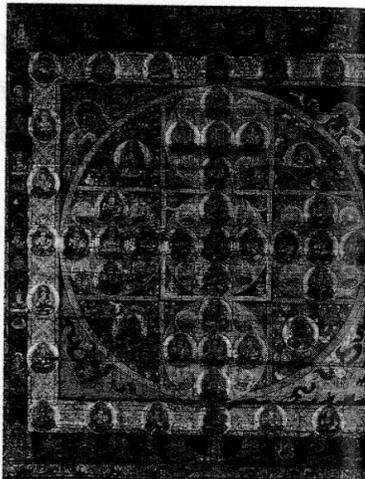
*団体は30人以上



▲本堂(国宝)



▲木造 四天王立像のうち持



▲絹本着色 両界曼荼羅図(重要文化財)



▲墨画淡彩 山水図屏風

No.	材質	資料名	員数	時代	所蔵品
《絵画》					
1	◎ 絹本着色	両界曼荼羅	双幅	鎌倉時代	太山寺
2	◎ 絹本着色	両界曼荼羅	双幅	鎌倉時代	太山寺
3	絹本着色	仏眼曼荼羅	1幅	室町時代	太山寺
4	◎ 絹本着色	愛染曼荼羅	1幅	鎌倉時代	太山寺
5	◎ 絹本着色	不動明王二童子像	1幅	室町時代	太山寺
6	◎ 絹本着色	不動明王四童子像	1幅	室町時代	太山寺
7	◎ 絹本着色	十一面観音像	1幅	鎌倉時代	太山寺
8	絹本着色	四仏尊像(諸尊集会図)	1幅	室町時代	太山寺
9	◎ 絹本着色	法華曼荼羅	1幅	鎌倉時代	太山寺
10	絹本着色	普賢菩薩像	1幅	室町時代	太山寺
11	◎ 絹本着色	釈迦三尊像	1幅	鎌倉時代	太山寺
12	◎ 絹本着色	十六羅漢像	16幅	鎌倉時代	太山寺
13	絹本着色	羅漢像	1幅	鎌倉時代	太山寺
14	絹本着色	仏涅槃図	1幅	室町時代	太山寺
15	◎ 絹本着色	金剛経十六善神像	1幅	南北朝時代	太山寺
16	絹本着色	阿弥陀三尊来迎図	1幅	室町時代	太山寺
17	絹本着色	十三仏図	1幅	室町時代	太山寺
18	◎ 絹本着色	楊柳観音像	1幅	高麗時代	太山寺
19	絹本着色	山王垂迹曼荼羅	1幅	室町時代	太山寺
20	紙本着色	三十番神図	1幅	室町時代	太山寺
21	絹本着色	吉野曼荼羅	1幅	室町時代	太山寺
22	絹本着色	三宝荒神像	1幅	室町時代	太山寺
23	絹本着色	伝 役行者像	1幅	室町時代	太山寺
24	絹本着色	渡唐天神図	1幅	室町時代	太山寺
25	絹本着色	阿梨跋摩像	1幅	室町時代	太山寺
26	絹本着色	天台大師像	1幅	鎌倉時代	歎喜院
27	絹本着色	慈覚大師像	1幅	室町時代	太山寺
28	絹本着色	伝 定恵和尚像	1幅	江戸時代	太山寺
29	紙本墨画淡彩	山水図屏風	1双	室町時代	太山寺
30	紙本淡彩	天神図	1幅	江戸時代	歎喜院
31	紙本淡彩	文殊奉経図	1幅	江戸時代	歎喜院
					狩野常信筆
					卓峯道秀筆
《彫刻》					
32	木 造	四天王立像	4 軀	鎌倉時代	太山寺
33	木 造	大日如来坐像	1 軀	江戸時代	太山寺
34	木 造	四天王立像	4 軀のうち 2 軀	江戸時代	太山寺
35	木 造	不動明王立像	1 軀	平安時代後期	太山寺
36	木 造	普賢菩薩騎象像	1 軀	室町時代	太山寺
37	木 造	伝 三所権現坐像	3 軀	鎌倉時代	太山寺
38	木 造	狛犬	1 対	鎌倉時代	太山寺
39	木 造	聖徳太子立像	1 軀	室町時代	太山寺
40	木 造	定恵和尚坐像	1 軀	江戸時代	太山寺
参考 2	◎ 木 造	阿弥陀如来坐像	1 軀	鎌倉時代	太山寺

No.	材質	資料名	員数	時代	所蔵品
《工芸》					
41	◎	色々威腹巻 兜・大袖・喉輪・臙当付	1領	室町時代	太山寺
42	◎	紺糸素懸威腹巻	1領	室町時代	太山寺
43	◎	紫糸威膝鎧	1双	室町時代	太山寺
44	◎	藍韋威肩赤膝鎧	1双	室町時代	太山寺
45	◎	赤糸威膝鎧	1双	室町時代	太山寺
46	◎	金銅前立	1面	室町時代	太山寺
47	◎	白糸威肩赤壺袖	1双	室町時代	太山寺
48	◎	紫糸威喉輪	1懸	室町時代	太山寺
49	刺 繡	種子両界曼荼羅	1幅	鎌倉時代	太山寺
50		羯鼓	1点	桃山～江戸時代	太山寺
51		金銅宝珠鈴	1口	鎌倉時代	太山寺
52		五鈷鈴	1口	室町時代	太山寺
53		金銅装輪宝羯磨文戒体箱	1合	室町時代	太山寺
54		青磁牡丹唐草文瓶	2点	元・明時代	太山寺
55		青磁盤	1枚	明時代	太山寺
56		朱漆三足盃	2口	江戸時代	太山寺
57		朱漆丸鉢	3口	江戸時代	太山寺
58		朱漆匙	1点	江戸時代	太山寺
59		朱漆杓子	2点	江戸時代	太山寺

《典籍 仏典》

60	紙本墨書	妙法蓮華經	32巻	平安時代後期	太山寺
61	紺紙金字	一切經	76巻のうち3巻	鎌倉時代	太山寺
62	紺紙金字	仏説大吉祥陀羅尼經・仏説宝賢陀羅尼經	1巻	高麗時代	太山寺
63	木版墨刷	法華玄義 (叡山版)	10帖	鎌倉時代	太山寺
64	木版墨刷	法華玄義釈籤 (叡山版)	10帖	鎌倉時代	神戸市立博物館
65	木版墨刷	法華疏記 (叡山版)	1帖	鎌倉時代	慶応義塾図書館
66	木版墨刷	摩訶止観 (叡山版)	2冊	鎌倉時代	叡山文庫
67	木版墨刷	止観輔行伝弘決 (叡山版)	10帖	鎌倉時代	神戸市立博物館
68	木版墨刷	止観輔行伝弘決 (叡山版)	1冊	鎌倉時代	叡山文庫
69	木版墨刷	止観輔行伝弘決 (叡山版)	1帖	鎌倉時代	慶応義塾図書館
70	紺紙金字	華嚴經	1帖	高麗時代	太山寺
71	紙本墨書	大般若經	596帖のうち3帖	南北朝時代	太山寺
72	紙本墨書	四座講式	3巻	室町時代	太山寺

《典籍 文学》

73	◎ 紙本墨書	曾我物語	10冊	室町時代	太山寺
74	紙本墨書	伊勢物語	1帖	室町時代	太山寺
75	紙本墨書	平家物語	4冊	室町時代	太山寺
76	紙本墨書	拾遺和歌集	1帖	室町時代	太山寺
77	紙本墨書	後拾遺和歌集	2帖	室町時代	太山寺
78	紙本墨書	後撰和歌集	1帖	室町時代	太山寺
79	紙本墨書	玉葉和歌集	2帖	室町時代	太山寺
80	紙本墨書	月清集	2冊	室町時代	太山寺
81	紙本墨書	七言絶句 梁田蛭巖筆	1幅	江戸時代	歎喜院

《典籍 古文書・記録》

82	紙本墨書	領家下文	1通	正嘉2年	太山寺
83	紙本墨書	堂舎・鐘楼再造立勸進状	1巻	弘安8年	太山寺

No.	材質	資料名	員数	時代	所蔵品
84	◎ 紙本墨書	大塔宮令旨及注進状	4通	元弘3年	太山寺
85	紙本墨書	足利直義禁制	1幅	建武3年	太山寺
86	紙本墨書	深草姫君女房奉書	1通	暦応4年	太山寺
87	紙本墨書	太山寺規式起請文	1通	貞和2年	太山寺
88	紙本墨書	藤原範仲年貢米寄進状	1通	観応2年	太山寺
89	紙本墨書	僧仙英本尊聖教等寄進状	1通	延文4年	太山寺
90	紙本墨書	赤松貞範禁制	1通	貞治3年	太山寺
91	紙本墨書	祇園千部経開白法則	1冊	永正6年	太山寺
92	紙本墨書	祇園千部経注文案	1通	永正6年	太山寺
93	紙本墨書	祇園牛頭天王名号 尊応親王筆	1幅	永正6年	太山寺
94	紙本墨書	和歌詠草 尊応親王筆	1幅	永正6年	太山寺
95	紙本墨書	浦上則宗願文	1通	文明16年	太山寺
96	紙本墨書	岩屋殿雨請記録	1通	天正3年	太山寺
97	紙本墨書	青蓮院門跡書状	1通	天正12年頃	太山寺
98	紙本墨書	播州太山寺縁起 尊證親王筆	1巻	天和3年	太山寺
99	手書手彩	太山寺絵図	1枚	明治時代初期	歎喜院
100		トーマス氏個人アルバム	1冊	明治時代後期	神戸市教育委員会

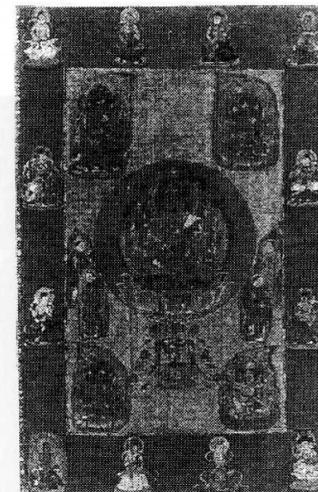
《風景》

101	木造	追儺面	3面	室町時代	太山寺
参考4◎		本堂		鎌倉時代	
参考5		阿弥陀堂		江戸時代	
参考6○		三重塔		江戸時代	
参考7		護摩堂		江戸時代	
参考8		観音堂		江戸時代	
参考9		釈迦堂		江戸時代	
参考10		羅漢堂		江戸時代	
参考11◎		仁王門		室町時代	
参考12◎		安養院庭園		桃山時代	
参考13○		成就院庭園		江戸時代	
参考14		歎喜院庭園		江戸時代	
参考15○		原生林			

◎は国宝 ○は重要文化財 ○は県指定文化財をあらわす



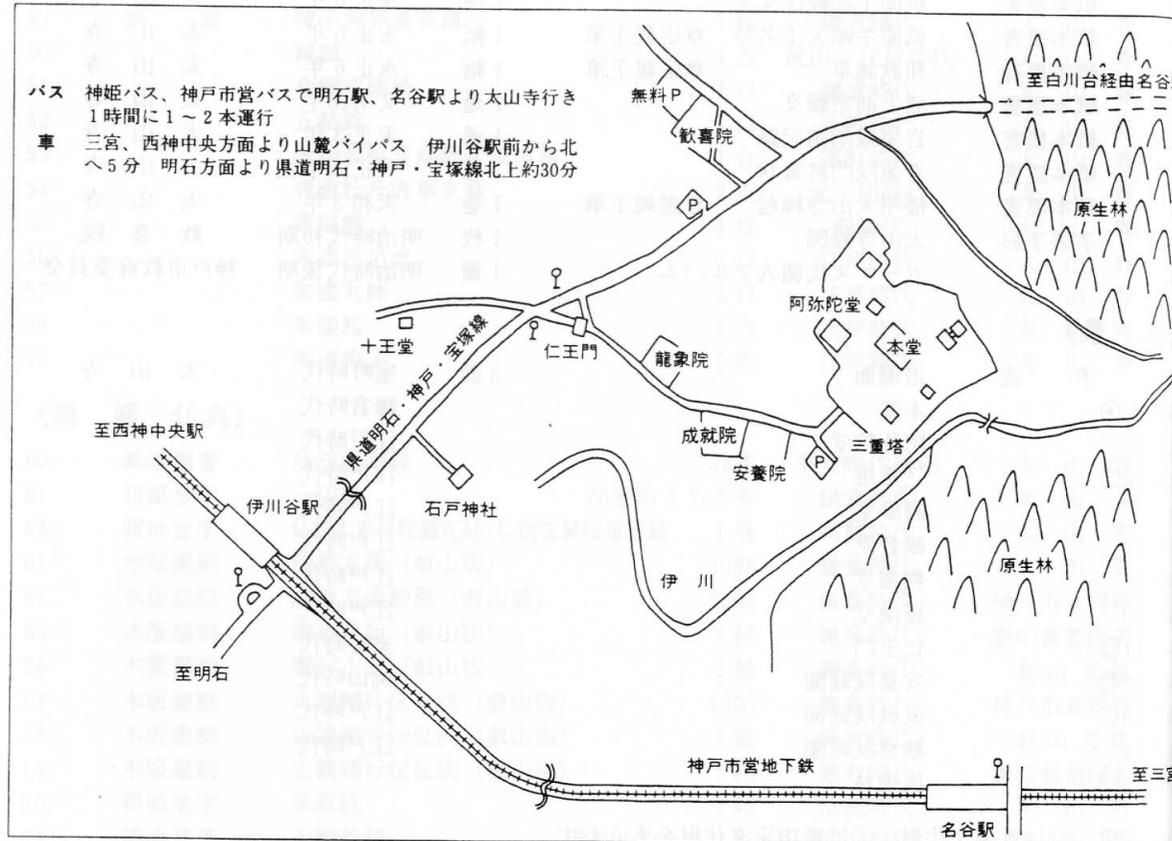
No.32 四天王立像のうち増長天立像



No.4 愛染曼荼羅

アイルランド国立美術館名品展

太山寺周辺略図



・内 容 /

アイルランドの首都ダブリンにある国立美術館は1864年に公開され、現在では14世紀から20世紀にいたるヨーロッパの優れた絵画・彫刻からなる約1万点の充実したコレクションを有している。

本展では、美術館の所蔵する約2500点の油彩画の中から16世紀から19世紀に至る西洋美術館の歩みをたどることができるように、ティツィアーノ、ティントレットなど16世紀ヴェネツィア派を始めとするイタリア絵画、ルーベンス、フランス・ハルス、ロイスダールに代表されるフランドル絵画、プッサンから始まりシャルダン、プーシェを経てドラクロアに至るフランス絵画、エル・グレコ、ムリーリョ、ゴヤを含むスペイン絵画まで、ルネッサンスからロマン主義に至る名品53点を展観した。

日本ではこれまであまり知られなかった作品で、ヨーロッパ絵画の重厚な歴史を味わう機会となった。

- ・会 期 / 平成6年2月26日(土) ~ 4月10日(日)
- ・会 場 / 特別展示室 1、南蛮美術室
- ・休 館 日 / 月曜日及び3月22日(火)、(ただし3月21日(月)は開館)
- ・主 催 / 神戸市立博物館・神戸新聞社・毎日放送・アイルランド国立美術館名品展実行委員会
- ・後 援 / 外務省・文化庁・アイルランド大使館・兵庫県・神戸市・兵庫県教育委員会
- ・協 力 / 日本航空 ・入館料(当日・一般) / 1100円 ・開館日数 / 38日
- ・入館者数 / 40,580人(1,068人/日) ・出品点数 / 53点
- ・同時開催 / 装飾須恵器・山下摩起展



ポスター



図録

アイルランド国立美術館名品展

Titian to Delacroix: Master European Paintings from the National Gallery of Ireland

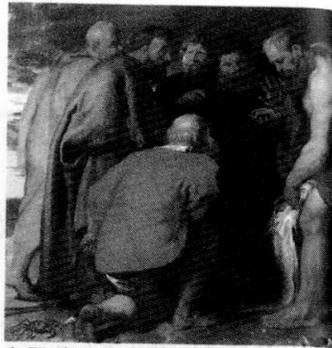
主な出品作家=ティツィアーノ、ティントレット、ヴェロネーゼ、ルーベンス、ヨルダース、ロイスタール、ブッサン、シャルダン、ドラクロワ、エル・グレコ、スルバラン、ムリーリョ



ティツィアーノ・ヴェチェッリオ(エマオの晩餐)1545年頃



ジャン=マルク・ナティエ(フェルゼン伯爵夫人カールロッタ=フレデリカ・スバレ)



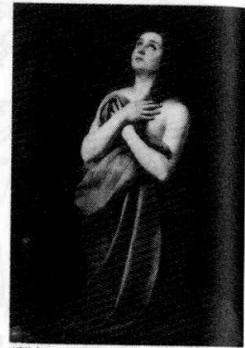
ペーテル・パウル・ルーベンス(貢の銭を見出す聖ペテロ)1618



ニコラ・ブッサン(アキスとガラテア)1630年頃



ヤコブ・ファン・ロイスタール(木立のある風景)1661/64年



バルトロメ・エステバン・ムリーリョ(備後のマクダラのマリア)1650/55年

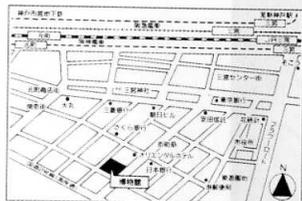


ウージェーヌ・ドラクロワ(海辺のデモステネス)1859年

ケルト文化と融合した独特なキリスト教美術、近代文学で数々の文豪を生んだ文化的風土を持つ国・アイルランド。その首都・ダブリンにある国立美術館は18に初めて公開され、現在では14世紀から20世紀にいたるヨーロッパの優れた絵刻からなる約1万点の充実したコレクションを有するに至っています。

本展ではその中から、ティツィアーノ、ティントレットなど16世紀ヴェネツィア派を代表するイタリア絵画、ルーベンス、フランス・ハルス、ロイスタールに代表されるフランドル絵画、ブッサンから始まりシャルダン、ブーシェを経てドラクロワに至るフランス絵画、エル・グレコ、ムリーリョ、ゴヤを含むスペイン絵画まで、ルネッサンスからロマン主義に至る油彩画の名品53点を展覧いたします。

日本ではこれまであまり知られることのなかったこのコレクションを鑑賞していただき、16世紀から19世紀にかけての様々な流派・時代の巨匠たちによる作品の数々を、ヨーロッパ絵画の重厚な歴史に思いを馳せていただければ幸いです。



■入館料

	一般	大学生	高校生	小中生
当日料金	1,100円	950円	800円	350円
前売料金	950円	800円	650円	300円
団体料金	800円	700円	450円	250円

*団体は30人以上



神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24番地 TEL.(078)391-0035

出品目録

イタリア絵画

- | | | | |
|----|--------------------|-----------|--------------------------------|
| 1 | ジョバンニ・ジローラモ・サヴォルド | 1510-20年頃 | 洗礼者聖ヨハネと聖ひえろニムスという聖母子 |
| 2 | ティツィアーノ・ヴェチェッリオ | 1536年頃 | バルダサーレ・カスティリオーネ伯の肖像 |
| 3 | ティツィアーノ・ヴェチェッリオ | 1545年頃 | エマオの晩 |
| 4 | ヴェロネーゼ | 1560年頃 | 聖ピリポと聖小コヤブ |
| 5 | 北イタリア派 | 1570年頃 | 男の肖像 |
| 6 | ティントレット | 1575/80年頃 | 老議員の肖像 |
| 7 | レアンドロ・バッサーノ | 1600/10年頃 | シバの女王のソロモン訪問 |
| 8 | フェリーチェ・フィケレリ | 1650年頃 | ロトとその娘たち |
| 9 | ルーカ・ジョルダノ | 1650/52年頃 | 殉教後の聖セバスティアヌス |
| 10 | ジョバンニ・アントニオ・ペレグリーニ | 1708/11年頃 | バテシバ |
| 11 | セバスティアノ・リッチ | 1720年頃 | 町を防備するためアルキメデスを訪ねるシラクサノ王ヒエロン2世 |
| 12 | ミケーレ・マリエスキ | 1730年代後半 | ヴェネツィアのサンマルコ広場 |
| 13 | ピエトロ・ロンギ | 1745年頃 | 女性の肖像を描く画家 |
| 14 | ジョバンニ・バティスタ・ティエポロ | 1761年頃 | パリサイ人シモンの家のキリスト(ヴェロネーゼによる) |
| 15 | フランチェスコ・グアルディ | 1780年頃 | アドリア海と契りを結ぶヴェネツィア総督 |

オランダ・フランドル絵画

- | | | | |
|----|-----------------------------|----------|--------------------|
| 16 | ペーテル・パウル・ルーベンス | 1618年頃 | 貢の銭を見出す聖ペテロ |
| 17 | アントニー・ヴァン・ダイク | 1623年頃 | テラスに立つ少年 |
| 18 | ヘリット・ファン・ホントホルスト | 1628年 | 祝宴風景 |
| 19 | フランス・ハルス | 1630年代 | リュート奏者 |
| 20 | ルーカス・ヴァン・ウーデンとダヴィット・テニールス2世 | 1640年頃 | 浮かれ楽しむ農民 |
| 21 | ヤコブ・ヨルダース | 1645年頃 | エマオの晩餐 |
| 22 | ヤン・ファン・デ・カペレ | 1653年頃 | 冬の河川風景 |
| 23 | ヤン・ラゴールとアドリアーン・ファン・デ・フェルデ | | 渡し船 |
| 24 | アントニー・ファン・デル・クロース | 1660年 | ユトレヒト近くのモントフォールトの城 |
| 25 | アントニー・デ・ロルメ | 1660年代初期 | ロッテルダムの聖ラウレンス教会の内部 |

26	サロモン・ファン・ロイスダール	1661年	休憩
27	ヤコブ・ファン・ロイスダール	1661/64年	木立のある風景
28	ヤン・シベレヒツ	1671年	農村の荷車
29	ニコラース・マース	1680年代	婦人の肖像
30	ヤン・ウェーニックス	1690年代	狩りの獲物-城館の庭園

フランス絵画

31	ベンショナンテ・デル・サラチューニ	1610年代	聖ペテロの否認
32	ニコラ・プッサン	1626年頃	ニンフと酒を飲むサテュロス
33	ニコラ・プッサン	1630年頃	アキスとガラテア
34	フランソワ・デポルト	1707年	死んだ獲物
35/36	ジャン=バティスト=ジョゼフ・パテル	1730年代	フェート・ギャラント(雅宴画)
37	ジャン=シメオン・シャルダン	1731年代	静物
38	ジャン=シメオン・シャルダン	1735年代	女教師
39	ニコラ・ランクル	1735年頃	いたずら
40	ジャン=マルク・ナティエ	1741年	フェルゼン伯爵夫人カルロッタ=フレデリカ・スパレ
41	ジャン・オノレ・フラゴナール	1755-56年頃	ヴィーナスとキューピッド
42	フランソワ・ブーシェ	1765/70年	公園の少女
43	テオドール・ジェリコー	1814年以降	灰色のアラブの馬
44	ウージェーヌ・ドラクロワ	1859年	海辺のデモステネス

スペイン絵画

45	エル・グレゴ	1590/95年	聖痕を受ける聖フランチェスコ
46	フランシスコ・デ・スルバラン	1630年代初期	聖女ルフィーナ
47	フセペ・デ・リベーラ	1635年頃	聖オノフリウス
48	バルトロメ・エステバン・ムリーリョ	1650/55年	悔悛のアグダラのマリア
49	バルトロメ・エステバン・ムリーリョ	1670年	ヨシュア・ファン・ベレ
50	バルトロメ・エステバン・ムリーリョ	1670年代	小羊と遊ぶ幼い聖ヨハネ
51	ホセ・アントリネス	1670年頃	聖ペテロの解放
52	フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	1800年頃	眠り
53	フランシスコ・デ・ゴヤ・イ・ルシエンテス	1824年頃	黒いマンティーリャの婦人

(6) アーバンリゾートフェア' 神戸93関連展示会

トーマス・マックナイト展

・内 容 /

アーバンリゾートフェア' 神戸93のヴィジュアル アイデンティティ作家であるトーマス・マックナイト氏によるオリジナル作品、神戸ヴァージョンを中心に、これまでの同氏の代表作78点を、アーバンリゾートフェアにふさわしい“アーバン”と“リゾート”をテーマに展示構成した。

- ・会 期 / 平成5年5月22日(土)～6月27日(日)
- ・会 場 / 特別展示室2、ギャラリー
- ・主 催 / 神戸市立博物館・アーバンリゾートフェア' 神戸93推進協議会
- ・特別協賛 / さくら銀行
- ・作 品 / 原画77 シルクスクリーン2 制作過程4 合計83

URBAN RESORT FAIR **KOBE'93**
新しい都市魅力の創造

人気作家が描く神戸夢体験

THOMAS McKNIGHT



トーマス・マックナイトは1941年にカンザス州に生れる。子供の頃「ゴールデンサイクロペディア」という本の「ある風景」とりつかれ、彼の家園願望が芽生えた。その後家園を求めて世界各地へ出かけていったが本当の家園は自分の心の中にあることを発見する。マックナイトはまずキャンバスにカゼイン絵具で絵を描き、シルクスクリーンで再創造するという手法を用いている。彩色にも及び版を用いたシルクスクリーンはまるで宝石を散りばめたような色鮮やかな世界を創り出している。彼の描く世界は内なる風景と外なる風景が微妙な一体感を持ち、いつも安ど感のある温かいメッセージが伝わってくる。こういった作者の内なるハーモニーが私達を楽園へと導いてくれる。



アーバンリゾートフェア神戸'93
トーマス マックナイト

会期 **5月22日(土)~6月27日(日)** 休館日・毎週月曜日
開館時間・AM10:00~PM5:00 (入館はPM4:30まで)

展

私は初めて神戸を訪れた時ある感動を受けました。これまで私が題材としてきたニューヨークやフロリダ、ベニスといった都市とはちがった意味で私の心に創作意欲をかきたてる何か神戸にはあったのです。そんな時神戸から作品の依頼がありました。「アーバンリゾートフェア神戸'93」に力を貸してほしいというものでした。こうして私のKOBEシリーズは生まれました。そして、私の記念碑的な仕事にもなりました。

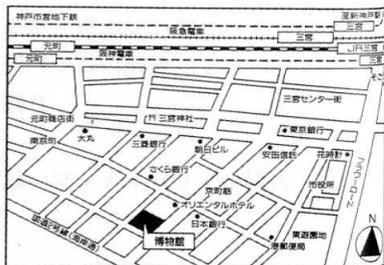
トーマス・マックナイト



トーマス・マックナイトプロフィール

1941年 カンザスのローレンスに生まれる。コネチカットのウエズレイン大学卒業後、コロンビア大学で美術史を学ぶ。アメリカ・ヨーロッパで多数展覧会を開く。
1981年 ニューポートアソシエーションにて特別展覧会を開催。
1982年 復活祭用期をデザインし、ホワイトハウスで開催される展覧会への、出展アーティスト30名に選ばれる。
1986年 メトロポリタン美術館の永久保存作品の1点に加えられる。
1989年 以降各地で展覧会を開催。

入館料：一般200円(団体160円)、高大生150円(団体120円)
小中生100円(団体70円) ※団体は30名以上。
主催：神戸市立博物館
アーバンリゾートフェア神戸'93推進協議会
特別協賛： さくら銀行



神戸市立博物館

〒650 神戸市中央区京町24番地 ☎(078)391-0000

同時開催 **花と鳥たちのパラダイス**
特別展 江戸時代長崎派の花鳥画 ※但し特別展料金が必要です。

トーマス・マックナイト展 作品

- 《ミコスノ ヴァリエーション》 7
 - ミコスの風景
 - ミコスの丘
 - エーゲ海の楽園
 - ミコスからの眺め
 - ミコスの港
 - ミコスの風車
 - ミコスの街
- 《ベニス ヴァリエーション》 4
 - ベネチアン・カプリチオ
 - ミラコリー
 - リアルト・グランドカナル
 - グランドカナル (ベネチアンラグーン)
- 《神話ヴァリエーション》 20
 - ボン・ファイヤー
 - 夕暮れのサタン
 - 夜明けのアフロディーテ
 - オルフェウス&ミュージズ
 - フォーレン・ナイト
 - パープル・ヌービアン
 - ヌービアン・フィッシャー
 - ヌービアン・イン・ストリーム
 - ヌービアン&ピッチャー
 - スリーパー・ロッキー・ビーチ
 - アレゴリー (アイシスの庭)
 - ポエット・ツリー
 - アトラス
 - ハートの神殿
 - シンキング・アトランティス
 - パン
 - ダフネ&サタン
 - グリフィン・オン・デロス
 - スフィンクス
 - エロス&サイキ
- 《メトロポリタン/コレクション》 1
 - オーストリアン・ガーデン
- 《ギリシャ ヴァリエーション》 4
 - 古いペリカン
 - 古い橋
 - 古い港
 - 古い円形のプール
- 《トロピカル・ヴァリエーション》 11
 - ビエネスター・ガーデン
 - イリア・バンガロー
 - トロピカル・パラダイス
- カリビアン・ラグーン
- リビエラ・パラダイス
- サファリルーム
- ベネチアン・アーチ
- アウトドア・ダイニングルーム
- クラークリンギングルーム
- インドアプール
- ポジタノテラス
- 《ランドスケープヴァリエーション》
 - コネチカットパレー
 - メキシカンプール
 - ゴルフ場のある風景
 - 灯台の見えるゴルフ場
 - メキシコ湾 (フロリダルーム)
 - ライトハウス (ニューポート)
 - サンディエゴ
 - パームアイランド
 - ベルナッツァ
- 《神戸 ヴァリエーション》 1+12
 - ポートアイランドからの眺め
 - 夜の海岸
 - キタノ
 - キタノ (シルクスクリーン)
 - 神戸コースト&ビーチ
 - オーバルルーム
 - 神戸リビングルーム
 - 六甲山ゴルフ
 - チャイニーズ・ゲート
 - パノラマ・ウェスト
 - フラワーロード
 - \$100万の夜景
 - パノラマ・ポートアイランド
- 《アーバン ヴァリエーション》 6
 - マチスの部屋
 - ココナッツ・グループ
 - 地中海の楽園
 - クイーンズ・ブリッジ
 - マチス・ギャラリー
 - アールデコの部屋
- 《ニューイングランドヴァリエーション》 3
 - 白いマンション (オレンジトスリート)
 - スコンセット (青いストライプのソファ)
 - サンボーチとウイステリア・マダケット
- 《制作過程》 1+4
 - 神戸ペイントハウス

タイムトンネル神戸ーまちと建築のうつりかわり展ー

- ・内容／アーキテクチャー・フェアKOB Eの主要イベントのひとつとしてまちと建築のうつりかわり展覧会が開催された。当館は3つの会場のひとつで、神戸の都市形成の歴史、旧居留地の建築の変遷、建築術の発展など、1868年の兵庫開港以来、現在に至るまでのまちと建築の移り変わりを、映像や模型を使ってわかりやすく紹介した。
- ・会期／平成5年7月17日(土)～9月19日(日)
- ・会場／特別展示室2、ギャラリー
- ・主催／神戸市・神戸市立博物館
- ・協賛／竹中工務店・東京銀行・松下電器産業・大井肉店・亀井堂総本店
柴田音吉商店・永田良介商店
- ・入館者数／11,351人
- ・展示内容／

5	4	3	2	B1	3	2	A1	
神戸写真館	シハラアイビジョン	近代建築の保存術	近代建築の建築術	神のまちのうつりかわり	KOB E銀行物語	居留地散策体験	神戸オリオン	テ ー マ
・メモリアルアルバム展示	・神戸近代建築史をファミリーメンリ	・保存建物、活用技術の紹介	・近代建築のオリジナル	・市街地100年の変遷	・東レ銀行資料展示	・TVディスプレイによる	・上部建築ライフリースクウ10	ア イ テ ム
1) バム式を絞リデイスプレイキャブ参加と入手資料による説明付	1) 仮囲いによる映写室制作	1) 保存転用、活用に絞リ、紹介リブラヴウエスト／レンガ倉	2) 製図技法の変遷を再現 3) 製図道具の再現	1) 当時の設計図、完成写真、設計者プロフィール紹介 2) 製図技法の変遷を再現 3) 製図道具の再現	1) 四代にせよ、お遊覧も展示 2) 現代的なペンに於けるお遊覧も展示	1) 1890年代の模範的建築の調査 2) 1900年代の模範的建築の調査	1) 神戸の発展の歴史 2) 神戸の発展の歴史	展 示 内 容 、 演 出

「印象 神戸」絵画展・大賞等受賞者名簿

「印象 神戸」絵画展

—神戸・その風景と無限に広がるイメージを追って—

- ・内容／住み続けたいまち、何度でも訪れてみたいまちをめざすアーバンリゾートフェアの趣旨を踏まえ、神戸の四季やイメージなどの表現を通して神戸の街を再認識する全国規模の絵画コンクールの公募が行われた。
全国32都道府県491人から655点の作品応募があり、大賞、優秀賞、佳作などの入賞作をはじめ入選作合計82点の作品が選ばれ、「印象 神戸」絵画展で紹介された。

- ・会期／平成5年9月25日(土)～10月23日(土)
- ・会場／特別展示室 2、南蛮美術室
- ・主催／「印象 神戸」絵画展運営委員会・神戸市・神戸市民文化振興財団
- ・後援／NHK神戸放送局・神戸市教育委員会

・審査委員長 河北倫明(美術評論家:横浜市美術振興財団理事長)

審査委員／石阪春生(洋画家:新制作協会)

石本 正(日本画家:創画会)

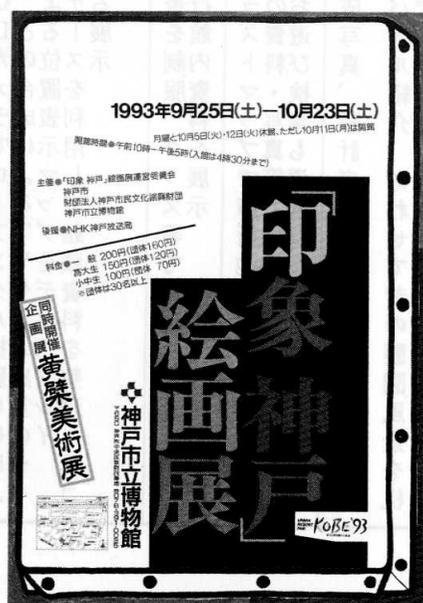
小倉忠夫(美術評論家:名古屋ポストン美術館設立準備委員会常任顧問)

絹谷幸二(洋画家:独立美術協会)

富山秀男(美術評論家:京都国立近代美術館長)

中西 勝(洋画家:二紀会)

増田 洋(美術評論家:兵庫県立近代美術館参与)



賞	作品名	号数	材質・技法	氏名	性	年齢	住所	所属美術団体
大賞	海と私と六角堂I	F100号	油彩	榎並和春	男	41歳	山梨県甲府市	国画会
優秀賞	海が見える	S100号	油彩	池末満	男	41歳	福岡県大川市	独立美術協会
優秀賞	SWEET ROOM (海ホテル)	S100号	油彩・アクリル・シナ合板 コンクリート・タイルほか	古巻和芳	男	26歳	兵庫県宝塚市	
佳作	「オシヤレなブラザーやねえ。どこで買おて来たん？」 「ハーバーランドで買おて来たんよ」	F100号	アクリル・油彩・カラー ジュガッシュ	角間好	男	39歳	兵庫県明石市	二紀会
佳作	記憶の風景(旅路)	S100号	油彩	瀧本周造	男	42歳	兵庫県姫路市	二紀会
佳作	KOBE夕景ファンタジー	P100号	油彩	谷田依寛子	女	51歳	大阪府松原市	二元会
佳作	神戸・六甲山麓の街	S100号	油彩	久川百合子	女	62歳	兵庫県神戸市須磨区	独立美術協会
佳作	港の風はワルツに乗って!	P100号	アクリル・MAXラボ	山田勝廣	男	55歳	相模原市	



西洋人の描いた 日本地図

ジバングからシーボルトまで

1993年11月3日(水・祝)～12月19日(日)

神戸市立博物館 〒650 神戸市中央区京町
TEL.078-391-0035



主催=神戸市立博物館, OAG・ドイツ東洋文化研究協会, 日本経済新聞社
 後援=文部省, ドイツ連邦共和国大使館
 開館時間=午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
 休館日=毎週月曜日及び11月16日(火)
 協賛=ルフトハンザドイツ航空, シーメンス株式会社, ドイツ銀行東京支店, ライノタイプ・ヘル株式会社
 エーイーシー日本株, コメルツ銀行東京支店, 謝シー・コレンス, 謝ジャパン シェンカー, デグザジャパン株, ドレスナー銀行東京支店, 日本エスエルエス・コンサルト株, 日本クリンゲルンベルク株, バイエルグルーブジャパン株, ヒュルスマン株, ビーロード・ジャパン株, フォルクスワーゲン アウディ 日本株, ヘキストジャパン株, ベルリナー・ハンデルス・フランクフルター銀行東京支店, ヘレウス株, ボッシュ株, メルセデス・ベンツ日本株

西洋人の描いた日本地図展 出品目録

平成5年11月3日(水、祝)～12月19日(日)

- I. ジバングの世紀
 - 1 シルヴァヌス 世界図 木版(42×58.5cm)
 - 2 ヴァルトゼーミュラー インドシナ半島と大韃靼図 木版(28.5×45cm)
 - 3 アピアン 北半球図(天体の位置決定のための可動部付き) 木版(17.5×14cm)
 - 4 ボルドーネ 日本図 木版(18.5×14.5cm)
 - 5 ミュンスター(推定)大アジア図 木版(24.5×33cm)
 - 6 ホンター 世界図 木版(12×15.5cm)
 - 7 ミュンスター 二つの大判木版図
 - A アジア図(25.5×34.5cm)
 - B 新世界図(25.5×34cm)
 - 8 ガスタルディ 世界新発見部分の全図 木版(28×32cm)
 - 9 ガスタルディ 東南アジア図 木版(27×38.5cm)

II. ポルトガル船の時代

- 10 オルテリウス「地球の舞台」の6つの地図における日本とオルテリウスの肖像
アントワープ 1570～1589年
 - 10A ガレ アブラハム・オルテリウスの肖像(39.5×28cm) 1579年
 - 10B 世界図(33.5×49cm) 1570年
 - 10C アジア図(37×49cm) 1570年
 - 10D 東インド図(34.5×49cm) 1570年
 - 10E 韃靼図(35×42cm) 1570年
 - 10F 中国図(36.5×47cm) 1584年
 - 10G 太平洋図(34×49.5cm) 1589年
- 11 ファン・ラングレン東アジア図(38.5×51.5cm)
- 12 メルラ世界図(29.5×50cm)

III. 天正遣欧使節の10年

- 13 キサトゥス 日本図 木版(26.5×40.5cm)

IV. 進歩と後退の300年

IV.1 オルテリウス/テイセラ型

- 14 オルテリウス/テイセラ日本図(35.5×48.5cm)
- 15 メテルス 日本図(14.5×21cm)
- 16 ファン・ウィットフリート
東西インドの歴史 ドゥアイ 1605年

- A 第3版のタイトルページ (30×18.5cm) 1605年 (1611年)
 B 日本図および東インド、中国、フィリピンの地図 (30×37cm) 1605年
- 17 ホンディウス 日本図 (34×44.5cm)
 - 18 ヤンソン 日本図 (34×45.5cm)
 - 19 ホンディウス アジア図 (37×50cm)
 - 20 ブラウ アジア図 (41×55.5cm)

IV.2 ブランクス/モレイラ型

- 21 ブランクス 日本図 (34×54.5cm) 1617年
- 22 ジンナーロ 日本図 (26.5×40cm)
- 23 カルディム 日本図 (30.5×40.5cm)
- 24 ダッドレー 日本図 (42.5×55.5cm)
- 25 ブリエ 日本図 (37×52cm)
- 26 ブタツ 日本図 (14.5×19.5cm) 1663年
- 27 サンソン 日本図 (18×27cm)
- 28 タヴェルニエ 日本図 (51.5×76.5cm)
- 29 マルティーニ 中国図 (46×60cm)
- 30 オッテンス アジア図 (100×123cm) 1671年 (1730年頃)

IV.3 マルティーニ/モレイラ型

- 31 マルティーニ 日本図 (41.5×61cm)
- 32 グース日本とノヴァ・ゼムラ間のアジア北東海岸 (44×54cm)
- 33 デ・ウィット 東南アジア図 (44×54cm)
- 34 モルデン 日本と蝦夷の新地図 (10.5×12.5cm)
- 35 モル 日本図 (13×18cm)
- 36 コロネリ 日本と朝鮮半島図 (45.5×61cm)
- 37 コロネリ 東アジア3枚の地球儀切片 (ゴア)(各46×28cm)
- 38 ハウブラケン ヴァレンティンの肖像 (36.5×24cm)
- 39 ヴァレンティン 日本図 (44×56cm)

IV.4 デュヴァル/モレイラ型

- 40 デュヴァル 日本図 (10×6cm) の組込まれたアジア図 (40×48.5cm) パリ 1661年
- 41 デュヴァル 日本図 (10×12cm)
- 42 モル 日本の諸島 (7×12cm) およびモルッカ島とフィリピンの地図 (全体図25×12cm) 1681年
- 43 ミュラー 日本図 (6.5×7.5cm)

IV.5 ル・ルージュ/モレイラ型

- 44 ル・ルージュ 日本および朝鮮図 (20.5×27.5cm)
- 45 カイザー/デュ・ラ 日本図 (17×24cm) 1797年
- 46 カッシーニ 日本および朝鮮図 (35×48cm) 1797年

IV.6 ダッドレー/ヤンソン型

- 47 ダッドレー 日本と蝦夷、および朝鮮国と周辺諸島の地図 (48.5×75.5cm)
- 48 ヤンソン 日本および蝦夷図 (15×19cm)
- 49 ブツェリニウス 日本図 (6×10.5cm)
- 50 ヤンソン 新精確日本、蝦夷および付随諸島図 (45.5×55cm)
- 51 サンソン 日本図 (18.5×24cm)
- 52 ファン・デア・アー日本図 (15×23cm)
- 53 ファン・デア・アー日本図 (15×23cm)
- 54 シャトラン 日本図 (15.5×11.5cm)
- 55 バゲイ 日本図 (22×28cm)

IV.7 マレ型

- 56 マレ日本図 (14×10cm)

IV.8 アッフェルデン型

- 57 デュ・フェール フィリピン、モルッカ諸島図 (14×16.5cm) に組込まれた日本図(6×8.5cm)

IV.9 レランド型

- 58 レランド66州に分けられた日本 (30.5×44.5cm)
- 59 レランド66州に分けられた日本 (48.5×60cm)
- 60 レランド66州に分けられた日本 (48.5×60cm)
- 61 レランド66州に分けられた日本 (48.5×60cm)
- 62 シャトラン 日本図 (36×43.5cm)
- 63 ゾイター66州に分けられた日本帝国 (46.5×57.5cm)

IV.10 ケンペル/ショイヒツァー型

- 64A ケンペル/ショイヒツァー68州に分けられた日本 (46×53cm)
- 64B ケンペル 日本誌 ロンドン 1727年
- 65 ケンペル/ショイヒツァー68州に分けられた日本国図 (42×50.5cm)
- 66 ティリオン 新日本帝国地図 (24.5×32.5cm)
- 67 ティリオン 新帝国日本図 (27.5×31.5cm)
- 68 ゾイター 日本帝国 (48.5×56cm)

IV.11 ベラン・ケンペル型

- 69 ベラン 日本帝国図 (42×53.5cm)
- 70A ベラン 日本諸島とカムチャッカ図 (32.5×28cm)
- 70B ベラン 日本諸島、蝦夷および近隣の国々 (25×35.5cm)
- 71 ベラン 日本諸島、朝鮮半島および北京から広東までの中国沿岸 (21×28.5cm)
- 72 ランベルティ トランプ (10.5×6.5cm) に描かれた日本帝国図 (3.5×5.5cm)

IV. 12 ロベール／ケンペル型

- 73 AおよびB ロベール 日本国 (各16×16cm)
- 74 ロベール日本帝国図 (48×53.5cm) 1750年
- 75 セイヤー日本帝国図 (48×63.5cm) 1794年

V. 市街図と路程図

V. 1 江戸図

- 76 ショイヒツァー江戸図 (34×39.5cm)
- 77 ベラン江戸図 (32×32cm)
- 78 エンドリュース 江戸図 (17×16cm)

V. 2 長崎図

- 79 モンタヌス出島 (25×34cm)
- 80 ケンペル
- 81 フォンタネー長崎 (13.5×23.5cm)
- 82 シュテックライン 長崎図 (13.5×23.5cm)
- 83 ファン・デア・アー 平戸湾と長崎湾 (18.5×15cm)
- 84 ケンペル／ショイヒツァー 長崎市街図 (31.5×46.5cm) アムステルダム 1740年頃
- 85 ベラン 長崎の港と市街図 (20×44.5cm)
- 86 ベラン 長崎の港と市街図 (19.5×33cm)

V. 3 陸路図／水路図

- 87 モンタヌス長崎から大阪までの水路図および大阪から江戸までの陸路図 (42×53cm)
- 88 ケンペル 江戸に向かうオランダ人一行 (20×31cm)
- 89 ケンペル 長崎から江戸までの7枚の路程図 アムステルダム 1740年頃

VI. 南と北 琉球と蝦夷

VI. 1 琉球図

- 90 ダッドレー 中国沿岸、台湾および日本の南方諸島の部分図 (48×76cm)
- 91 ゴービル 琉球諸島の図 (17×21.5cm)
- 92 ラ・ペルーズ 1787年に中国および韃靼地方の海でなされた発見に関する地図 (48.5×69cm)
- 93 シーボルト 琉球諸島北部の島々 (28×45.5cm)

VI. 2 蝦夷周辺図

- 94 ダッドレー
蝦夷の東部およびアメリカと蝦夷間の海峡の図 (46.5×74cm)
- 95 マレ 蝦夷図 (14.5×10.5cm)
- 96 ファン・デア・アー 蝦夷図 (15.5×15.5cm)

- 97 カロン 日本の位置に関する完全な地図 (24.5×37.5cm)
- 98 カロン 日本の位置に関する正しい海図 (14.5×22.5cm)
- 99 シェーラー アジア図 (23×35.5cm)
- 100 サンソン アジア図 (19×27cm)
- 101 サンソン アジア図 (40.5×56.5cm)
- 102 ロッシ 大韃靼図 (42.5×53cm)
- 103 ホーマン カムチャッカまたは蝦夷図 (カスピ海の図を含めて48×57.5cm)
- 104 ロラン ロシア地図による千島列島図 (23.5×26cm)
- 105 ラ・ペルーズ1784年に中国と韃靼の海域でなされた発見の地図 (50×79cm)

VII. 19世紀初頭

- 106 エロースミス／ルイス 日本図 (20×24.5cm)
- 107 エロースミス 日本帝国図 (24.5×40cm)
- 108 作者不明 ロベールの下絵による7つの地方からなる日本 (17.5×20.5cm) プラハ1812年
- 109 ピンカートン／ヘーベルト 日本図 (50×74.5cm)
- 110 ジョーンズ 日本の諸島 (20.5×26.5cm)
- 111 トムソン 朝鮮および日本図 (49.5×62cm)
- 112 ウォーカー 日本帝国図 (39×37cm)

VIII. シーボルト

- 113 川原慶賀 シーボルトの肖像画 紙本著色 (26.5×19.5cm) 1825年頃
- 114 シーボルト 日本国 石版 (59.4×79cm) ライデン1840年
- 115 シーボルト 日本。日本とその近隣、保護諸国に関する記録集
ライデン1832年～1858年
- 116 シーボルト ファン・デア・カペレン海峡図 石版 (31.5×43cm)
- 117 シーボルト 関門海峡 手書き (30×42cm) 1850年頃
- 118 シーボルト 蝦夷図 手書き (48×28cm) 1850年頃
- 119 シーボルト 蝦夷および千島列島図 石版 (49.5×67cm)
- 120 シーボルト 樺太およびアムール河口の図 手書き (76×58.5cm) 1850年頃
- 121 シーボルト 樺太およびアムール河口の図 石版 (67×49.5cm)
- 122 ボリンガー クルーゼンシュテルンの肖像 (13×10cm)
- 123 クルーゼンシュテルン
シーボルトに宛てた1834年10月12日の手紙、二つ折りにされた紙の4ページに手書き
(25.5×41cm)

IX. 屏風の中の「世界」と「日本」

- 124 二十八都市・萬国絵図 八曲一双 紙本著色 (各193.5×513.6cm)
桃山時代 (宮内庁蔵)
- 125 日本図・世界図屏風 六曲一双 紙本著色 (各148.5×364cm)
桃山時代 (浄得寺蔵) 重要文化財

〈出品目録〉

- 126 世界地図屏風（レパント戦闘図・世界地図屏風の内）六曲一隻
紙本著色（153.5×370cm）江戸時代初期（香雪美術館蔵）重要文化財
- 127 世界地図・萬国人物図屏風 六曲一双 紙本著色（166.7×481.4cm／世界図、
163.5×216.4 cm／人物図）江戸時代初期（出光美術館蔵）
- 128 泰西王侯騎馬図屏風 四曲一双 紙本著色（各184×245cm）桃山時代
（サントリー美術館蔵）重要文化財
- 129 泰西王侯図屏風 六曲一双 紙本著色（各123.8×51.4cm）桃山時代
（長崎県立美術博物館蔵）重要文化財
- 130 南蛮屏風 伝狩野山楽筆 六曲一双 紙本著色（各182×371cm）桃山時代
（サントリー美術館蔵）
- 131 南蛮人来朝之図 六曲一双 紙本著色（各168×390cm）江戸時代初期
（長崎県立美術館蔵）重要美術品
- 132 南蛮屏風（南蛮図・競馬図屏風の内）六曲一隻 紙本著色（156×330cm）江戸時代
（唐招提寺蔵）

資料名	員数	作者	時代	備考
1 諸葛孔明陣中図 <small>しよかつこうめいじんちゆうず</small>	1幅	おほらけいざん 小原慶山筆	江戸時代前期	
2 松虎図 <small>まつとら</small>	1幅	まついけいとく 松井慶徳筆	江戸時代中期	
3 海棠白頭翁図 <small>かいとうはくとうおう</small>	1幅	松井慶徳筆	江戸時代中期	
4 鷹に小禽図 <small>たか しょうきん</small>	1幅	とど 忠徳筆 戸田忠翰筆	寛政8年(1796)	
5 牡丹に白頭翁図 <small>ぼたん</small>	1幅	やまだくわじょう 山田宮常筆	江戸時代中期	
6 品川妓楼図	1幅		江戸時代	
7 独笑妄言（写本）	1冊	しばこうかん 司馬江漢著	原本 文化7年(1810) 写本 文政7年(1824)	
8 西洋婦人図綃絵 <small>さや</small>	1面		江戸時代	
9 色絵皿各種	4枚	オランダ製	18世紀初期	
10 緑地西洋少女図蓋付碗	5合	イギリス製	19世紀前期	
11 青磁小皿	5枚	イギリス製	19世紀前期	
12 京阿蘭陀・染付西洋風景図刀掛 <small>かたなかけ</small>	1点		江戸時代後期	
13 京阿蘭陀・染付西洋風景図大皿	1点		江戸時代後期	
14 カットガラスコンポート	1点	イギリス製	19世紀前期	
15 金彩藍色カットガラス碗	1口	イギリス製	19世紀前期	
16 カットガラス栓付瓶	2点	イギリス製	19世紀	
17 切子ガラス小皿	5枚		江戸末～明治初期	
18 浅草図ガラス徳利	1点		明治初期	
19 蓋付ガラス飾瓶（仏国型飾瓶） <small>ふたつき かざりびん</small>	1合		明治35年(1902)頃	
20 VOC関連資料	一括のうち			
グイテ・レーウ号積載錫製皿			1613年頃	
グイテ・レーウ号積載陶磁器			1613年頃	
コンパス			17世紀	
東インド地域図	ブラウ, W.		1635年	
モルッカ諸島図	ブラウ, W.		1647年	
南シナ海引き揚げ染付小碗			17世紀中期	
VOC マーク入り金貨、銀貨、銅貨			17～18世紀	
VOC マーク入り船員用櫃			1718年	
染付VOCマーク入り有田焼小皿			18世紀初期	
ホランダア号積載ワインボトル			18世紀前半	
VOCとA(アムステルダム)の組合せ文字のある宗教書 出島図	アルブリッヒ, G.		1734年	
VOCとA(アムステルダム)の組合せ文字のある両刃の剣			1737年	
VOCとA(アムステルダム)の組合せ文字のある両刃の剣			1752年	

資料名	頁数	作者	時代	備考
VOCとD(デルフト)の組合せ文字のある刀剣			1761年	
ヘルデルマルセン号積載色絵手付碗			1750年頃	
VOCマーク入りパイプ火皿			18世紀	
港務長の権威を象徴する銀製具(VOCマーク入りコイン付)			18世紀	
ジャワ製木製箱			18世紀	
VOCマーク入り小銃機関部			18世紀後期	
VOCマーク入り銀製ボタン			19世紀初期	
商館長ブロンホフの頭巾			19世紀前半	
21 新板播州順参双六	1枚		江戸時代後期	
22 門口町水帳	1冊		明和8年(1771)	西川光一氏寄贈
23 門口町御検地写名寄帳	2冊	寛政10年(1798), 文化10年(1813)		西川光一氏寄贈
24 兵庫津寺社方絵図	1舗	原本 寛政2年(1790)		
25 生島五郎兵衛家文書	一括のうち	江戸後期～明治		生島藤根子氏寄贈
26 摂州 ^{やたべん} 矢部郡車村妙法寺村石炭砒之図	1幅	慶応2年(1866)		森本泰好氏寄贈
27 小平野庄上之庄水論始終記	1冊	寛政元年(1789)		森本泰好氏寄贈
28 奥平野村字別地図	1綴	明治8年(1875)		森本泰好氏寄贈
29 奥平野村地誌	1冊	明治17年(1884)		森本泰好氏寄贈
30 奥平野村全図	1舗	明治前期		森本泰好氏寄贈
31 摂津 ^{やたべん} 八部郡奥平野村全図	1舗	明治前期		森本泰好氏寄贈
32 神戸市奥平野村全図	1舗	明治後期		森本泰好氏寄贈
33 神戸兵庫実測新図	1枚	明治21年(1888)		
34 和英詳密神戸市全図	1枚	明治24年(1891)		
35 布引 ^{ぬのびき} (古写真)	1枚	明治中～後期		
36 諏訪山温泉(古写真)	1枚	明治中～後期		
37 諏訪山より神戸市街を望む(古写真)	1枚	明治中期		
38 有馬温泉 ^{ありま} (古写真)	1枚	明治中～後期		
39 神戸開港50年祭五大祝典記念号	1冊	大正10年(1921)		
40 てんやわんや(絶筆)	2曲1隻	昭和55年(1980)		深山八洲夫氏寄贈
41 因幡風景(冬) ^{いなば}	1点	昭和49年(1974)		大垣泰治郎作

当館の古地図資料は、それぞれ寄贈を受けた南波松太郎氏(1894年～)収集のものと、地理学者秋岡武次郎氏(1895～1975年)収集のものとを中核にしています。両コレクションはかねてより“日本一”の評価の高かったもので、合わせて7000点余の古地図資料が当館に保管されています。

それらに加えて、南蛮美術で有名な池長孟コレクションの中にも珍しい地図があり、またヨーロッパ製古地図、神戸関係古地図等々も熱心に収集しています。神戸市立博物館の古地図は、我が国屈指の質を誇っており、開館以来、それらを基に古地図のテーマ展示をしていることは、他館にみられないユニークな活動となっています。

今回の第23回古地図企画展示では“名品展”と銘打ち、当館の誇る古地図の逸品を見ていただくと思いますが、特に日本地図のあゆみに焦点をあてます。

古い日本地図といえば、だれしもが伊能忠敬の実測日本地図を思い浮かべるでしょうが、それに加えて江戸時代の人々が見ていたそれ以外の日本地図や、西洋に影響を与えたり、皿や印籠のデザインとなった日本地図等々を展示します。

最古の日本地図の姿から伊能図まで、日本人の描いた日本地図展をお楽しみください。

表紙はNo.33 江戸実測図

《出品目録》

No.	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
〔江戸時代のいろいろな日本地図〕						
1	嘉元3年(1305)日本図		江戸時代写図	手書手彩	38.5×134.4	南波松太郎 コレクション
	*現存最古の日本地図は京都仁和寺に所蔵される1305年のもの。本図はそれを江戸時代に模写したもの。西日本部分が欠。					
2	日本地図屏風		安土桃山時代	手書手彩	59.9×123.8	南波松太郎 コレクション
	*古代以来の日本地図である「行基図」から一歩進んだ日本地図。テイセラ「日本図」(1595年)と類似。					
3	拾芥抄		江戸時代初期	木活木版	27.4×20.9	秋岡武次郎 コレクション
	*我が国最初の印刷された日本地図。					
4	行基菩薩説大日本国図		江戸時代初期	木版	80.4×42.3	南波松太郎 コレクション
	*江戸時代初期には古いタイプの日本地図の「行基図」が刊行される。					
5	扶桑国都水陸地理図		江戸時代前期	手書手彩	131.4×182.4	
	*徳川幕府作成の、いわゆる慶長日本図を模写したもの。					
6	寛文日本図		寛文(1661-73)頃	手書手彩	87.8×239.9	南波松太郎 コレクション
7	日本輿地細見図 (幕府撰正保日本図写し)		宝永(1704-11)頃	手書手彩	260.5×232.6	南波松太郎 コレクション
	*徳川幕府作成の正保日本図の模写図。ただし、模写年代は大和川付け替えの様子が描かれているため宝永頃。					
8	新改 日本大絵図		寛文2年(1662)	木版手彩	59.1×88.3	南波松太郎 コレクション
	*17世紀後半から、行基図より一歩進んだ日本地図が印刷され流布する。					

No.	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
9	日本分形図 *初の地図帳形式の日本地図		寛文6年(1666)	木版手彩	19.5×13.8	南波 松太郎 コレクション
10	新撰大日本図鑑 *ヨーロッパに伝わりケンペル・ショイヒツェル日本図を生む。		延宝6年(1678)	木版手彩	69.1×92.5	南波 松太郎 コレクション
11	日本大瀧道図		貞享3年(1686)	木版手彩	59.7×92.5	南波 松太郎 コレクション
12	本朝図鑑綱目 *いわゆる「流宣図」の初版。街道や宿場等の交通情報が豊富、武鑑の役割も持つ。	石川 流宣	貞享4年(1687)	木版手彩	59.9×130.8	南波 松太郎 コレクション
13	日本海山潮陸図 *貞享4年図をさらに大型詳細にしたもの。ヨーロッパにも伝わりレランド日本図を生む。 江戸時代前期～中期に最も人気のあった日本地図で、繰り返し再版される。	石川 流宣	元禄4年(1691)	木版手彩	97.0×168.1	南波 松太郎 コレクション
14	改正大日本全図 *「流宣図」に比較して、情報量は少ないものの地形は整っている。	馬淵自麁庵	18世紀初期	木版手彩	78.8×126.5	南波 松太郎 コレクション
15	日本図 *良安は大坂の医師で「和漢三才図会」の作者。巨大な卷子装仕立てで垂直に立てて見る珍しいもの。	寺島 良安	享保12年(1727)	手書手彩	180.2×265.0	
16	改正日本輿地路程全図 *長久保赤水は水戸藩の儒学者で、他に世界地図や中国図も作成。この日本地図は流宣図にかわって江戸時代後期に最も人気を博した。	長久保赤水	安永8年(1779)	木版手彩	83.2×134.3	秋岡 武次郎 コレクション
17	三国通覧図説(1冊5舗) *本書には付図として朝鮮・琉球・蝦夷・無人島(小笠原諸島)の各図と、それらを統合した「三国通覧輿地路程全図」の5枚がある。日本列島をアジア地域のなかで位置づけた先駆的な地図。	林子平	天明5年(1785)	木版手彩	26.5×17.8(本)	池長 孟 コレクション
					53.2×76.6(三国通覧輿地路程全図)	
					53.5×75.4(朝鮮国全図)	
					53.2×75.5(琉球国全図)	
					54.4×96.1(蝦夷国全図)	
					27.1×65.4(無人島之図)	
18	大日本細見指掌全図 改正増巻 *江戸時代における最大寸法の木版日本地図。	筱 応道	文化5年(1808)	木版手彩	137.2×227.5	秋岡 武次郎 コレクション
19	日本境界略図 *世界地図の「新鑿総界全図」と対。アジア地域の中で日本列島が正しく位置づけられた。	高橋 景保	文化6年(1809)	銅版手彩	23.3×106.0	南波 松太郎 コレクション
20	日本鳥瞰図屏風		江戸時代後期	手書手彩	64.7×211.1	南波 松太郎 コレクション
21	銅版 増訂日本輿地全図	安田 雷洲	天保2年(1831)	銅版手彩	47.2×79.5	南波 松太郎 コレクション
22	本邦西北辺境水陸略図 *高橋景保「日本境界略図」の海賊版。	安田 雷洲	嘉永3年(1850)	銅版手彩	23.8×34.1	南波 松太郎 コレクション
23	大日本沿海要圖全図 *日本及びその周辺、特に北方地域が従来の地図よりはるかに正確に描かれている。	工藤 東平	嘉永7年(1854)	木版刷彩	105.2×54.6	秋岡 武次郎 コレクション
24	大日本沿海略図 *伊能図を基にしたイギリス製日本地図を勝海舟が翻訳・出版した、逆輸入日本地図。	勝 海舟	慶応3年(1867)	木版刷彩	72.0×78.8	南波 松太郎 コレクション
25	羽子板型日本図 *顕微鏡が付属品として付いており、それを通して見る極小銅版地図。	松田 緑山	江戸時代末期	銅版	3.8×1.3	南波 松太郎 コレクション

No.	資料名	作者等	時代	版種	寸法(cm)	備考
26	大日本名所一覽	喜斎 立祥	江戸時代末期	木版刷彩	35.2×122.3	南波 松太郎 コレクション
27	源内焼方形日本図皿		江戸時代中期	志度 窯	31.5×31.5	
28	伊万里焼日本図皿		日本文政年製	有田 窯	27.3×30.3	池長 孟 コレクション
29	伊万里焼円形日本図皿 (鶴に方位盤)		本朝天保年製	有田 窯	径48.3	
30	日本地図印籠 *日本地図があしらわれた印籠は極めて珍しい。		江戸時代後期		8.4×8.6×2.0	
〔伊能忠敬実測日本地図〕						
31	沿海地図 *北海道南岸から中部地方までの東日本地図。忠敬の地図作成能力の高さを幕閣に認めさせた記念碑的地図。 以後、忠敬は幕吏に登用され、その測量作業は幕府直轄業務となる。	伊能 忠敬	文化1年(1804)	手書手彩	215.1×254.4	南波 松太郎 コレクション
32	日本輿地図彙 *忠敬の最初の日本全体地図。九州未測量の時期に作成したため、その地形は不正確。	伊能 忠敬	文化6年(1809)	手書手彩	120.5×204.0	南波 松太郎 コレクション
33	江戸実測図 *忠敬の測量調査の最後を飾る、かつ唯一の実測町図(縮尺六千分ノ一)。 本来は南北二図一組だが、本図はその南側部分。	伊能 忠敬	文化14年(1817)	手書手彩	197.6×314.0	
34	伊能小図(西日本図)	伊能 忠敬	文政4年(1821)	手書手彩	203.5×162.1	南波 松太郎 コレクション
35	伊能小図(北海道図) *小縮尺地図(432000分ノ一)三枚で日本全体を描く伊能小図だが、本館にはその中央部分が欠けている。	伊能 忠敬	文政4年(1821)	手書手彩	161.6×181.1	南波 松太郎 コレクション
36	日本国地理測量之図 *伊能図を編集して日本全体図としたもの。江戸時代後期～末期にいくつか作成されたようである。	伊能 忠敬	江戸時代後期	手書手彩	390.0×425.0	

装飾須恵器展 平成6年2月26日～4月10日

〈出品目録〉

No.	出土地	資料名	所蔵者
I. その起源を求めて —朝鮮半島の陶質土器—			
1		騎馬人物像壺 (模造)	神戸市立博物館
2		台付角坏 (模造)	〃
3		筒形器台 (模造)	〃
II. 須恵器生産の定着と装飾須恵器			
4	大阪府堺市大庭寺遺跡	須恵質船形土器	大阪府埋蔵文化財協会
		高坏	〃
		器台	〃
		樽形甗	〃
		鈴付高坏	〃
III. 異形の須恵器 —そのバリエーション—			
5	出土地不詳	鳥鈕蓋付台付壺	逸翁美術館
6	岡山市宮浦東干川	鳥形瓶	大阪市立美術館
7	広島県本郷町平坂古墳	鳥形瓶 (複製)	広島県立歴史博物館
8	広島県向原町千間塚古墳	環状瓶 (複製)	広島県立歴史博物館
9	奈良県御所市御所	鳥形甗	京都大学文学部博物館
10	愛知県一宮市 (旧葉栗郡)	皮袋形提瓶	京都大学文学部博物館
11	兵庫県神戸市北区北神ニュータウン9-2号墳	皮袋形提瓶	神戸市教育委員会
		蓋坏	〃
12	島根県松江市西川津町金崎古墳	鈴付高坏	京都大学文学部博物館
		五連壺	〃
		筒形器台	〃
		有蓋高坏	〃
		大型甗	〃
		台付壺	〃
		直口壺	〃
13	大阪府岸和田市三田古墳	鈴付高坏	大阪府埋蔵文化財協会
14	鳥取県東伯郡東郷町野方	鈴付台付壺	京都大学文学部博物館
15	兵庫県三田市奈良山7号墳第3主体	鈴付台付甗	三田市教育委員会
		蓋坏	〃

No.	出土地	資料名	所蔵者
16	兵庫県三田市西山5号墳	台付角付盃	三田市教育委員会
		蓋环	"
17	兵庫県三田市内出土	角付盃	三田市教育委員会
18	兵庫県三田市前ノ谷古墳	角付盃	三田市教育委員会
		蓋环	"
19	兵庫県三田市宮脇古墳群	台付碗	三田市教育委員会
20	兵庫県加古川市平荘湖古墳群池尻2号墳	二連甕	加古川市教育委員会
		甕	"
		無蓋高环	"
21	奈良県天理市石上・豊田古墳群ホリノヲ4号墳	双口甕	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館
		無蓋高环	"
22	京都市伏見区醍醐1号墳	特殊扁壺	京都市考古資料館
		裝飾付台付壺	"
		环身	"
23	兵庫県三田市道東古墳	特殊扁壺	兵庫県教育委員会
		蓋环	(三田市教育委員会)
24	兵庫県三田中西山3号墳	特殊扁壺	兵庫県教育委員会
		蓋环	(三田市教育委員会)
25	兵庫県社町上三草7号墳	裝飾付子持壺	加東郡教育委員会
		特殊扁壺	"
		环付瓶	"
		蓋环	"
26	兵庫県明石市赤根川・金ヶ崎窯跡	角环	明石市立文化博物館
		蓋环	"
IV 小像で飾られた器			
27	兵庫県加古川市白沢窯跡	人形須恵器	兵庫県教育委員会
		蓋环	"
28	兵庫県龍野市西宮山古墳	裝飾付台付壺	京都国立博物館
		子持台付壺	"
		蓋环	"
29	兵庫県西紀町箱塚4号墳	裝飾付台付壺	兵庫県教育委員会
		特殊扁壺	"
		蓋环	"
30	神戸市垂水区西石ヶ谷4号墳	裝飾付台付壺	神戸市教育委員会
		蓋环	"

No.	出土地	資料名	所蔵者
31	神戸市垂水区昆沙門1号墳	裝飾小像	神戸市教育委員会
		有蓋高环	"
		器台	"
		环身	"
32	奈良県五條市南阿田大塚山古墳	裝飾付子持壺	五條市教育委員会
		子持壺	(奈良県立橿原考古学研究所)
		蓋环	"
33	京都市西京区大枝山22号墳	裝飾付台付壺	京都市考古資料館
		蓋环	"
34	兵庫県明石市赤根川・金ヶ崎窯跡	配像甕	明石市立文化博物館
		蓋环	"
V ミニチュアで飾られた器			
35	出土地不詳	子持台付壺	神戸市立博物館
36	兵庫県加古川市池尻古墳群升田山15号墳	子持台付壺	加古川市教育委員会
		蓋环	"
37	兵庫県加古川市宮山3号墳	子持台付壺	加古川市教育委員会
		短頸壺	"
38	兵庫県尼崎市園田大塚山古墳	子持壺	京都大学文学部博物館
		蓋环	"
39	奈良県桜井市倉橋古墳	子持台付壺	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館
40	出土地不詳	子持台付壺	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館
41	出土地不詳	子持台付壺	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館
42	奈良県平群町烏土塚古墳	子持器台	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館
		蓋环	"
43	奈良県北葛城郡新庄町山	子持器台	京都大学文学部博物館
		無蓋高环	"
44	京都市右京区巽1号墳	子持器台	京都市考古資料館
		蓋环	"
45	兵庫県三田市西山6号墳	子持蓋付壺	三田市教育委員会
46	広島県本郷町御年代古墳	子持高环(複製)	広島県立歴史博物館

*都合により一部の資料の展示替えをします。

(2) 南蛮紅毛美術展示

旧南蛮美術館所蔵資料及び本館収集資料を中心に、テーマを設定した企画展示を行う。

展覧会名	会 期	内 容
黄檗美術展	5. 9. 25～10. 23	江戸時代の初頭、中国から隠元禅師がもたらした新しい禅宗美術の諸相を、絵画や書作品約50点で概観
南蛮美術名品展	6. 1. 8～2. 20	日本とヨーロッパとの初めての出会いから生まれた、17世紀はじめの南蛮屏風や洋風画、南蛮漆器などを展示。

出品目録

I 黄檗宗を伝えた人々

日本黄檗宗の開祖・隠元禪師(1592～1673)と、弟子の木庵・即非らの肖像画を展示します。禪宗の肖像画は頂相と呼ばれ、師から弟子への伝法の証明となるものですが、黄檗宗のそれは真正面向きの姿に特色があり、顔には西洋画から学んだ陰影をほどこして、写実的に描かれます。喜多長兵衛と喜多元規はその代表的な画家で、2人は親子か師弟だったと考えられています。同じ人物を描いても、作られた年齢によって白髪やシワの数などに変化が見られ、黄檗肖像画の写実性をよく実感させてくれます。また、異なる画家が描けば、同じ人物であってもずいぶんと印象は変わってきます。1～5, 7の隠元像や2, 6, 7の木庵像で比較してみてください。

1. 密雲・費隱・隠元像	天和3年(1683)木庵性瑠贊	逸然性融筆	3幅対	絹本著色
2. 隠元・木庵・即非像	各自贊	喜多長兵衛筆	3幅対	紙本著色
3. 隠元倚騎獅像	自贊	喜多長兵衛筆	1幅	紙本著色
4. 隠元隆琦像(三高僧像のうち)	独湛性瑩贊	東皐心越筆	1幅	絹本著色
5. 隠元隆琦像	享保18年(1733)宝航元濟贊	渡辺秀石筆	1幅	紙本著色
6. 木庵性瑠像	延宝2年(1674)自贊	喜多元規筆	1幅	絹本著色
7. 隠元・木庵・鉄牛像	延宝8年(1680)鉄牛道機贊	喜多元規筆	1幅	絹本著色
8. 慧極道明像(遊山図)	宝永7年(1710)自贊	元高筆	1幅	紙本著色
9. 干呆性佞像(円相)	元禄13年(1700)自贊	元喬筆	1幅	絹本著色
10. 大衝海権像	元禄14年(1701)自贊	元香筆	1幅	絹本著色
11. (参考) 虎図		元香筆	1幅	絹本著色
12. 恆峰寂廓像	元文5年(1740)弥管照高贊	永井元真筆	1幅	紙本著色
13. 大潮元皓像	自贊	津田元瑠筆	1幅	絹本著色
14. 林道栄像			1幅	絹本著色
15. 達磨図	延宝3年(1675)木庵性瑠贊	喜多元規筆	1幅	絹本著色

II 唐絵の誕生——江戸奇体美の源流——

黄檗宗がはぐくんだもう1つの絵画は、肖像画の写実主義とは全く対照的な、唐絵という奇怪でエキセントリック(常軌を逸脱した)な、個性的スタイルでした。これは黄檗僧らが持ちこんだ明清画風の影響を受けた中国臭の強い画風で、18世紀に日本では流行する「奇体美」の源流といえます。このコーナーでは、中国から日本の黄檗寺院で流行する「奇体美」の源流といえます。このコーナーでは、中国から日本の黄檗寺院へ仏画を描き送った陳賢、黄檗寺院の仏像を作るために来日した彫刻家・范道生(1635～1670)、長崎の在留唐人で隠元を日本へ招いた黄檗僧・逸然(1601～1668)、その日本人弟子で唐絵の奇体美を増幅させて独特の画風を築いた河村若芝(1638～1707)らの作品を展示します。

16. 羅漢図	宝永6年(1709)鉄心道胖贊	陳賢筆	1幅	紙本淡彩
17. 羅漢図	即非如一贊	范道生筆	1幅	絹本淡彩

18. 朱衣達磨図	悦山道宗贊	陳秀山筆	1幅	紙本著色
19. 布袋図	独立性易贊 寛文2年(1662)	逸然性融筆	1幅	絹本著色
20. 観音・布袋・寒山図	隠元・木庵・即非贊 寛文2年(1662)	逸然性融筆	3幅対	絹本著色
21. 六祖像	隠元隆琦贊	逸然性融筆	6幅対	絹本著色
22. 群仙星祭図	寛文9年(1669)	河村若芝筆	1幅	絹本著色
23. 山水図	延宝3年(1675)	河村若芝筆	1幅	絹本著色
24. 芦葉達磨図	延宝5年(1677)	河村若芝筆	1幅	絹本著色
25. 豊干騎虎図	木庵性瑠贊 延宝5年(1677)	河村若芝筆	1幅	絹本著色
26. 達磨図	貞享元年(1684)高泉性敦贊	河村若芝筆	1幅	絹本著色
27. 達磨図	木庵性瑠贊	河村若芝筆	1幅	紙本墨画
28. 寒山図	即非如一贊	河村若芝筆	1幅	紙本著色
29. 石榴白頭翁図	林道栄贊	渡辺秀石筆	1幅	絹本著色

III 画僧・鶴亭の作品

隠元禪師の来日(1654年)からほぼ100年、18世紀の上方で黄檗絵画の伝統をみごとな花鳥画に結実させたのが、長崎出身の黄檗僧・鶴亭(1722～1785)です。長崎の聖福寺で黄檗僧になった鶴亭は、若くして上方へ移り、奇妙な造形感覚と華麗な色彩で美しい花鳥画を描くかたわら、機智に富んだ水墨画にもすぐれていました。黄檗文化が生んだ造形美の、ひとつの頂点をなす画家といつてよいでしょう。池大雅や柳沢淇園らとの交遊が知られていますが、大阪を代表する文人・木村蒹葭堂(1736～1802)も、少年時代に鶴亭から絵を学び、黄檗風の作品を残しています(40)。

30. 松鷹小禽図	宝暦3年(1753)	鶴亭筆	1幅	絹本著色
31. 竹に黄鳥図	宝暦4年(1754)	鶴亭筆	1幅	絹本著色
32. 松に白鷹図		鶴亭筆	1幅	絹本著色
33. 墨梅図		鶴亭筆	1幅	紙本墨画
34. 山水図	明和元年(1764)	鶴亭筆	1幅	紙本墨画
35. 南蛮芋に蕃椒図		鶴亭筆	1幅	紙本淡彩
36. 牡丹綬帯鳥図	明和6年(1769)	鶴亭筆	1幅	絹本著色
37. 大根にねずみ図	自贊	鶴亭筆	1幅	紙本墨画
38. 墨梅図	安永7年(1778)悟心元明贊 安永4年(1775)	鶴亭筆	1幅	紙本墨画
39. 仏手柑に綬帯鳥図		鶴洲筆	1幅	絹本著色
40. 桃花図	宝暦7年(1757)	木村蒹葭堂筆	1幅	紙本淡彩

IV 黄檗墨蹟

41. 槩山遺芳(尺牘帖)		慧林、実伝、惟一、干呆ら筆	1帖	紙本墨書
42. 付与永照尼偈	宝永2年(1705)	慧極道明筆	1巻	紙本墨書

V 彫像類

43. 関羽像		范道生作	1軀	木造
44. 羅漢像	承応2年(1653)	赤星八左衛門・庄兵衛作	1軀	銅造
45. 伝鄭成功像			1軀	銅造

VI 参考図書

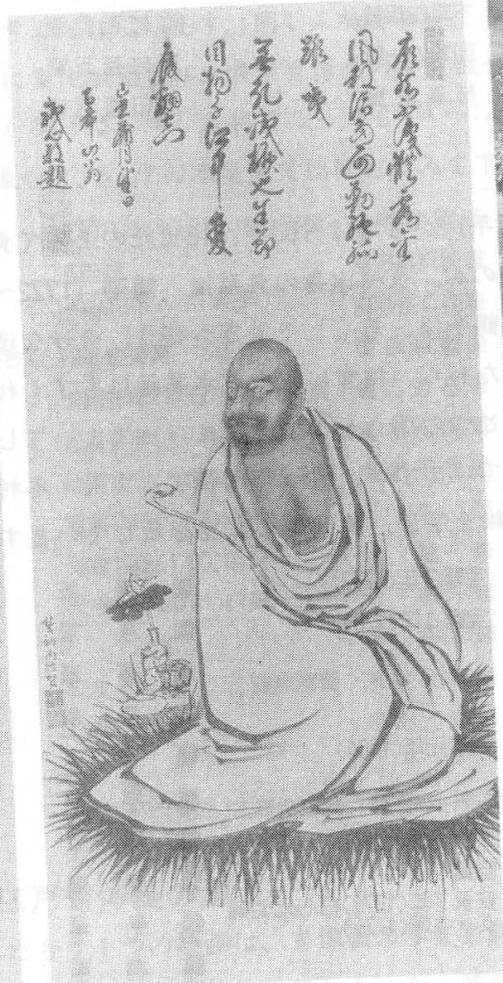
- 46. 隠元和尚雲滂三集
- 47. 先民伝
- 48. 長崎画人伝
- 49. 唐伝若芝鏝細工系図
- 50. 黄檗宗鑑録
- 51. 巽斎捐因(兼葭堂印譜)

寛文3年(1663)奥付 南源、高泉、暁堂、惟一編
 享保16年(1731)自叙 盧千里編
 文政2年(1819)刊 渡辺鶴洲著
 嘉永4年(1851)奥付 若芝是高再訂
 寛政2年(1790)再刊序
 享和2年(1802)跋 陸可彦編

2冊 木版墨摺
 2冊 木版墨摺
 1冊 手書
 1冊 手書
 2冊 木版墨摺
 1冊 手書・実捺



3. 隠元倚騎獅像



16. 陳賢筆 羅漢図



38. 鶴亭筆 墨梅図

南蛮のパトロン

桃山時代、南蛮ブームの火つけ役となったのは2人の天下人・織田信長(1534～1582)と豊臣秀吉(1536～1598)でした。信長は伝統文化の束縛をきらい、南蛮ものを愛好するとともに、キリスト教にも厚い保護を加えています。また秀吉は、天正15年(1587)に宣教師追放令を出し、キリスト教こそ禁止の姿勢をとりましたが、貿易の方は従来どおりという方針でした。世俗的な南蛮文化が爆発的な流行を見せるのは、まさにこの秀吉時代のことなのです。

- 1. 織田信長像(重要文化財) 天正11年(1583)古溪宗陳賛 桃山時代 1 幅
- 2. 豊臣秀吉像 桃山時代 1 幅

初期洋風画

天文18年(1549)イエズス会士ザヴィエルの来日以降、日本にもセミナリオやコレジオといった学校が作られ、油絵の技法や遠近法、陰影法といった西洋の写実的表現が、初めて日本へ伝えられました。礼拝用の聖画は、キリスト教弾圧の中でほとんど失われ、今は3など、わずかしが残っていませんが、信仰に直接関係のない世俗画は、大名などへの贈呈用だったと思われ、まどまって残されています。また、のちには10のように、西洋の技法で日本の伝統画題に取り組む画家も現われました。

- 3. 聖フランシスコ・ザヴィエル像 江戸時代初期 1 面
- 4. 泰西王侯騎馬図(重要文化財) 江戸時代初期 4曲1隻
- 5. ※水車のある西洋風俗図 桃山～江戸時代初期 6曲1隻
- 6. 西洋風俗図 桃山～江戸時代初期 6曲1双
- 7. 武将図 桃山～江戸時代初期 2曲1隻
- 8. ※師父読書図 伝信方筆 桃山～江戸時代初期 1 面
- 9. 老師父図 桃山～江戸時代初期 1 面
- 10. 達磨図 元禄15年(1702)雪村道香賛 江戸時代初期 1 幅

南蛮屏風と南蛮風俗画

桃山時代は、風俗画——現実の人間生活を主題とする絵画——が流行した時代ですが、中でも西洋人の渡来、交易の様子を描いた南蛮屏風は、珍奇で未知の風俗を楽しむ画題として喜ばれました。これらが発見されるのは、主に港町の豪商の家からで、水運業を営む市民層でとりわけ愛好されたことがわかります。のちに南蛮屏風は、南

蛮船イコール宝船、南蛮人は福の神、というような現世利益を願う俗信仰に支えられ、縁起ものとして鎖国後も描き続けられました。

11. 都の南蛮寺図	狩野宗秀筆	桃山時代	1	面
12. 南蛮屏風	狩野内膳筆	桃山時代	6曲1双	
13. 南蛮屏風(残欠)		江戸時代初期	4曲1隻	
14. 南蛮人交易図		江戸時代初期	1	幅
15. 花下群舞図(左隻)		桃山時代	6曲1双のうち	
16. 万国人物図		江戸時代初期	3帖のうち	

南蛮意匠の工芸

南蛮屏風に散りばめられている異国の風俗は、絵画ばかりでなく、より身近に日常生活で用いる工芸品の中にも登場しました。南蛮人や洋犬、鉄砲、かるたなどの南蛮モチーフ、あるいは縞、水玉など西洋風の幾何学文様が、異国風デザインとして器物を飾ったのです。その代表的なものは馬具や文房具といった漆工芸品ですが、陶器や服飾、金工品のジャンルにも、その影響は及んでいます。

17. 南蛮人洋犬蒔絵硯箱	桃山時代	1	合
18. 鉄砲蒔絵大鼓胴	桃山時代	1	個
19. 南蛮人蒔絵鞍	慶長9年(1604)	1	背
20. 南蛮人蒔絵箱	桃山時代	1	合
21. 永楽通宝銭・南蛮人象嵌鏡	桃山時代	1	対
22. 天正かるた版木重箱	桃山時代	1	合

輸出漆器

漆器は俗にJapanとも呼ばれるように、東洋独特の工芸品としてヨーロッパで人気を集めました。桃山時代には、来日した宣教師や商人らの注文によって数多くの外国向け漆器が作られ、海を渡ったのです。これらも大別するとキリスト教で用いる祭具と、一般で装飾品として用いる調度とに分けられますが、いずれも器形には西洋のデザインを基調とした上に、秋草など日本的な文様を施しており、東西文化の美しい融合が見られます。光り輝く螺鈿(夜光貝やアワビなどの貝片を薄くけずってはめこむ技法)の多用も、国内向けには見られない輸出用漆器の特色です。

23. 貝貼り書篋筒	桃山~江戸時代初期	1	個
24. 住吉社図蒔絵螺鈿鞍皮貼り鞍袋形洋箱	桃山~江戸時代初期	1	合

(※は個人蔵、それ以外は本館所蔵)

(4) ギャラリー

展覧会名	会期	内容
神戸ゆかりの芸術家たち展	5.5.13~5.19	金山平三・田村孝之介・林重義など神戸ゆかりの画家の作品を展示。
神戸ゆかりの芸術家たち展	5.6.30~7.11	柳原義達の彫刻とデッサンを展示。
川西 英版画展	5.9.22~10.24	神戸生まれの木版画家川西英の作品から風景を選んで展示。
神戸ゆかりの芸術家たち展	5.10.31~6.1.6	田村孝之助を中心とし、同時代に活躍した神戸ゆかりの画家たちの展示。
異国を描く浮世絵展	6.1.8~2.24	所蔵品の中から浮世絵の名品を選んでテーマを決めて展示。
山下 摩起展	6.2.26~4.10	神戸生まれの異色の日本画家山下摩起の作品を所蔵品の中から選んで展示。

川西 英 (1894-1965)

明治27年、神戸市兵庫区東出町に生まれる。兵庫で代々回船業と乾物米穀問屋を営む淡路屋を屋号とする商家の七男。本名、川西英雄。兵庫県立第二神戸中学校（現兵庫高校）から兵庫県立神戸商業へ転入学。在学中より洋画を制作。大正11年、兵庫東出郵便局長となり、以後、業務のかたわら版画を制作するようになる。関西での創作版画運動の草分け的存在。

大正12年、日本創作版画協会展に初入選以後、斬新で明快な作風の木版画を意欲的に制作、国内、国外の展覧会に発表する。昭和3年、国画創作協会展に初入選。7年、日本版画協会会員に推される。10年、国画会会員となる。

自分で下絵を描き、版を彫り、丹念に摺りあげるという自画、自刻、自摺をつらぬき、ブラック、マチス、カンディンスキー、レジェ、ミロなど主に画集を通じて多くの西欧の画家の作品からうけた刺激を、独自の造形感覚と卓抜な色彩感覚で消化、新しいスタイルの親密で装飾性の高い木版画を完成させた。近年、版画が重要な表現のひとつとして認識され、川西の評価はとみに高くなっている。

昭和24年、兵庫県文化賞。37年、神戸新聞平和賞。40年、神戸において没。

出品目録

作品名	制作年	技法	画面寸法
1. 神戸海岸風景	昭和4年(1929)	木版色摺	27.9×34.9cm
2. 湊川公園	昭和5年(1930)	木版色摺	26.5×33.9cm
3. 布引雌滝	昭和5年(1930)	木版色摺	26.8×34.3cm
4. 神戸居留地	昭和7年(1932)	木版色摺	32.2×38.5cm
5. 神戸百景の内 花隈	昭和10年(1935)	木版色摺	16.0×25.3cm
6. 神戸百景の内 クリスマス・セール	昭和10年(1935)	木版色摺	15.5×25.5cm
7. 神戸百景の内 西洋薬種店	昭和11年(1936)	木版色摺	15.0×24.0cm
8. 神戸百景の内 須磨海岸	昭和11年(1936)	木版色摺	15.5×25.5cm
9. 神戸百景の内 北野	昭和11年(1936)	木版色摺	15.5×25.5cm
10. 神戸百景の内 栄町	昭和11年(1936)	木版色摺	15.5×25.5cm
11. 古道具屋	昭和16年(1941)	木版色摺	45.3×60.3cm
12. 中華街 I	昭和19年(1944)	木版色摺	48.0×33.0cm
13. 舞子	昭和21年(1946)	木版色摺	21.5×25.8cm
14. 須磨浦残照	昭和22年(1947)	木版色摺	32.3×44.8cm
15. 元町初夏	昭和24年(1949)	木版色摺	48.3×32.2cm
16. 神戸背山・六甲山	昭和25年(1950)	木版色摺	23.6×33.1cm (23.2×33.3cm)
17. 港の祭	昭和26年(1951)	木版色摺	32.8×23.5cm
18. 神戸港(青)	昭和28年(1953)	木版色摺	24.6×33.6cm
19. 太山寺(秋の寺)	昭和30年(1955)	木版色摺	45.3×60.0cm
20. 夕映(兵庫港)	昭和32年(1957)	木版色摺	32.9×48.4cm
21. 港都(信号旗)	昭和32年(1957)	木版色摺	45.0×60.0cm
22. 国際海港	昭和32年(1957)	木版色摺	60.0×46.2cm
23. 海港展望台	昭和32年(1957)	木版色摺	60.0×45.1cm
24. 夜の港(アネモネ)	昭和32年(1957)	木版色摺	59.5×44.5cm
25. 露台	昭和32年(1957)	木版色摺	61.1×46.2cm
26. 港の歌	昭和35年(1960)	木版色摺	60.0×89.0cm
27. 港俯瞰(異人館)	昭和35年(1960)	木版色摺	32.9×48.4cm
28. 外国航路(クレセントビル)	昭和36年(1961)	木版色摺	24.2×32.9cm
29. 観光船	昭和36年(1961)	木版色摺	24.0×32.9cm
30. 神戸港(黄)	昭和38年(1963)	木版色摺	24.8×33.4cm
31. 神戸情緒	昭和39年(1964)	木版色摺	33.2×48.2cm
32. 神戸風景	昭和39年(1964)頃	アクリル板に油彩	74.0×59.0cm

作品保存のため会期中展示替えをすることがあります。

江戸時代の鎖国の世であっても、世界の地誌学上の知識としては、エジプトのピラミッドやロードス島の巨人像など、半ば伝説上の「名所」も知られていました。しかしそれは現在の私たちの世界地理の知識からは遙かに程遠く、日本人が的確に海外の事情を把握できるようになるのは、やはり近代以降のことのようです。

幕末から明治にかけて、例えばワシントン、ロンドン、パリといった、今日馴染み深い土地の存在が広く知れ渡りつつあったことは、ここに展示する浮世絵版画からもわかります。とは言え、これらに描かれた外国の風景が、私たちの知るそれとは大きくかけはなれているもの事実です。

これらに見られる多くの誤解と誇張が生まれた背景には、情報不足からくる混乱はもちろんのこと、身近になりつつあった欧米人とその風俗に対する驚きと戸惑い、そして彼らがもたらした圧倒的な文明の力への憧れとコンプレックスなどが交錯していたことでしょう。

近代日本の黎明期に多く描かれた、これら奇妙な異国風俗図の数々を通し、当時の人々を激しく揺り動かした様々な感情を読み取っていただければ、と思います。

表紙：二代歌川広重「英吉利西龍道大港」

橋本貞秀「亜墨利迦州爾波尔尼亚港出帆之図」

出品目録

I 《華盛頓・迦爾波尔尼亚・亜墨利加風景》

作品名	枚数	作者	年
1. 亜墨利加州内華盛頓府之景銅板之写生	3枚続	歌川芳員	文久元(1866)
2. 蛮国名勝尽競之内 亜墨利加華盛頓府	3枚続	歌川芳員	文久2(1866)
3. 北亜墨利加合衆国華盛頓府之図	3枚続	歌川芳員	慶応2(1866)
4. 北亜墨利加州	3枚続	歌川芳員	慶応2(1866)
5. 亜墨利迦州迦爾波尔尼亚港出帆之図	3枚続	橋本貞秀	文久2(1862)
6. 亜墨利加賑之図	3枚続	二代歌川広重	文久元(1861)

II 《龍動・把里須・欧羅巴風景》

7. 蛮国名勝尽競之内 英吉利龍動海口	3枚続	歌川芳員	文久2(1862)
8. 英吉利国●頓図	3枚続	歌川芳員	慶応2(1866)

— 山下 摩起 —

- | | | | |
|------------------------------------|-----|--------|-----------|
| 9. 各国繁花尽 英吉利ロンドン
VIEW IN LONDON | 3枚続 | 歌川芳盛 | 明治6(1873) |
| 10. 英吉利西龍道大港 | 3枚続 | 二代歌川広重 | 文久3(1863) |
| 11. 蛮国名勝尽競之内 佛蘭西把里須府 | 3枚続 | 歌川芳虎 | 文久2(1862) |
| 12. 新和蘭陀南和留連寿国之図 | 3枚続 | 月岡芳年 | 慶応2(1866) |

Ⅲ 《これでも西洋人》

- | | | | |
|---------------------------------------|----|-------|-----------|
| 13. 写真鏡 山嶽図 | 1枚 | 落合芳幾 | 文久元(1861) |
| 14. 写真鏡 涼岳図 | 1枚 | 落合芳幾 | 文久元(1861) |
| 15. 写真鏡 大象図 | 1枚 | 落合芳幾 | 文久元(1861) |
| 16. 写真鏡 美人図 | 1枚 | 落合芳幾 | 文久元(1861) |
| 17. 写真鏡 風船図 | 1枚 | 梅素亭玄魚 | 文久元(1861) |
| 18. 蛮国人物図絵 英吉利人 | 1枚 | 歌川芳艶 | 文久元(1861) |
| 19. 蛮国人物図絵 <small>いたりあ</small> 意太里亜国王 | 1枚 | 歌川芳艶 | 文久元(1861) |
| 20. 生写異国人物 亜墨利加女官●板●之図 | 1枚 | 橋本貞秀 | 万延元(1860) |

Ⅳ 《気球・機関車・文明の利》

- | | | | |
|----------------|-----|------|-----------|
| 21. 亜墨利加国蒸気車往来 | 3枚続 | 歌川芳員 | 文久元(1861) |
| 22. 佛狼西国 | 3枚続 | 歌川芳虎 | 慶応元(1865) |
| 23. 亜墨利加国 | 3枚続 | 歌川芳虎 | 慶応3(1867) |
| 24. 亜墨利加国 | 3枚続 | 歌川芳虎 | 慶応元(1865) |

Ⅴ 《世界七不思議とそのパロディ》

- | | | | |
|--|-----|------|-----------|
| 25. 新板阿蘭陀浮画 <small>おらんだ うきえ</small> 亜細亞洲巴必巒城 | 1枚 | 歌川国長 | 江戸時代 |
| 26. 新板阿蘭陀浮画 亜細亞洲第索祿王瑩墓 | 1枚 | 歌川国長 | 江戸時代 |
| 27. 新板阿蘭陀浮画 歐羅巴洲石造供木星人形 | 1枚 | 歌川国長 | 江戸時代 |
| 28. 新板阿蘭陀浮画 業徳海嶋銅人巨像 | 1枚 | 歌川国長 | 江戸時代 |
| 29. 新板阿蘭陀浮画 厄日多国尖形高台 | 1枚 | 歌川国長 | 江戸時代 |
| 30. 羅得島湊紅毛船入津之図 | 1枚 | 歌川国虎 | 江戸時代 |
| 31. 朝比奈島遊び | 3枚続 | 橋本貞秀 | 万延元(1860) |

日本画家・山下摩起(1890～1973)の名が広く知られるようになったのは、大阪四天王寺五重塔の壁画制作にたずさわった70才前後の頃からだった。昭和35年(1960)、これが一応の完成をみたとき、「この壁画は未完成である。私が生きているかぎり、筆に筆を加え、よりよきものへ画いていく」と摩起は語っている。この言葉は、彼の創作活動の徹底ぶりをよく示している。日本画の新たな可能性を切り開く摩起の挑戦と試みは昭和48年(1973)、83才で亡くなるまで続けられた。

有馬の旅館に長男として生まれた摩起は幼い頃から絵を描くことを得意とし、明治43年(1910)に20才で文展に入選、22才に文展で褒賞を受けるなど、日本画家としての出発は順調であった。だが早くから伝統的な日本画に飽きたらなくなり、画壇とはある距離をたもち、一方で洋画の制作も行い、新しい刺激を求めフランスへも渡った。後期印象派やキュビズムの洗礼を受けた摩起は、帰国後、六曲一双屏風の大作「雪」(西宮市大谷記念美術館)にみられるような斬新な表現を日本画に取り入れるようになった。

たたみ掛けるような色面の重なりと、のびやかで鋭い筆線を生かした摩起の作品は、新たな表現を得た彼ならではの成果だった。しかし彼の意欲も当時の画壇には通じず、昭和8年(1933)院展への「雪」の出展は右隻のみ入選という結果に終わった。締切に追われる公募展では実力が出し切れないと考えたのか、やがて公の展覧会への出品を断念、地元関西での個展にしか作品の発表を行わなくなり、画壇との距離は更に遠ざかる。こうして摩起の孤高な創作はますます深められていった。

以上の経歴に加え、特に水墨画の作品を多く描いたので、摩起は「異色の水墨画家」と評されることが多い。しかし花鳥などのテーマでは「異色」と言われるほどのあくの強さはみられず、むしろ清らかで気品に満ちている。画壇から離れて活動を続けた彼の内向的な一面が、これらの水墨画に反映されているかもしれない。

摩起の作品でもっとも観る者の目をひくものといえば、その執拗なタッチが印象に残る仏画の数々だろう。古典的な宗教芸術としての性格はうすめられ、視覚表現のあくなき追求から生まれた、画家の崇高さを具現した仏の姿がここにある。

表紙：1. 菩薩(紙本着色、個人蔵)

— 出品目録 —

1. 菩薩	Buddhist saint (Bosatsu)		紙本著色	
2. 観世音菩薩	Avalokitesvara (Kanzeon-bosatsu)		紙本墨画	
3. 菩薩座像	Buddhist saint (Bosatu)		紙本墨画	
4. 金剛力士 I	Deva king (Kongo-rikishi) I	1959年	紙本墨画	当館蔵
5. 金剛力士 II	Deva king (Kongo-rikishi) II	1959年	紙本墨画	当館蔵
6. 金剛力士 III	Deva king (Kongo-rikishi) III	1959年	紙本墨画	当館蔵
7. 如来座像	Tathagata (Nyorai)	1966年	紙本墨画	当館蔵
8. 多聞天	Vairavans (Tamonten)	1966年	紙本著色	当館蔵
9. 不動明王	Acala (Fudo-myoo)		紙本著色	当館蔵
10. 雪山	Snowy mountains		紙本墨画	
11. 溪山不尽	Boundless mountains and ravines	1957年	紙本墨画	当館蔵
12. 滝	Waterfall		紙本淡彩	当館蔵
13. 蓮池	Lotus pond	1957年	紙本淡彩	当館蔵
14. 鷺	Snowy herons	1961年	紙本墨画	当館蔵
15. 瑞鳥	Bird of luck		紙本淡彩	当館蔵
16. 葡萄に栗鼠	Grape and Squirrel		紙本淡彩	
17. 葡萄	Grapes		紙本墨画	
18. 柘榴 I	Punic apples		紙本淡彩	
19. 柘榴 II	Punic apples		紙本淡彩	
20. 早春	Early spring (Bamboo)		紙本墨画	当館蔵
21. 白梅	White-flowering Ume tree	1968年	紙本淡彩	当館蔵
22. 夜の梅	Ume tree in the night		紙本淡彩	当館蔵
23. 紅梅	Red-flowering Ume tree		紙本淡彩	当館蔵

※本展を開催するにあたり、所蔵品の出品など御協力をいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

3 学習室・図書室

(1) 学習室

学習室は、「見る、触る、考える」というテーマに基づいている。常設展示室の常設部門で十分に表現できない分野を具体的資料を自由に手で触り、動かして、その事物の感触を味わい、楽しみながら神戸の発展の姿を学習する情報資料提供の場で、次の3つのコーナーをもっている。

見るコーナー

博物館で資料展示が困難な、動きのある祭りや生産物の工程を示すもの、また建築物や、空からの都市景観、神戸の歴史などをビデオディスクを使って映像で紹介している。

これらは、リクエスト型のテレビで解説も日本語、英語のいずれでも聞けるようにしており、各自が自由に見たいものを選択できるようにしている。

触るコーナー

常設展示室の原始・古代部門に展示されている縄文時代、弥生時代、古墳時代の土器の模型を配置し、自由に触り、各時代の土器の解説を見聞きしながら、土器の感触を直接体験できるようにしている。

また、国宝桜ヶ丘出土の6号銅鐸のレプリカ（複製）にも触れ、銅鐸の音色を楽しんだり、壁面に描かれた古代人の生活想像画を見ながら、古代人のくらしを身近に感じてもらうというものである。

考えるコーナー

神戸に伝わる歴史や話題を、モニターテレビから放映される各コース5問題を視聴して、解答を考えていくのである。各席に備えつけられた操作盤の押ボタンを動かして、解答の正誤が、すぐにわかるようになっている。

各コースとも、1問題を2分程度のまとめ、10分間、このクイズを楽しむことができる。

(2) 図書室

この図書室は、神戸に関係したもの、東西文化交流に関係したもの、考古学に関係したもの、南蛮・紅毛美術に関係したものを4本柱としている。

館内の展示部門の基礎的理解を深めていきたい人、専門的に探究しようとする人たちのために気安く利用できる開架式の図書室である。

普及事業 — 各種催し物の開催 (平成5年度実績)

・博物館独自の事業

(1) 夏休み歴史散歩	5.7.28~29	2教室	38人
(2) 夏休み土器づくり教室	5.8.3~4	成形 講師 陶芸家 西念氏 2教室	62人
	5.8.20	焼成	32人
			(小計 132人)

・共催事業

(1) ミュージアム・コンサート	5回	1,150人
(2) 映画上映会 (神戸国際インデペンデント映画祭)	5回	1,949人
(3) 映画上映会 (ムンク)	3回	532人
(4) 映画上映会 (93K O B E 国際映画祭)	2回	592人
(5) 神戸の将来像/イメージ提案コンクール	1回	175人
(6) ひとり芝居	2回	318人
(7) 邦楽サロン	8回	1,041人
(8) 午後のシャンソン	8回	1,508人
(9) その他	7回	684人
		(小計41回) (小計 7,949人)
		合計 8,081人

----- (参考) -----

共催団体一覧

1. 神戸市民文化振興財団 (ミュージアムコンサート)	5回
2. 邦楽鑑賞会	8回
3. 神戸芝居カーニバル実行委員会	2回
4. 神戸映画サークル協議会	3回
5. KCC	1回
6. 神戸映画大賞実行委員会	7回
7. シャンソン協会 (午後のシャンソン)	8回
8. その他	7回

平成5年度事業一覧

	常設展示室 1, 2, 3, 4, 5	特別展示室 1	南蛮美術室	特別展示室 2	ギャラリー	普及事業
4月	日本と外国との文化交流のようすを神戸に焦点をあてながら展示	<特別展> ルーヴル美術館2000年展 3/20(土)~5/9(日) (岡・塚原・松谷)				夏休み歴史散歩 (7/28・7/29) 夏休み土器づくり教室 (8/3・8/4・8/20)
5月		5/13(木)~5/19(水) 神戸ゆかりの芸術家たち展 (岡・塚原)		アーバンリゾートフェア神戸'93		
6月		<特別展> 花と鳥たちのパラダイス展 5/22(土)~6/27(日) (成澤・森田・塚原)		「トーマス・マックナイト展」 5/22(土)~6/27(日) (前田・国木田・松谷)		
7月				神戸ゆかりの芸術家たち展 6/30~7/11(日)		
8月		<特別展> 栄光のオランダ絵画と日本展 7/24(土)~9/19(日) (岡・三好)		アーバンリゾートフェア神戸'93 「7-キタチヤ展・タイムズ神戸」 7/17(土)~9/19(日) (宮本・田井)		
9月						
10月		[南蛮企画展] 黄檗美術展 (成澤・勝盛) 9/25(土)~10/23(土)	アーバンリゾートフェア神戸'93 「印象-神戸 絵画展」 (塚原・岡・松谷)	川西 英 版画展 9/22(水)~10/24(日) (岡・塚原)		
11月		燻 蒸 10/25(月)~10/30(土)				
12月		<企画展> 西洋人の描いた日本地図展 (三好・前田)	<特別展> 太山寺展 (問屋・宮本・磯辺) 11/3(水)~12/19(日)		神戸ゆかりの芸術家たち展 (岡・塚原)	
1月					10/31(日)~1/6(木)	
2月		[古地図企画展] 古地図名品展 (三好・前田)	[南蛮企画展] 南蛮美術名品展 (成澤・勝盛)	<企画展> 新収蔵品展 (問屋・田井・磯辺) 1/8(土)~2/20(日)	浮世絵展 (塚原・成澤) 1/8(土)~2/24(木)	
3月		<特別展> アイルランド国立美術館展 2/26(土)~4/10(日)		<企画展> 装飾須恵器展 (森田・宮本)	山下摩起展 (塚原・成澤・岡) 2/26(土)~4/10(土)	

特別展開催日数 184日 企画展・常設展開催日数 99日 開催総日数 283日

収蔵資料

1 新収資料

(1) 受贈資料

資料名	数量	寄贈者名
兵庫県管内河川港湾図(昭和12年)	1枚	井上聡明
陸地測量部出版地図区域一覽図	1枚	"
大正3年特別大演習修正版地形図	1枚	"
古瓦片	34点	間島保夫
明治拾六年郵便汽船出港定日表	1枚	草山巖
神戸名所写真帳	1冊	楠瀬貞子
三木朋太郎 ヴェトイユ風景A	1面	今井徳七
汐留ヨリ横浜まで鉄道開業御乗初詣人拝礼之図 三代広重画	3枚続	上川庄二郎
横浜海岸鉄道蒸気車図 三代広重画	3枚続	"
横浜往返鉄道蒸気車ヨリ海上之図 三代広重画	3枚続	"
東京横浜蒸気車鉄道之図 立斎広重画	3枚続	"
神奈川入河景蒸気車鉄道図 三代広重画	3枚続	"
横浜往返鉄道蒸気車全図 三代広重画	3枚続	"
東京名勝高縄鉄道の図 三代広重画	3枚続	"
東京八ツ山下海岸蒸気車鉄道図 三代広重画	3枚続	"
西京神戸之間鉄道開業式諸民拝見之図 三代広重画	3枚続	"
横浜新埋地高嶋町揚屋三階造海岸遠景之図 三代広重画	3枚続	"
東京品川海辺蒸気鉄道之真景 三代広重画	3枚続	"
東京名所之内 銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図 三代広重画	3枚続	"
横浜新地蒸気車鉄道之真景 三代広重画	3枚続	"
東京八ツ山下蒸気車往復鉄道之図 三代広重画	3枚続	"
蒸気車出発 三代広重画	3枚続	"
御発輩從新橋ステーション御乗車之図 三代広重画	1枚続	"
東京品川海岸蒸気車鉄道之図 三代広重画	1枚	"
東京開華名所図絵之内 志ん者し鉄道寮 三代広重画	1枚	"
東京開化三十六景 高輪大木戸 三代広重画	1枚	"
東京名所図会 品川八ツ山下鉄道 三代広重画	1枚	"
東京名所図会 品川鉄道 汐留ステーション 三代広重画	1枚	"
東京名所図会 金杉橋より芝浦の鉄道 三代広重画	1枚	"
東京横浜名所一覽図会 横浜道ひらぬま新地 三代広重画	1枚	"
東京名所 新橋ステーション蒸気車図 三代広重画	1枚	"
東京名所 芝浦 鹿島神社寮 三代広重画	1枚	"
東京名所図絵 汐留鉄道館 三代広重画	1枚	"
東京名所図絵 八ツ山下の鉄道 三代広重画	1枚	"
東京名所写真十二景 汐留蒸気車ステーション 三代広重画	1枚	"
東京名所図絵 新橋ステーション蒸気の発車 三代広重画	1枚	"
東京横浜名所一覽図会 高輪蒸気車鉄道 三代広重画	1枚	"

資料名

資料名	数量	寄贈者名
東京開化卅六景 新ばし鉄道館 三代広重画	1枚	上川庄二郎
東京名所美人揃 芝浦の鉄道蒸気車 三代広重画	1枚	"
東京高輪鉄道蒸気車全米図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京高輪蒸気車鉄道之全図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京名勝之内 高輪蒸気車鉄道全図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京汐留鉄道蒸気車通行図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京汐留工部省鉄道蒸気車築地海軍司保天留觀景之図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京新橋煉花石鉄道蒸気車真景図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京蒸気車馬車人力繁米図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京高輪往來車盡行合之図 一曜齋国輝画	3枚続	"
東京各大区之内 新ばしステーション 一曜齋国輝画	1枚	"
東京各大区之内 芝金杉橋遠景 一曜齋国輝画	1枚	"
鉄道開業新橋夜景図 孟齋芳虎画	3枚続	"
横浜海岸鉄道之図 芳虎画	3枚続	"
東京蒸気車之図 孟齋芳虎画	3枚続	"
芝口汐留橋ヨリ鉄道館一覽之図 永島孟齋画	3枚続	"
東京高輪海岸蒸気車鉄道走行之全図 一孟齋芳虎画	3枚続	"
七福神蒸気車乗発図 芳虎画	3枚続	"
車づくし 芳虎画	3枚続	"
新開名所 志ほ留鉄屋館 孟齋画	1枚	"
高輪蒸気車之図 芳虎画	3枚続	"
六郷蒸気車鉄道之図 昇齋一景画	3枚続	"
高輪鉄道よ里汐留鉄道一覽之図 広好一景画	3枚続	"
汐留与里蒸気車通行の図 昇齋一景画	3枚続	"
高輪鉄道蒸気車之図 昇齋一景画	3枚続	"
開化因循興発鏡 昇齋一景画	3枚続	"
東京名所三十六戲撰 高なわ 昇齋一景画	1枚	"
從東京上野至武州熊ヶ谷蒸気車往復繁米之図 栄齋重清画	3枚続	"
上野高崎間鉄道之図 栄齋重清画	3枚続	"
東京浅草金龍山並ニ鉄道馬車繁米之図 栄齋重清画	3枚続	"
横浜鉄道蒸気出車之図 梅堂国政画	3枚続	"
東京新橋 鉄道繁米并高輪遠景 梅堂国政画	3枚続	"
蒸気車鉄道往返之図 梅堂国政画	1枚	"
横浜鉄道蒸気出車之図 梅堂国政画	3枚続	"
大元帥陛下凱旋御着京之図 国政画	3枚続	"
新橋停車場 福嶋中佐着車之図 小国政画	3枚続	"
東京名所之内 上野山下鉄道蒸気車之図 梅寿国利画	3枚続	"
東京名所釐上野山下鉄道真景 梅寿国利画	3枚続	"
横浜ステーション之図 豊重画	3枚続	"
横浜新海地高嶋町鉄道之真景 豊重画	3枚続	"
横浜高嶋神風桜之図 歌川国松画	3枚続	"

資料名	数量	寄贈者名
神戸名所の内 生田川鉄道蒸気 小信画	1枚	上川庄二郎
日本西洋船づくし并二風船の図 蒸気車鉄道通行の図 小信画	1枚	"
横浜ステーション蒸気入車之図並海岸洋船 燈明大を眺望す 国鶴画	3枚続	"
新橋鉄道館 五雲亭貞秀画	3枚続	"
高縄鉄道之図 一魁齋芳年画	3枚続	"
明治小史年間紀事 皇后宮西京行啓鉄道館発車之図 一魁齋芳年画	3枚続	"
東京名所上野停車場之真景 幾英画	3枚続	"
新橋ステーション之賑 楊州周延画	3枚続	"
皇太后宮還御図 楊州齋周延画	3枚続	"
鍔道停車場 石齋治明画	3枚続	"
大日本鉄道発車之図 勝月画	3枚続	"
新橋馬車通行之図 榎寿国登志画	3枚続	"
東京名所 上野山下ステーション開業式汽車発車之図 長谷川国吉画	3枚続	"
東海道上り列車 鉄道寿語六 長谷川国吉画	1枚	"
東京名勝 開化真景 新橋鉄道 竹葉画	1枚	"
横浜名所の内 蒸気車館昌栄之図 永林画	1枚	"
上野公園 国秀画	1枚	"
高輪牛町朧月景 小林清親画	1枚	"
川口鉄橋 井上安治画	1枚	"
ステーションノ雪 井上安治画	1枚	"
上野ステーションノ 井上安治画	1枚	"
東京十二月之内四月 品川之景 国一画	1枚	"
東京駅 笠松紫浪画	1枚	"
八ツ山鉄道之図 作者不詳	1枚	"
伊勢名所 順路之図 作者不詳	1枚	"
東海道中貴社双六 作者不詳	1枚	"
鉄道線路 改正明細皇国測量全図	3枚続	"
官許 汽車発着時刻表 全賃金表	1枚	"
神戸兵庫 両港市街之図 京阪神汽車発着時刻表	1枚	"
汽車時刻京都発引札	1枚	"
大阪名所 住吉乃月景 基春画	1枚	"
東京名所 品川沖之景 春孝画	1枚	"
東京名勝 新橋停車場と高輪泉岳寺 延一画	1枚	"
東海道鉄道興津浜真景	1枚	"
高輪より品川沖之秋景	1枚	"
東京名所 新橋停車場	1枚	"
遼陽停車場汽車破壊及露兵潰走之光景	1枚	"
大阪伊賀汽車積荷物運送所引札	1枚	"
鉄鋼釘金物商引札	1枚	"
男女用蛇目寺院用長柄盆踊全基他提灯類引札	1枚	"
従汐留横浜迄蒸気車鍔道往迎之図 三代広重画	3枚続	"
芝汐留鉄道蒸気車通行之図 昇齋一景画	3枚続	"

(2) 購入資料

資料名	数量	資料名	数量
ア 絵画・彫刻			
松尾秀山筆 紅毛人図	2面	染付花卉に洋文字文鉢	1点
海獣図瓦版	1枚	染付花卉に西洋風景図水差	1点
村田鶴皐筆 失姓肖像	1幅	染付花卉に鯉図杯洗	1点
河村若芝筆 豊干騎虎図	1幅	染付花卉図盃台	1点
范道生筆 羅漢図	1幅	染付西洋風景図鉢	1点
元香筆 虎図	1幅	染付瓢箪に西洋風景図火入	1点
金谷三石筆 新柳叭々鳥図	1幅	染付紅毛人に西洋風景図八角火入	1点
鶴亭筆 墨梅図	1幅	染付西洋風景図鉢	1点
武勇魁図会 英泉画	1冊	染付花卉に西洋風景図杯洗	1点
宇治川先陣争図 貞秀画	3枚続	染付褐釉西洋風景図水滴	1点
東風俗福つくし ふくどく 橋本周延画	1枚	染付花卉に西洋風景図植木鉢	1点
東風俗福つくし 洋ふく 橋本周延画	1枚	染付西洋風景図焔炉	1点
東風俗福つくし 大礼ふく 橋本周延画	1枚	染付西洋風景図焔炉	1点
貴女裁縫之図 安達吟光画	3枚続	染付千鳥文鉢	1点
教育誉之手術 東洲勝月画	3枚続	染付洋文学に蓮花文盃	1点
開化因循興廃鏡 昇齋一景画	3枚続	染付紫釉青海波水文水注	1点
本朝武勇鑑 熊谷次郎直実 国芳画	1枚	染付鳥文角形向付	1点
本朝武勇鑑 無官大夫敦盛 国芳画	1枚	染付異国風景図盃洗	1点
洛中洛外図	1隻	反射式のぞき眼鏡	1点
戸田忠翰筆 白鷺追兔図	1幅	色絵紅毛人立像大皿	1枚
雀亭筆 牡丹岩小禽図	1幅	色絵岩に紅毛人文八角皿	1枚
鶴洲筆 梅に叭々鳥図	1幅	カットガラス瓶	2点
鶴洲筆 山水図	1幅	色絵松に紅毛人文蓋付碗	5客
新形三十六怪撰 布引滝悪源太義平霊討	1枚	色絵松に紅毛人文蓋付碗	5客
難波治郎		色絵松に紅毛人文蓋付碗	5客
元川嘉津美 旧居留地15番館	1枚	染付杖を持つ紅毛人文蓋付碗	5客
当時形勢はやりすたり見立取組角力	1枚	染付紅毛人立像六角向付	5口
舶来大象之図 芳盛画	1枚	染付紅毛人立像八角向付	5口
		染付紅毛人立像向付	5口
		染付龍に毛人立像六角向付	2口
イ 工芸品		切子藍色被せガラス栓付瓶	1点
染付西洋風景に騎馬人物図皿	1枚		
染付瓢箪に金魚文杯洗	1枚		
染付洋文字に異国風景図三段重	1点	ウ 書籍・典籍	
染付龍に蛸唐草文茶入	1点	装剣奇賞	7冊
染付山水図火入	1点	キルヒャー 地下世界 (1665年刊)	2冊

資料名	数量	資料名	数量
エ 考古資料			
東播系中世須器甕	1点	タブリュ・エム・ストラカン会社広告	1枚
画文帯神獸鏡	1点	JAPAN DIARY (1902)	1冊
珠文鏡	1点	外国人入京免状	1枚
		真光寺大仏	1件
		神戸港等	1件
オ 歴史資料		神戸名所絵葉書等	51枚
諸荷物廻漕問屋細川治右衛門引札	1枚	ハンセル氏個人アルバム	1冊
寺島宗則書簡(伊藤俊介宛)	1通		
某書簡(中島判事宛)	1通		
新板新古見立尽	1枚	カ 地図・絵図	
馬鹿ノ番付	1枚	ファルク アジア図	1枚
俳諧兎の目	1冊	陸測一万分一地形図 神戸近傍	12枚
神戸市水道増設工事一般平面図	1枚	伊能忠敬測量 江戸実測図	1舗
バーガレー氏個人アルバム	1冊	オッテンス 太平洋図(1745年)	1枚
布引雌滝・居留地海岸通(古写真)	1枚	デ・ウィット 太平洋図(1675年)	1枚
布引付近から神戸港を望む(古写真)	1枚	アジア図(1792年)	4枚
雑居地海岸通(古写真)	1枚	コイレン 太平洋図(1738年)	1枚
神戸名所等絵葉書	14枚	アラート インド洋図(1700年)	1枚
小曾根氏旧蔵写真・乾板	1件	ロッシ 中国日本図(1682年)	1枚
昭和天皇玉津寮視察関係写真	7枚	アラート アジア図(1690年)	1枚
六甲山電気鉄道敷設関係資料	一括	新タルタリア図(1738年)	1枚
馬鹿の番付(明治15年)	1枚	日本内海 神戸港	1枚
神戸市社会事業分布図	1枚		
日本紳士録(大正2年)	1冊	キ 複製・模造・模型	
日本紳士録(大正16年)	1冊	鳥取県泊銅鑄複製	1点
日本紳士録(昭和6年)	1冊	東京銀座通電気燈建設之図(復刻)	1枚

(2) 特別利用

1. 館外貸出

年度	件数	貸出先	貸出点数
61	43	41	435
62	39	33	448
63	39	36	316
1	49	46	435
2	48	46	459
3	45	52	542
4	44	58	318
5	54	71	392

2. 特別利用

	61年度		62年度		63年度		元年度	
	件	点	件	点	件	点	件	点
熱 覧	51	426	60	424	56	447	23	246
模 造	1	5	4	4	4	8	4	6
撮 映画テレビ	7	29	30	92	43	171	24	131
影 写 真	43	231	79	407	64	475	52	213
掲 載 許 可	210	522	258	724	266	779	290	606
原 版 使 用	171	528	194	645	212	705	220	587
紙 焼 付 与	22	69	48	248	40	138	38	121
そ の 他			25	78	30	140	25	86
合 計	505	1,810	698	2,622	715	2,863	676	1,996

	2年度		3年度		4年度		5年度	
	件	点	件	点	件	点	件	点
熱 覧	46	378	21	262	35	295	42	277
模 造	3	5	7	10	5	5	4	5
撮 映画テレビ	34	119	56	198	59	237	51	229
影 写 真	40	257	31	299	53	462	44	198
掲 載 許 可	289	746	427	1,228	411	1,194	367	747
原 版 使 用	240	853	361	973	334	927	312	879
紙 焼 付 与	31	92	29	151	48	373	27	83
そ の 他	36	90	39	263	54	320	74	265
合 計	719	2,540	971	3,384	999	3,813	921	2,683

入館者数

(単位：人)

1 経年		59	60	61	62	63	元		2	3	4	5
区分	年度											
開催日数	特別展	115	140	128	164	138	217	128	177	149	185	
	常設展	169	143	156	125	146	69	157	108	135	180	
	計	284	283	284	289	284	286	285	285	284	283	
入館者数	特別展	51,904	104,422	94,790	106,840	93,177	278,962	104,831	155,037	165,150	619,896	
	常設展	27,901	32,092	31,918	23,572	37,136	13,944	40,321	25,335	35,016	49,622	
	計	79,805	136,514	126,708	130,412	130,313	292,906	145,152	180,372	200,166	669,518	
1日平均	特別展	451	746	741	651	675	1,286	819	876	1,108	3,351	
	常設展	165	224	205	189	254	202	257	235	259	276	
	計	281	482	446	451	459	1,024	509	633	705	2,366	

入館者数

2 年齢・階層別

(単位：人)

区分	4年度計 (特別展)		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	5年度計
	284 (149)	25 (25)	25 (17)	23 (24)	25 (24)	23 (7)	26 (26)	24 (17)	21 (0)	23 (23)	22 (17)	22 (0)	22 (2)	27 (27)	283 (185)
常設	24,395	—	3,975	7,862	3,946	3,853	4,854	5,990	408	3,448	3,924	38,260			
高大生	3,450	—	539	884	315	434	357	653	56	256	301	3,795			
展 小中生	7,171	—	1,171	704	637	445	554	2,545	30	390	1,091	7,567			
示 小計	35,016	—	5,685	9,450	4,898	4,732	5,765	9,188	494	4,094	5,316	49,622			
特別	130,932	278,944	172,694	9,230	4,594	15,938	12,435	—	8,085	5,204	1,943	21,492	530,559		
別 高大生	17,260	28,186	17,719	783	422	1,636	988	—	745	1,182	166	2,270	54,097		
展 小中生	16,958	14,454	11,137	281	440	2,216	404	—	2,304	1,147	79	2,778	35,240		
示 小計	165,150	321,584	201,550	10,294	5,456	19,790	13,827	—	11,134	7,533	—	2,188	26,540	619,896	
事業	9,244	0	602	3,085	38	94	0	1,350	164	653	791	717	8,081		
合計	209,410	321,584	207,837	22,829	10,392	24,616	19,592	10,538	11,298	8,614	4,747	8,295	27,257	677,599	
入館者数/日	737	12,863	9,036	913	452	947	816	502	491	392	216	377	1,010	2,394	

※5月22日より6月27日、7月24日より9月19日までの期間は常設展、特別展は別々にカウント

3 特別展

展覧会名 期 会 (日数)	ルーヴル美術館2000 年展 3.20~5.9 (44)		花と鳥たちのパラ イス展 5.22~6.27 (32)		栄光のオランダ絵画 と日本展 7.24~9.19 (50)		太山寺の名宝展 11.3~12.19 (40)		アイランド国立美 術館名品展 2.26~4.10 (38)		計 (204)
	個人	入館料	個人	入館料	個人	入館料	個人	入館料	個人	入館料	
一般 □:シム 再掲	1,300	119,937	800	6,246	1,100	14,918	800	7,174	1,100	14,343	162,618
	1,000	9,322	600	869	800	2,553	600	477	800	851	14,072
	1,100	308,991	700	326	950	2,708	700	190	950	6,519	318,734
	[3,679]	438,250	[409]	7,441	[951]	20,179	[1,018]	7,841	[1,129]	21,713	[7,186]
大学生	1,000	17,934	700	684	950	1,820	700	1,338	950	1,600	23,376
	700	6,685	500	192	700	133	500	128	700	55	7,193
	800	28,456	600	39	800	334	600	20	800	678	29,527
		53,075		915		2,287		1,486		2,333	60,096
高校生			550	83	800	632	550	234	800	463	1,412
			300	512	450	48	300	170	450	59	789
			500	0	650	63	500	0	650	291	354
				595		743		404		813	2,555
小中生	500	11,049	300	81	350	1,310	300	161	350	666	13,267
	350	1,251	150	36	250	101	150	755	250	315	2,458
	400	14,880	250	2	300	78	250	7	300	361	15,328
		27,180		119		1,489		923		1,342	31,053
計		518,505		9,070		24,698		10,654		26,201	589,128
		3,244		1,628		2,741		1,443		2,487	11,543
ミュージアム・カード		73,086		3,854		11,634		6,570		11,892	107,036
		594,835		14,552		39,073		18,667		40,580	707,707
無料											
合計											
入館者数/日		13,519		455		781		467		1,068	3,469

日誌

- 平成5年 4月29日 ・開館時間延長を実施、午前9時30分～午後6時(5月9日まで)
- 5月3日 ・ループ展最高入館者、25,535人
- 5月9日 ・ループ展最終日、午後7時閉館
(最終入館者 594,835人)
- 5月13日 ・神戸ゆかりの芸術家たち展(～19日まで)
- 5月15日 ・蜃気楼「永遠のはじまり」上演(16日も)
- 5月22日 ・特別展「花と鳥たちのパラダイス」展開催(6月27日まで)
・「トーマスマックナイト」展開催()
- 5月23日 ・神戸の将来像/イメージ提案コンクール開催
- 5月30日 ・国際文化交流シンポジウム開催。「今、地球は泣いている」
- 6月5日 ・KOBÉ国際映画祭上演(6日も)
- 6月8日 ・神戸国際インディペンデント映画祭上演(～12日まで)
- 6月19日 ・ひとり芝居 河東 けい「母」上演(20日も)
- 6月30日 ・神戸ゆかりの芸術家たち展(～7月11日まで)
- 7月11日 ・特別有料試写会「病院で死ぬということ」上映
- 7月17日 ・アーキテクチュアフェア「タイムトンネル神戸展」開催
(9月19日まで)
- 7月24日 ・特別展「栄光のオランダ絵画と日本展」開催
()
- 7月27日 ・博物館実習生受入〔31日まで(16名)、以後8月3日～
7日(19名)24日～28日(14名)計20大学49名〕
- 7月28日 ・夏休み歴史散歩(29日も)
- 7月29日 ・神戸市立博物館協議会開催(5年度第1回)
- 8月3日 ・夏休み土器づくり教室実施(4日も)
- 8月7日 ・「栄光のオランダ絵画と日本展」講演会(成瀬 不二雄氏)
- 8月20日 ・土器づくり教室で作った土器の焼成。(神戸市立自然の家)
- 8月28日 ・「栄光のオランダ絵画と日本展」講演会(西村規矩夫氏)
- 9月22日 ・ギャラリー展「川西 英版画展」開催(10月24日まで)
- 9月25日 ・企画展「黄檗美術展」および「印象 神戸」絵画展開催
(10月23日まで)
- 9月30日 ・アーバンリゾートフェア神戸'93終了
- 10月1日 ・第12期ミュージェンヌ仕事始め

- 10月 9日 ・映画会「ムンク愛のレクイエム」上映（11日まで）
- 10月16日 ・邦楽サロン開催（1月22日まで、全8回）
- 10月23日 ・二十弦箏と打楽器・琵琶のジョイントコンサート
- 10月31日 ・ギャラリー展「神戸ゆかりの芸術家たち展」（1月6日まで）
- 11月 3日 ・特別展「太山寺の名宝展」および企画展「西洋人の描いた日本地図展」
開催（12月29日まで）
- 11月 6日 ・「太山寺の名宝展」講演会（石田 善人氏）
- 11月 7日 ・映画会「風の子どものように」上映（14日も）
- 11月27日 ・「太山寺の名宝展」講演会（百橋 明穂氏）
- 平成6年 1月 8日 ・企画展「古地図名品展」「南蛮美術名品展」「新収藏品展」および
ギャラリー展「浮世絵展」開催
- 2月 6日 ・午後のシャンソン（3月27日まで、全8回）
- 2月26日 ・特別展「アイルランド国立美術館名品展」、企画展「装飾須恵器展」
およびギャラリー展「山下摩起展」開催（4月10日まで）
- 3月24日 ・神戸市立博物館協議会開催（5年度第2回）
- 3月27日 ・「午後のシャンソン」最終日（2月6日から毎週日曜日に実施、
計8回）

予 算

(単位 千円)

年度 項目	元	2	3	4	5
資料購入費	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
資料整理費等	23,752	93,407	23,087	23,087	24,317
特別展等開催費	88,857	85,550	81,916	110,400	295,390
普及事業費	20,939	20,925	22,596	22,635	21,486
光熱水費	36,000	36,000	36,000	36,000	34,920
施設管理費等	73,129	76,455	79,222	83,594	83,578
事務費等	23,449	17,042	17,407	17,939	26,979
合計	346,099	409,379	340,228	373,655	566,670

博物館協議会

会 長

林 雪 光 元神戸市外国語大学学長 (学識経験)

副 会 長

池 上 忠 治 神戸大学文学部教授 (")

委 員

石 田 照 明 神戸市立小学校教育研究会社会科部会長 (花山小学校長) (学校教育)

永 森 幸 雄 神戸市立中学校教育研究会社会科部会長 (太山寺中学校長) (")

中 野 武 神戸市立高等学校教育委員会社会科部会長 (御影工業高等学校長) (")

前 田 薫 神戸市青少年団体連絡協議会顧問 (社会教育)

土 井 芳 子 神戸市婦人団体協議会名誉会長 (")

峯 松 文 男 神戸市PTA協議会広報専門委員長 (")

竹 下 義 孝 神戸労働者福祉協議会副会長 (")

荒 尾 親 成 元神戸市立南蛮美術館長 (学識経験)

石 毛 直 道 国立民族学博物館第一研究部長・教授 (")

石 田 善 人 神戸女子大学文学部教授 (")

貝 原 六 一 洋画家 (")

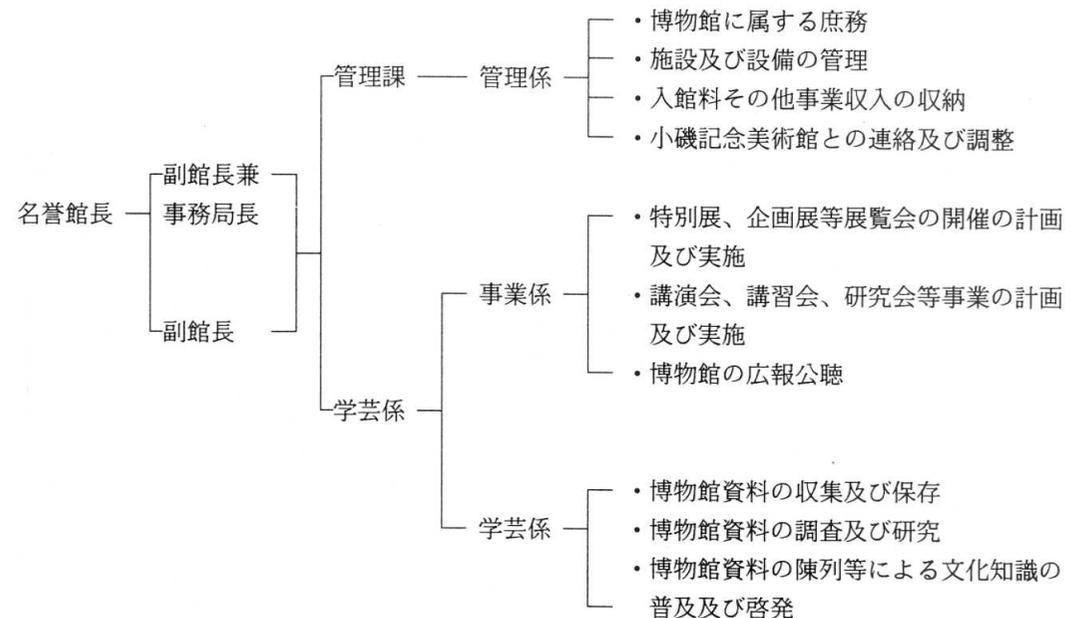
町 田 章 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長 (")

吉 村 元 雄 関西学院大学文学部教授 (")

高 尾 一 彦 大阪樟蔭女子短期大学教授 (")

組織・職員

組 織(6.3.31 現在)



職 員

館 長	宮 崎 辰 雄	指導主事	前 田 和 宏 (歴 史)
副館長兼 事務局長	林 伸 次 郎	事務職員	山 中 健
副 館 長	崎 山 昌 廣	"	辻 井 美 和
管理課		学 芸 員	国木田 明 子 (文化人類)
管理課長	和 田 宣 一		岡 泰 正 (美 術)
管理係長	足 立 健	学芸係長	塚 原 晃 (")
事務職員	宮 津 時 夫	学 術 員	松 谷 武 夫 (")
"	岡 本 安 弘		宮 本 郁 雄 (考 古)
学芸課			問 屋 真 一 (歴 史)
学芸課長	喜 谷 美 宜 (考 古)		田 井 玲 子 (")
調査役	神 崎 義 幸		森 田 稔 (考 古)
事業係長	伊 藤 智 充		勝 盛 典 子 (歴 史)
指導主事	磯 辺 次 雄 (歴 史)		三 好 唯 義 (地 理)
			成 澤 勝 嗣 (美 術)

職員の変動

5.4.1 赤木 康司 (学芸課) 転出	5.4.1 磯辺 次雄 (学芸課) 港島中学校より転入
5.4.21 武川 一志 (学芸課) "	5.4.21 辻井 美和 (学芸課) 北区より転入

